岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第545集

松屋敷（まつやしき）遺跡第２次発掘調査報告書

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

２００８

岩手県教育委員会事務局教育企画室

(財)岩手県文化振興事業団

松屋敷遺跡第２次発掘調査報告書

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県では旧石器時代をはじめとする一万箇所以上の遺跡の所在が知られており、地中には貴重な埋蔵文化財が豊富にのこされています。地域の風土が生み出したこれらの遺産は、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であるとともに、岩手県民のみならず国民的な財産といえます。現代に生きる私たちが、これらの埋蔵文化財を将来にわたって大切に保存し、その活用に力を注ぐべきであることは言うまでもありません。

一方、豊かな地域づくりのためには社会資本の整備・充実が必要不可欠であることもまた事実です。故郷の大地と共にある埋蔵文化財の保護と開発行為との調和は、現代社会に暮らしを営む私たちに与えられた大きな課題といえましょう。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を実施し、調査成果を記録化し保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、県立松園養護学校整備事業に伴い発掘調査を実施した盛岡市松屋敷遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代中期中葉を中心とする竪穴住居跡や土器・石器等の遺物が検出され、平成５年度に実施された第１次調査の成果に加え、当時の様相をより一層明らかにする考古学的資料を得ることができました。

本書が学術研究や教育活動などに広く活用されることにより、埋蔵文化財への理解と関心が一層深められ、ひいては埋蔵文化財保護思想の涵養に資するものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県教育委員会事務局教育企画室、盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武 田 牧 雄

例　　言

1　本書は岩手県盛岡市上田字松屋敷11－25ほかに所在する松屋敷第２次調査の成果を収録したものである。

2　岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号はＫＥ86－2378、調査略号はＵＭＹ07－02である。

3　本遺跡の発掘調査は、県立松園養護学校整備事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、岩手県教育委員会事務局教育企画室の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施したものである。

4　野外調査を実施した期間／調査面積／調査担当者は下記の通りである。

平成19年９月３日～平成19年12月５日／780㎡／村上　拓・横山寛剛

5　室内整理の期間／担当者は下記の通りである。

平成19年11月１日～平成20年２月15日／村上　拓・横山寛剛

平成19年10月19・23・24日には、松園養護学校の生徒に公開授業を行った。

6　本文の執筆は以下のとおりである。

岩手県教育委員会事務局教育企画室・・・Ⅰ

村上　拓・・・Ⅳ１、Ⅳ２（１）～（４）・Ⅳ３（２）・（３）、Ⅴ１

横山寛剛・・・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ２（５）・Ⅳ３（１）、Ⅴ２

7　本書中に示した平面座標値は、平成５年度に実施された第１次調査に準じ、平面直角座標第Ｘ系（日本測地系）を用いた。

8　石質鑑定は花崗岩研究会に委託した。

9　基準点測量業務は（株）岩手開発測量設計に委託した。

10　野外調査では下記の機関・個人の協力を得た。（敬称略・順不同．所属は平成19年度.）

岩手県立松園養護学校、小笠原祐喜（岩手県教育委員会事務局教育企画室）、斎藤邦雄・菅　常久・花坂政博・櫻井友梓（岩手県教育委員会生涯学習文化課）、高木　晃（岩手県立博物館）。

11　今次調査で得られた出土遺物および諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　立地と環境 …… 1

1　遺跡の位置 …… 1

2　周辺の地形 …… 1

3　基本層序 …… 1

4　周辺の遺跡 …… 2

5　過去の調査 …… 2

Ⅲ　野外調査と室内整理 …… 5

1　野外調査 …… 5

2　室内整理 …… 8

Ⅳ　検出遺構と出土遺物 …… 9

1　概　　要 …… 9

2　遺　　構 …… 10

(1)竪穴住居跡 …… 10

(2)土　　坑 …… 21

(3)陥し穴 …… 21

(4)焼土遺構 …… 23

(5)捨て場（遺物包含層） …… 23

3　遺　　物 …… 25

(1)縄文土器 …… 25

(2)土製品 …… 26

(3)石器類 …… 27

Ⅴ　まとめ …… 57

報告書抄録 …… 85

図版目次

第１図　松屋敷遺跡基本層序…… 2
第２図　遺跡周辺の地形と遺跡分布…… 4
第３図　調査区の位置とグリッド配置…… 6
第４図　各地点における任意の区割り…… 7
第５図　RA15・16・17竪穴住居跡平面図 ……14
第６図　RA15・16・17竪穴住居跡断面図（1）……15
第７図　RA15・16・17竪穴住居跡断面図（2）……16
第８図　RA15・16・17竪穴住居跡遺物出土状況 …17
第９図　RA15竪穴住居跡 ……18
第10図　RA16竪穴住居跡 ……19
第11図　RA17竪穴住居跡・RD13土坑……20
第12図　RD14・15陥し穴 ……22
第13図　出土遺物（１）……29
第14図　出土遺物（２）……30
第15図　出土遺物（３）……31
第16図　出土遺物（４）……32
第17図　出土遺物（５）……33
第18図　出土遺物（６）……34
第19図　出土遺物（７）……35
第20図　出土遺物（８）……36
第21図　出土遺物（９）……37
第22図　出土遺物（10）……38
第23図　出土遺物（11）……39
第24図　出土遺物（12）……40
第25図　出土遺物（13）……41
第26図　出土遺物（14）……42
第27図　出土遺物（15）……43
第28図　出土遺物（16）……44
第29図　出土遺物（17）……45
第30図　出土遺物（18）……46
第31図　出土遺物（19）……47
第32図　出土遺物（20）……48

写真図版目次

写真図版１　調査開始時の状況……61
写真図版２　調査区全景……62
写真図版３　RA15竪穴住居跡（1）……63
写真図版４　RA15竪穴住居跡（2）……64
写真図版５　RA15竪穴住居跡（3）……65
写真図版６　RA15竪穴住居跡（4）・作業風景 ……66
写真図版７　RA16竪穴住居跡（1）……67
写真図版８　RA16竪穴住居跡（2）……68
写真図版９　土坑・陥し穴……69
写真図版10　捨て場……70
写真図版11　基本土層……71
写真図版12　出土遺物（１）……72
写真図版13　出土遺物（２）……73
写真図版14　出土遺物（３）……74
写真図版15　出土遺物（４）……75
写真図版16　出土遺物（５）……76
写真図版17　出土遺物（６）……77
写真図版18　出土遺物（７）……78
写真図版19　出土遺物（８）……79
写真図版20　出土遺物（９）……80
写真図版21　出土遺物（10）……81
写真図版22　出土遺物（11）……82
写真図版23　出土遺物（12）……83
写真図版24　出土遺物（13）……84

表　目　次

第１表　周辺の遺跡…… 3
第２表　新旧遺構名対応表…… 9
第３表　出土土器一覧……49
第４表　出土土製品一覧……54
第５表　出土石器・石製品一覧……55

Ⅰ　調査に至る経過

松屋敷遺跡は、県立松園養護学校高等部建設事業に伴い、その事業区内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本事業は、同校と県立青山養護学校との統合により不足となる高等部校舎棟を整備するものであり、現在のグランドの一部を校舎敷地として造成のうえ新校舎を建設するものである。

本事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成18年９月14日付教企第385号により岩手県教育委員会事務局教育企画室より岩手県教育委員会（生涯学習文化課）に対し試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年10月16日に試掘調査を実施し、その結果、工事に着手するには発掘調査が必要となることが判明し、平成18年10月18日付教生第982号でその旨回答があったものである。

その結果を踏まえて、平成19年８月27日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなったものである。

（岩手県教育委員会事務局教育企画室）

Ⅱ　立地と環境

１　遺跡の位置（第２図）

松屋敷遺跡の所在する盛岡市は、岩手県のほぼ中央部に位置し、北に滝沢村、岩手町、東は岩泉町、川井村、南は大迫町と矢巾町、紫波町、西は雫石町に接する。県庁所在地であり、文化・行政・経済の中心でもある。平成18年１月20日に旧盛岡市の北に位置する玉山村と編入合併し、面積約890㎢、人口約30万人となり、平成20年４月の中核市移行を目指している。松屋敷遺跡は、岩手県盛岡市上田字松屋敷11-18ほかに所在し、盛岡市の中心街である市役所から直線距離で北へ約6.5㎞付近、北緯39度45分27秒、東経141度9分33秒付近に位置する。

２　周辺の地形（第２図）

本遺跡の所在する盛岡市は、県南最大の河川である北上川と、それに注ぐ支流によって北上川中流域に形成された北上盆地の北端に位置している。この北上川以東では、北上川の支流である中津川・梁川流域に発達した沖積段丘が形成されている。本遺跡は北上山地西縁にあたる四十四田丘陵上に立地し、調査区は丘陵の北端で、舌状に張り出す部分にあたる。遺跡の西側には北上川が南流し、四十四田ダムに接している。東側に接する松園ニュータウンの一帯は、人口改変地であり、かつての地形はほとんど残っていない。

３　基本層序（第１図）

野外調査では、遺跡内に堆積する土層の新旧関係及び各層の時期を把握するようつとめた。第１図は松屋敷第２次調査区の基本土層模式図である。大きくⅠ～Ⅴ層に分けることができる。

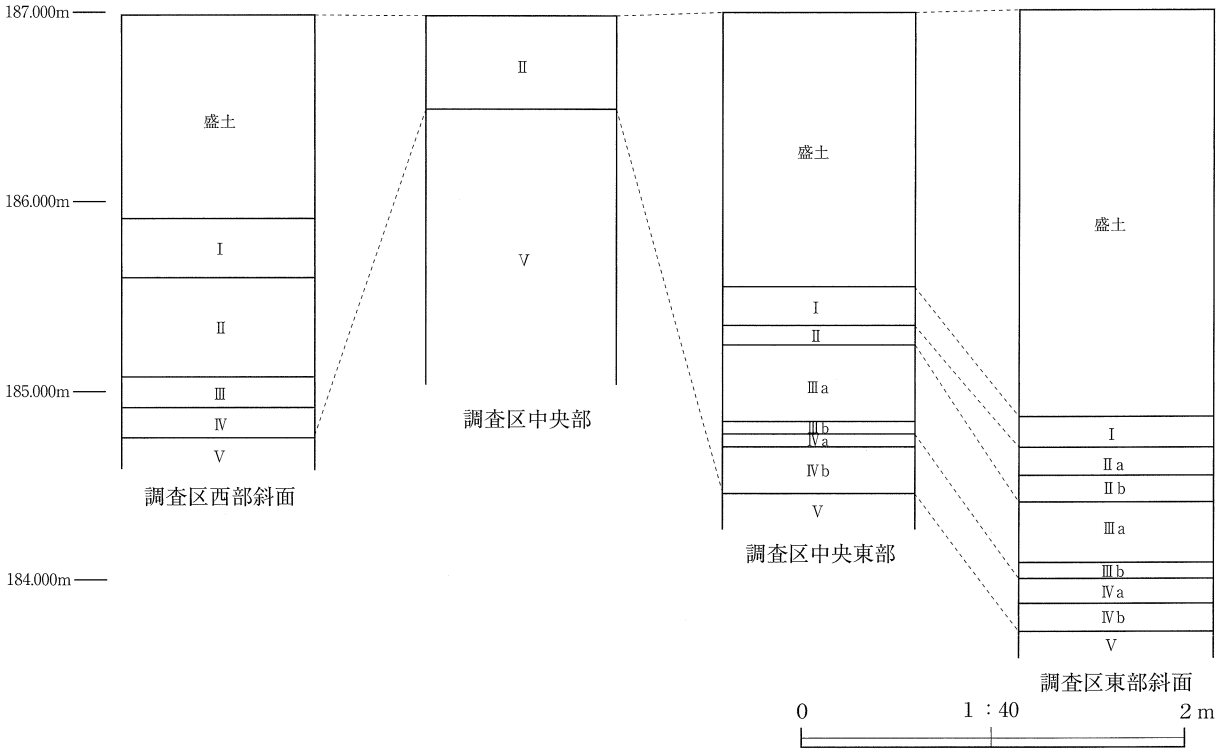
Ⅰ　層　10YR3/3　暗褐色シルト　松園養護学校グラウンド造成前の表土

Ⅱ　層　10YR4/4　褐色シルト

Ⅲa層　10YR5/6　黄褐色シルト　縄文時代遺物（中期）包含層
Ⅲb層　10YR3/4　暗褐色シルト　縄文時代遺物（中期）包含層
Ⅳa層　10YR2/3　黒褐色シルト
Ⅳb層　5/6-5/8　黄褐色シルト
Ⅴ　層　地山砂礫層。

調査区は松園養護学校グラウンドの南縁部に沿った狭小な範囲で、北側から南西方向に向かって延びるやせ尾根を斜めに横断している。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっている。

Ⅲ層の黄褐色土層が遺物包含層及び遺構埋土の主体土となっている。竪穴住居跡の検出された尾根頂部では、Ⅳ層の堆積は確認されず、黄褐色の埋土直下にⅤ層以下の地山が露出した状況を呈する。



第１図　松屋敷遺跡基本層序

4　周辺の遺跡（第２図）

盛岡市内には平成17年現在739の遺跡が登録されている。松屋敷遺跡周辺を概観すると、縄文時代の遺跡の多くは本遺跡と同じく、北上山地西縁の四十四田丘陵上に立地する。丘陵の北側は北上川に接しており、北上川対岸の丘陵地にも、縄文時代の遺跡が多く分布する。本遺跡の北東に位置する小鳥沢Ａ～Ｐ遺跡は、全て縄文時代の遺跡で、特に小鳥沢Ｂ遺跡では縄文時代中期の土器と竪穴住居跡が見つかっており、松屋敷遺跡と同時期の集落跡であった可能性がある。しかしＡ～Ｄ遺跡は既に消滅しており、その他の地点についても本格的な発掘調査は行われていない。

5　過去の調査（第３図）

松屋敷遺跡では、松園養護学校校舎整備事業に伴う発掘調査が、平成５年４月８日～７月14日に実施された。２地点、計1,800㎡を調査し、南側のＡ区からは竪穴住居跡11棟、竪穴状遺構１棟、土坑２基、陥し穴５基、柱穴16基、北側のＢ区から竪穴住居跡２棟、土坑５基、焼土遺構１基、柱穴３基

の遺構が検出された。B区で検出された住居跡のうち２棟は、早期のものである。またB区全域に遺物包含層が形成されており、B区北側に中期の土器、B区西側に早期の土器が多く分布する傾向がみられた。

この調査成果は「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集　松屋敷遺跡発掘調査報告書」として刊行（平成７年）されている。

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡コード	市町村名	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地
1	KE86-2209	盛岡市	鍋屋敷A	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	下厨川字鍋屋敷
2	KE86-2324	盛岡市	鍋屋敷B	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	下厨川字鍋屋敷
3	KE86-2378	盛岡市	松屋敷	集落跡	縄文	縄文土器(前・中期)	上田字松屋敷
4	KE87-1185	盛岡市	小鳥沢N	集落跡	縄文	縄文土器、土壙、竪穴住居跡	上田字小鳥沢
5	KE87-1191	盛岡市	小鳥沢K	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
6	KE87-1196	盛岡市	小鳥沢O	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
7	KE87-2007	盛岡市	小野松一里塚	一里塚	近世	塚２基	上田字小鳥沢131-2、松屋敷1-2
8	KE87-2007	盛岡市	小鳥沢C	散布地・墳墓	縄文・近世	縄文土器、土壙	上田字小鳥沢
9	KE87-2010	盛岡市	小鳥沢P	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
10	KE87-2026	盛岡市	小鳥沢G	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
11	KE87-2028	盛岡市	小鳥沢E	散布地	縄文	縄文土器、土壙	上田字小鳥沢
12	KE87-2046	盛岡市	小鳥沢A	集落跡	縄文・近世	縄文土器(早～晩期)、民家、土壙	上田字小鳥沢
13	KE87-2048	盛岡市	小鳥沢H	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
14	KE87-2051	盛岡市	小鳥沢Q	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
15	KE87-2056	盛岡市	小鳥沢D	集落跡	縄文・近世	縄文土器、民家、土壙	上田字小鳥沢
16	KE87-2062	盛岡市	小鳥沢B	集落跡	縄文	縄文土器(中期)、竪穴住居跡	上田字小鳥沢
17	KE87-2079	盛岡市	小鳥沢F	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
18	KE87-2102	盛岡市	小鳥沢L	散布地	縄文	縄文土器、土壙	上田字小鳥沢
19	KE87-2104	盛岡市	小鳥沢M	散布地	縄文	縄文土器、土壙	上田字小鳥沢
20	KE87-2116	盛岡市	小鳥沢J	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
21	KE87-2180	盛岡市	小鳥沢I	散布地	縄文	縄文土器、土壙	上田字小鳥沢
22	KE87-1199	盛岡市	庄ケ畑A	散布地			
23	KE87-2221	盛岡市	庄ケ畑B	散布地			
24	KE87-2230	盛岡市	庄ケ畑C・D	散布地			
25	KE87-2282	盛岡市	庄ケ畑E	散布地			
26	KE96-0384	盛岡市	四十四田A	散布地	旧石器・縄文	旧石器、縄文土器	上田字松屋敷
27	KE96-1289	盛岡市	西黒石野	集落跡	縄文・古代・(平安)	縄文土器(早・前期)、土師器、おとし穴、溝、竪穴住居跡	黒石野二丁目
28	KE96-1373	盛岡市	東黒石野	散布地	縄文	縄文土器	黒石野一丁目
29	KE96-2301	盛岡市	上田蝦夷森古墳群	散布地・古墳	縄文・古代	終末期古墳１基、土師器、コハク、青、錫製品	黒石野一丁目
30	KE96-1384	盛岡市	黒石野	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、焼土遺構、鉄器(雁又鏃)	黒石野一丁目
31	KE96-2314	盛岡市	黒岩	散布地	縄文	縄文土器	黒石野一丁目・黒岩
32	KE96-2320	盛岡市	黒石野平	集落跡	古代(平安)	竪穴住居跡	緑が丘三丁目・四丁目
33	KE96-2382	盛岡市	東緑が丘	散布地	縄文	縄文土器、土壙	東緑が丘
34	LE06-0307	盛岡市	長根	散布地	縄文	縄文土器	上田字宇登坂長根
35	LE07-0000	盛岡市	宇登坂	散布地	縄文	縄文土器(中期)	上田字宇登坂長根
36	LE06-0322	盛岡市	上堤頭	散布地	縄文	縄文土器(早～中期)	上田堤一丁目、二丁目
37	LE07-0026	盛岡市	櫃石	散布地	縄文	縄文土器	三ツ割字櫃石
38	LE07-0059	盛岡市	洞清水	散布地	縄文	縄文土器	三ツ割字洞清水
39	LE07-0114	盛岡市	歳ノ神	散布地	縄文	縄文土器(早～後期)	山岸六丁目
40	LE07-0143	盛岡市	新茶屋	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	山岸六丁目、下米内
41	LE06-0218	盛岡市	右京長根	散布地	縄文	Tピット	緑ヶ丘1丁目
42	KE86-0278	滝沢村	葉の木沢I	集落跡	縄文・古代	縄文土器(前・後期)、土師器、陥穴状遺構	滝沢字葉の木沢山
43	KE86-1203	滝沢村	葉の木沢II	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	滝沢字葉の木沢山
44	KE86-1248	滝沢村	葉の木沢III	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	滝沢字葉の木沢山
45	KE86-1351	滝沢村	松屋敷	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	滝沢字妻の神
46	KE87-0092	滝沢村	楢の木沢A	散布地	縄文・古代	縄文土器(後期)土師器	滝沢字楢の木沢・妻の神
47	KE87-0083	滝沢村	楢の木沢B	散布地	縄文	縄文土器(前期？・後期・晩期)	滝沢字楢の木沢
48	KE87-0062	滝沢村	楢の木沢C	散布地	縄文	縄文土器(後期)	滝沢字楢の木沢
49	KE87-0093	滝沢村	楢の木沢D	散布地	縄文	縄文土器(後期・晩期)	滝沢字楢の木
50	KE97-1162	盛岡市	大平	散布地	縄文	縄文土器	山岸字大平
51	KE96-1358	盛岡市	大森山	散布地	古代・中世	土師器	上田東黒石野
52	KE87-0099	盛岡市	川口平館跡(もぐら館跡)	城館跡	中世	掘、平場、単郭	玉山区川又字赤坂
53	KE97-2147	盛岡市	名乗坂一里塚	一里塚	近世	塚１基	上米内字名乗

第２図　遺跡周辺の地形と遺跡分布

Ⅲ　野外調査と室内整理

1　野外調査

（1）調査区

登録されている松屋敷遺跡の範囲は、南北660m・東西420m、面積にして約12万㎡である。今回調査対象となったのは、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘調査の結果から本調査を要すると判断された780㎡の範囲で、松園養護学校敷地内グラウンドの南縁の擁壁に沿った細長い形となっている。調査では便宜上、調査区西側を「北西部」、調査区中央を「中央部」、調査区東側の斜面を「東部」とした。「北西部」が平成５年度調査区のＡ区と、「東部」がＢ区とそれぞれ隣接している。

（2）グリッドの設定と基準点（第３・４図）

グリッドは第１次調査で設定したものをそのまま用いた。このグリッドを現地に割り付けるため、X=26845.000m　Y=27915.000m（基1）、X=26845.000m　Y=27940.000m（基２）を打設した。基１はY17I24グリッドの北１m・西１m、基２はY17U24グリッドの北１mの位置にあり、グリッドラインの交点とはずれがあることに留意されたい。また、このグリッドとは別に、調査区中央部及び東部においては、第４図に示した任意の区割を用いて遺物のとり上げを行っている。

（3）試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレンチを設定し、人力掘削によって土層の堆積状況と遺構の存否の把握につとめた。その結果、調査区全体に盛土が厚く堆積していることがわかり、バックホー・キャリアダンプ等の重機を用いてこれを除去した。盛土を除いた後は、検出面までの土層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域では人力による掘削を行った。

（4）遺構の検出と精査

表土除去の後、鋤簾（じょれん）・両刃草削り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。精査では遺構の規模に応じて２分法・４分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新期のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。出土した遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況記録としての実測・撮影を行った。

（5）遺構名

①野外調査での名称

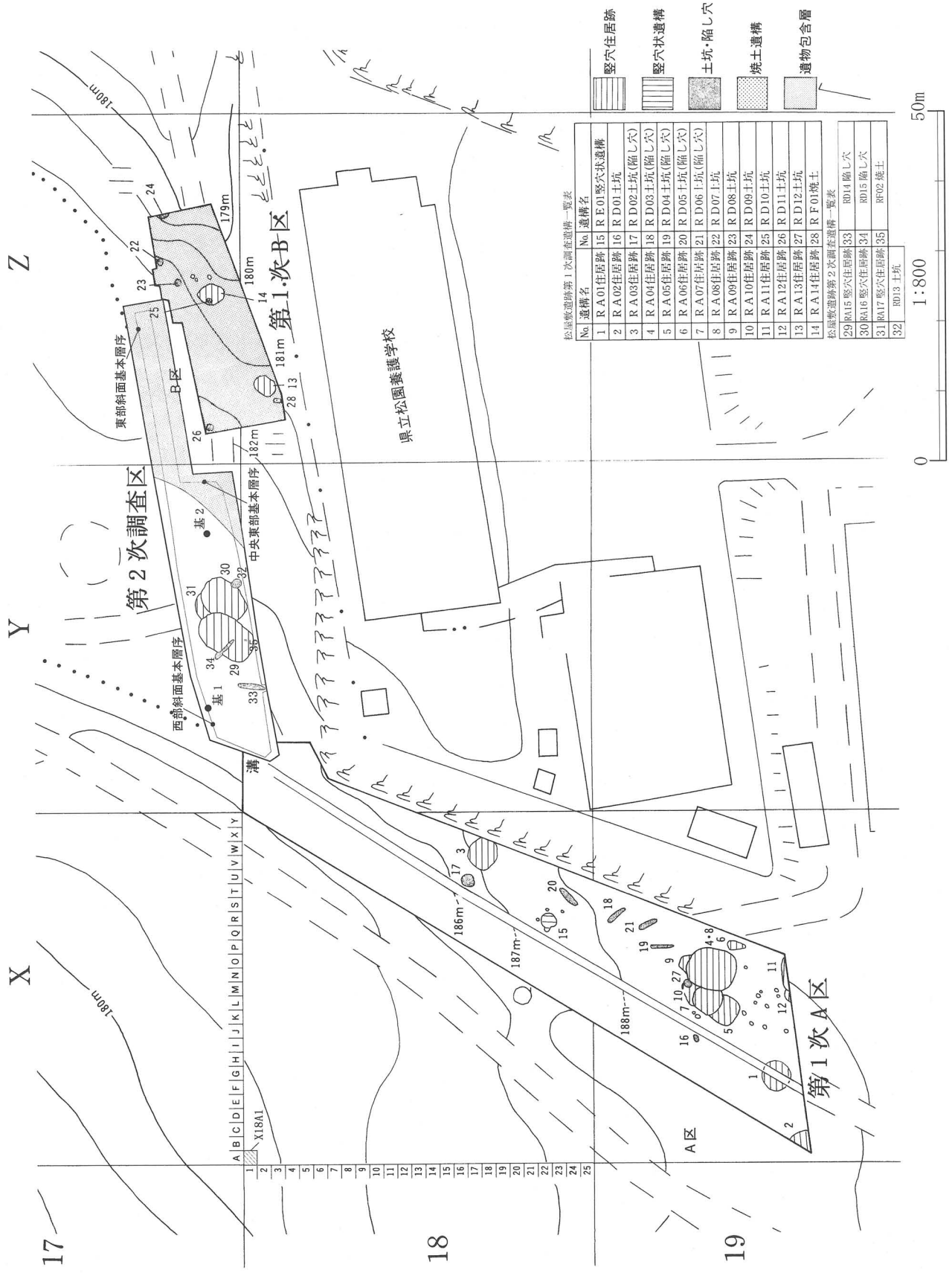
遺構には検出時点に固有の名称を与えた。検出段階で竪穴住居跡の可能性があると判断したものは、「SI」の略号を用い、検出した順から「SI01」、「SI02」・・・のように表した。同様に円～楕円形のプランをもつ遺構には「SK」の略号を用いた。

②本書中の掲載名称

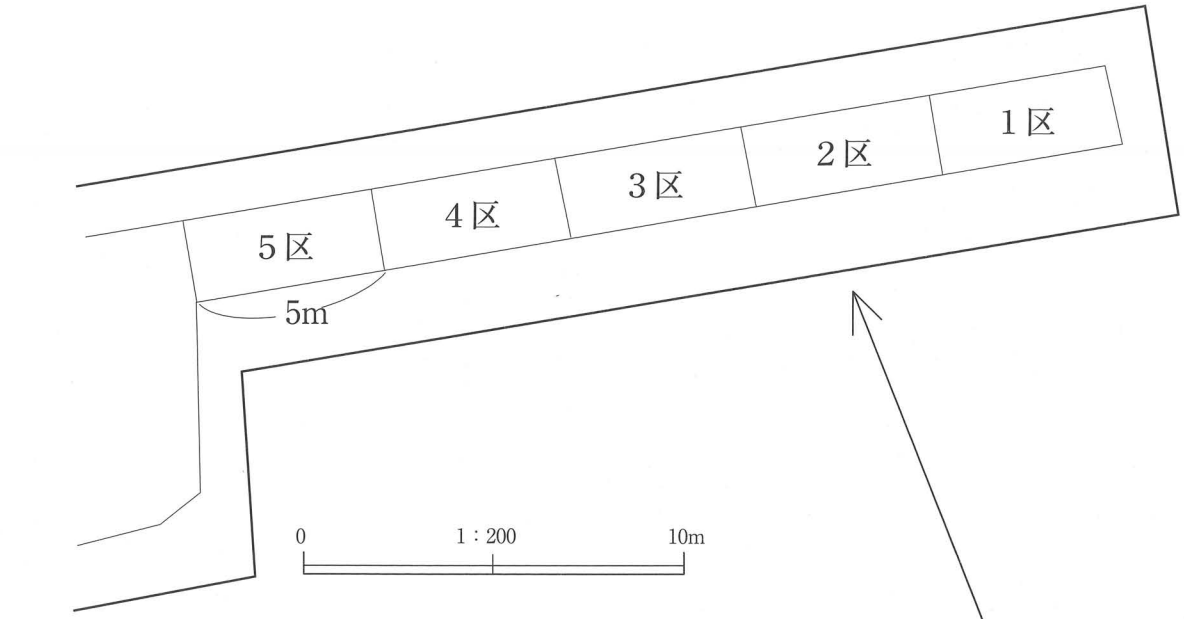
掲載にあたっては盛岡市教育委員会の定める略号を用いて遺構名を改め、第１次調査で検出された遺構の番号に連続する通し番号をつけた。遺構の記号と名称は以下のとおりである。

〔竪穴住居跡〕SI01・02・04→RA15・16・17。〔土坑・陥し穴〕SK01・02・03→ＲＤ13・14・15。〔焼土遺構〕焼土１→RF02。

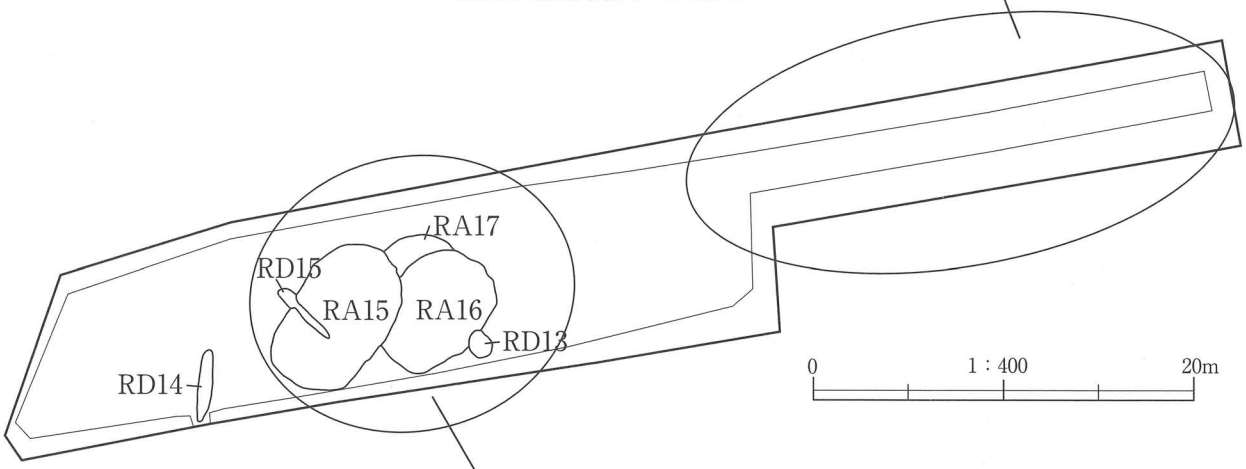
また、竪穴住居跡の柱穴についても、事実記載に際しそれぞれに名称を与えた。（pp1～pp62）

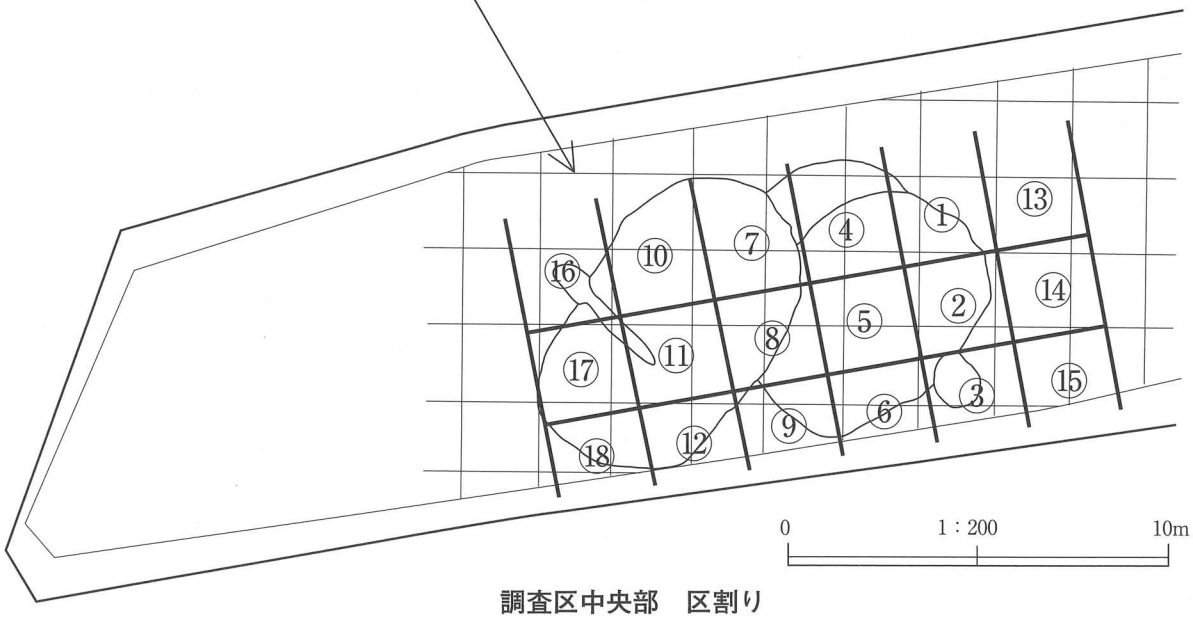


第3図　調査区の位置とグリッド配置



調査区東部斜面　区割り





調査区中央部　区割り

第４図　各地点における任意の区割り

（6）実測

遺構や遺物出土状況などの平面実測は、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する「簡易遣り方測量」で行った。縮尺は1／20を基本とした。このほか光波トランシットを用いて、遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。断面図は水平に設定した水糸を基準にして実測・作図した。縮尺は1／20を基本とした。

（7）土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋土や捨て場堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点で周辺の表土を形成していたと思われる土（埋没開始時点における最新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比から、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も少なくなかった。このため、各層の記録には調査員個人の主観による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。

（8）写真撮影

野外調査では6×7㎝判カメラ（モノクロ）、35㎜判カメラ（カラーリバーサル）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略した場合がある。

2 室内整理

（1）作業手順

出土遺物の洗浄と地点別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、随時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

（2）遺構

各遺構は必要に応じて第2原図を作成し、これをもとにトレースののち図版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また方位マークにより座標北を示した。

（3）遺物

土器は出土地点・遺構別に分けた後、それぞれの集合の内容を代表させる資料を選抜し、実測等の作業対象資料とした。石器は、いわゆる定型的な石器に加え細部加工剥離または微細な剥離をもつ剥片類、使用痕跡をもつ礫石器類を全点登録した。

Ⅳ　検出遺構と出土遺物

1　概要

（1）検出遺構と出土遺物

①縄文時代早期

＜遺構＞　なし

＜遺物＞　土器（貝殻文）［6片］。

②縄文時代中期

＜遺構＞　竪穴住居跡３棟、土坑１基、焼土遺構１基。

＜遺物＞　土器（中期中葉）［大コンテナ25箱］、

石器（尖頭器４点、石鏃16点、石錐５点、石匙６点、石篦７点、削器・掻器類15点、磨石６点、凹石９点、特殊磨石10点、石皿・台石６点、石斧５点）

③縄文時代（その他）

＜遺構＞　陥し穴状遺構２基（中期中葉住居跡を切る）。

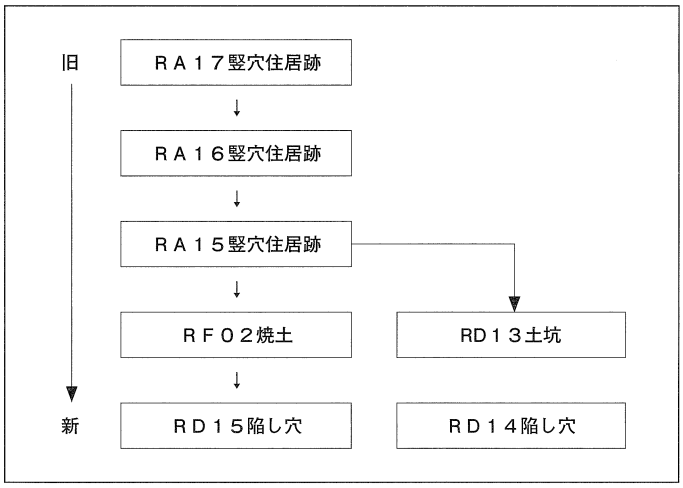
＜遺物＞　なし。

（2）成果の概要（第３図）

調査区は松園養護学校グラウンドの南縁部に沿った狭小な範囲で、北側から南西方向に向かって連続する痩せ尾根を斜めに横断している。尾根頂部に相当する調査区中央では、縄文時代中期（大木８ａ式期主体）の竪穴住居跡３棟が重複して検出された。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっており、このうち南東側斜面からは土器等の遺物がまとまって廃棄されている状況が観察された。

出土遺物の大半が縄文時代中期に属するが、ごくわずかに数片の早期土器（貝殻文）破片が確認されている。また、住居跡埋土や捨て場からは多数の琥珀細片が出土した。

遺構の新旧関係は以下のようにまとめられる（旧→新）。



第２表　新旧遺構名対応表

新	旧
ＲＡ１５竪穴住居跡	ＳＩ０１
ＲＡ１６竪穴住居跡	ＳＩ０２
ＲＡ１７竪穴住居跡	ＳＩ０４
ＲＤ１３土坑	ＳＫ０３
ＲＤ１４陥し穴	ＳＫ０１
ＲＤ１５陥し穴	ＳＫ０２
ＲＦ０２焼土	—

2　遺構

（1）竪穴住居跡

ＲＡ１５竪穴住居跡（第９図、写真図版３～５）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Ｙ17Ｎ23～Ｙ18Ｌ01グリッドに位置する。はじめＶ層上面において土器片や炭化物の混じる不整円形の黒褐色土の広がりとして検出された。その後精査の過程で、周囲に広がる地山に似た褐色土が埋土であることが判明し、結果的に検出段階に想定した形状からは大きく変化した。

〔規模・形状・主軸方向〕

平面形は840×530cmの概ね楕円形を呈するが、長軸に平行する東西の両壁は直線的で隅丸長方形の趣も持つ。床面までの残存深度は最大62cmである。主軸（長軸）方向は、Ｎ－34°－Ｅで、本遺構が立地する尾根頂部の軸線にほぼ平行するよう設定されている。

〔埋土と堆積状況〕（断面A-A'・B-B'・C-C'　１～６層）

床面直上には混入物を含まない均質な黄褐色土（４・６層）が厚く堆積している。本層は当初その上面を床面と誤認したほど地山Ｖ層に酷似する。実際の壁面・床面との間に目立った挟在物や間層は認められず、精査に際しては緻密度の差異がほぼ唯一の識別基準となった。断面A-A'右側には、３層が４・６層を切って床面に達する状況が観察されるが、これは床面に掘り込まれた主柱穴の一つから連続する柱痕跡とみられ、４～６層の堆積が、柱材が立ったままの状態で短時間のうちに（一気に）進んだ可能性を示している。

４～６層の堆積後に生じた凹地には比較的多くの土器が投棄されており、これに混じって頁岩の微細剥片が一つかみほどの塊で出土している。また凹地南端部の底面には地床炉様の円形焼土（→ＲＦ02焼土）が生成しているなど、廃絶後の住居内部が再び人的行為の場とされた様子が観察できる。

凹地底面は本遺構の埋土のうち最も炭化物や土器片が目立つ３層に覆われている。混入物の絶対量は決して多くないが、本遺構出土遺物の大半は本層に伴うものであり、他の堆積土に比して埋土中最も遺構内堆積土らしい土層といえる。この上位には再び地山Ｖ層類似の２層が堆積し、最上位をそれ以下とは全く異質の黒褐色土（１層）が覆っている。

〔壁・周溝・床面・柱穴など〕

壁は全体的にほぼ直立しているが、ＲＡ16・17と重複する北東部ではやや外傾する。壁面は埋土に比して緻密である点、埋土にごくまれに含まれる炭化物粒が壁面では皆無となる点などが識別根拠となったが、視覚的な判別基準は見出し難かった。

周溝は主軸と平行する東西壁面の直下で検出された。幅は10～26cm、長さは東壁側で6.0m、西壁際で3.8mである。東壁側のものは南半が、西壁側では大半が直線的に延びる。周溝底面には深さの異なる小さな凹部が連続しており、この中にはしっかりした円形の小ピットが一定の間隔を置いて複数見られる。周溝や小ピットの埋土はＶ層土に酷似していた。

床面は全体的に平坦に整っており、北端部を除き大半がガッチリと硬化していた。不自然な段差や硬化面の重複等はなく、住居の拡縮等に伴う床面更新の痕跡は認められない。

柱穴は床面上ではほとんど認識できなかった。そこで床の硬化面を除去し慎重に精査をすすめたところ、壁寄りに一定間隔で配置された柱穴列が検出された。直径50cm前後のpp11・12・13・16・29・30・33・34が本竪穴住居跡に帰属する主たる柱穴と見られる。pp19・22・23なども本遺構に帰属する可能性が高い。

〔炉跡・焼土〕

床面からは３基の炉が検出された。炉ａは中央部からやや北壁側に寄った、柱穴pp12とpp30の間付近に位置している。床面を約60cm四方の方形に掘り下げ、内部周縁に沿って扁平な河原石を配した石囲炉である。内部底面に極めて微弱な赤変箇所が見られるほかは、炉石にも被熱痕跡は認められず、燃焼行為の頻度は乏しいものであったと推測される。この炉は中心部に直径18cmのピットをもっている。断面によれば、このピットは燃焼面を直に覆う３層を切って炉内底面を掘り込んでおり、また、開口部より上位は住居廃絶時の最初の埋土である黄褐色土（断面A～C・６層）に直に覆われている。したがって炉構築後から本住居廃絶までの期間に帰属するものであることは明らかである。炉の廃絶後３層の堆積ののちに掘り込まれ住居廃絶の前に埋没したものか、あるいは、炉の中心に柱状の何物かが据え置かれた状態で３層の堆積が進み、その後住居廃絶の前に抜き取られた痕跡と考えることができる。

炉ｂは炉ａの南側に接しており、炉ａの掘り方によって一部が切られている。長径48cmの楕円形で厚さ４cmの焼土が生成しており、上面はガリガリに硬化している。周囲に炉石の痕跡はなくもともと地床炉だったと思われる。燃焼面の上位は住居埋土最下層の黄褐色土に直に覆われており、炉跡ａと同一の床面に設けられたものと判断される。

炉ｃは炉ａ・ｂから離れ住居の南部に位置しており、主軸からもやや大きく東側に逸れている。直径28cmの円形で厚さ３cmの焼土が生成している。燃焼面の中央部がややくぼみ上面はガリガリに硬化している。炉ｂと同様、炉石等の痕跡はなく地床炉と見られる。

なお、炉ａ～ｃで形成された焼土を除けば、床面上における焼土塊や炭化物の分布はほぼ皆無であった。生活痕跡としての「火の気」がこれほど感じられない例は特異におもわれ、住居の使用状況（居住期間の長短、炉の使用頻度）や、廃絶時の状況を推し量る上で興味深い。

〔重複〕

ＲＡ17竪穴住居跡・ＲＡ16竪穴住居跡より新しく、ＲＦ02焼土・ＲＤ15陥し穴より古い。

〔出土遺物〕（第44・45図・写真図版33・34）

出土遺物は住居北側の炉ａ周辺に、比較的まとまって出土した（第８図）。

＜土器＞　埋土および床面からⅡ群土器が出土している。床面から出土した７は、口縁部に山形隆帯波状文や渦状文が施されるⅡ群３類土器である。第８図に示した13・14・27・40は、４～６層の堆積後に生じた凹地から出土したもので、同じくⅡ群３類に属する。

＜石器＞　剥片石器では石鏃・石錐・削掻器類と考えられる不定形石器、礫石器では磨石・特殊磨石・凹石・石皿・台石が出土した。

微細剥片は複数のつぶれた土器に接して出土しているが、特定の土器内部に集中する様子は認められなかったことから、土器を容器に貯蔵されたものではなさそうである。ただし飛散せず一箇所に集中しており何らかの有機質容器に入れられていた可能性が考えられる。

〔遺構の時期〕

出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。

ＲＡ１６竪穴住居跡　（第10図、写真図版７・８）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Ｙ17Ｑ23～Ｙ18Ｏ01グリッドに位置する。Ⅴ層上面において、土器片とわずかな炭化物を含むⅤ層土に良く似た黄褐色土の広がりとして認識したが、この時点においては範囲・形状は判然としなかった。先行して精査着手したＲＡ15竪穴住居跡にも類似した埋土の堆積が認められたた

め、遺構の可能性が高いと判断し精査に着手した。

〔規模・形状・主軸方向〕

平面形は690×520cmの楕円形～隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は最大50cmである。主軸方向はN－49°－Eで、本遺構が立地する尾根頂部の軸線にほぼ平行するよう設定されている。

〔埋土と堆積状況〕（断面D-D'～H-H'　1～7層）

床面直上を広く覆うのは混入物をほとんど含まない均質な褐色土（5層）である。V層に良く似るが、炭化微粒が散見され僅かに暗い。壁際では特に厚く床面から検出面までを一気に埋めている。住居中央に向かって次第に層厚を減じ、本層堆積後は上面が凹レンズ状を呈する。この凹地の上面には木炭小片（径5～20㎜）と土器等の遺物を多く含む暗褐色土（3層）が堆積している。5層の及ばない住居中央付近では本層が直接床面に接する箇所もある。本住居跡の遺物の大半は本層からの出土であり、完形に近い個体や大形破片も多いことから、半埋没の住居内への人為的な投棄が行われたものと思われる。この上位は再び地山V層に類似する褐色土（2層）、黄褐色土（1層）に覆われ埋没を終えている。

〔壁・周溝・床面・柱穴など〕

埋土が地山V層に類似するため壁面の検出は困難であった。埋土に比してやや緻密で、炭化微粒を含まない点を識別根拠として精査を行った。壁の残存が良好なのは北部～西部である。一方RA15竪穴住居跡に重複する南西部と斜面下方側にあたる東部では壁が失われている。残存部に見られる壁面はやや外傾するものの直線的に立ち上がっており大きな崩落痕跡等は認められなかった。

周溝は北西壁の直下で明瞭に検出された。幅10～20cm、長さは約4.6mで、壁に沿って弧状に延びている。周溝の底面には杭穴状の小ピットが一定の間隔を置いて複数見られた。北西部のほかにも南壁や東壁下の一部で周溝が痕跡的に認められる。

床面は全体的に平滑だが、南東側に向かってごく緩く傾斜している。床面には、炉が設けられている中央部と各壁の下を除き、環状の硬化面が形成されている。炉を取り囲む硬化面は居住に伴って形成された生活痕跡のようにも見えるが、主柱穴が設けられているラインと重複していることを考えれば、住居構築時の「突き固め」による可能性が高いと思われる。

柱穴は床面上ではほとんど検出できなかった。そこで床の硬化面を除去し慎重に精査をすすめたところ、壁寄りに一定間隔で配置された柱穴列が検出された。直径50cm前後のpp32・41・43・49・55・59が本竪穴住居跡に帰属する主たる柱穴と見られる。pp51なども本遺構に帰属する可能性が高い。

〔炉跡・焼土〕

住居主軸線上、中央部からやや北壁側に寄った位置に1基の炉が設けられている。62×50cmの楕円形で厚さ7cmほどの焼土が生成しており、燃焼面の中央はやや凹み上面は硬化している。被熱の度合いは南西側のほうが顕著である。炉石等の痕跡はなく地床炉の可能性が高い。炉跡の上面や周囲の床面には焼土塊や炭化物の飛散がほとんど見られなかった。

〔重複〕

RA17竪穴住居跡より新しく、RA15竪穴住居跡・RF02焼土・RD15陥し穴・RD13土坑より古い。

〔出土遺物〕（第44・45図・写真図版33・34）

＜土器＞　埋土および床面からⅡ群土器が出土している。79の深鉢は床面からほぼ完全な形で出土した。埋土出土のものは、炭化物黒褐色層（3層）の上下で遺物を分けて取り上げたが、両者はⅡ群3類でまとまっている。

＜石器＞　剥片石器では石鏃とスクレイパー、礫石器では磨石・特殊磨石・凹石が出土した。387

の磨石は床面から出土した。

〔遺構の時期〕

出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。

ＲＡ１７竪穴住居跡（第11図、写真図版２）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Ｙ17Ｏ23～Ｙ17Ｐ23グリッドに位置する。Ｖ層上面においてわずかな炭化物を含むＶ層土に良く似た黄褐色土の広がりとして認識した。当初Ｖ層上面で検出したＲＡ16竪穴住居跡のプランの一部と認識していたが精査の過程で別の住居跡であることが判明した。

〔規模・形状・主軸方向〕

ＲＡ15・ＲＡ16竪穴住居跡との重複により大きく破壊され原形を留めていないが、北西壁と思われる残存部は弧状を呈し、他の二棟と同様、楕円形を呈する可能性が高いと思われる。残存範囲の平面規模は310×270cm、床面までの残存深度は最大32cmである。

〔埋土と堆積状況〕（断面D-D'・E-E'・G-G'　11～14層）

床面を覆っているのは炭粒を僅かに含む褐色土である。その上位には地山Ｖ層に類似する黄褐色土がやや厚く堆積し、さらに暗褐色土の流入によって埋没している。断面E-E'には床面から延びる柱痕跡（14層）が認められる。また、床面からは繊維方向を残す炭化材が出土しており廃絶時の焼失の可能性を示唆している。

〔壁・壁溝・床面・柱穴など〕

埋土が地山Ｖ層に類似するため壁面の検出は難しかった。埋土に比してやや緻密で、炭化微粒を含まない点を識別根拠とし精査を行った。残存する壁面は住居の北部～西部のものと思われる。残存部に見られる壁面はやや外傾するものの直線的に立ち上がっている。

周溝は残存する壁の直下で明瞭に検出された。幅10～15cm、深さ５cmほどの溝が壁に沿って弧状に延びている。周溝の底面は一定で、一部に杭穴状の小ピットが重複している。

床面は平坦に整っている。明瞭な硬化面は認められないが、やや白っぽく粘性のある土が床面に広がっており、床面構築に用いられたものである可能性がある。

柱穴はpp37・38の２個が床面から検出されている。本住居跡に帰属する柱穴は本来さらに南側に配置されていたはずであるが、床面はＲＡ15・16によって大きく掘り下げられており、これらの構築時に多くが失われたものと見られる。

〔炉跡・焼土〕

住居内から炉跡・焼土は確認されなかった。炉跡は新期住居の構築により失われた可能性が高い。

〔重複〕

ＲＡ16竪穴住居跡・ＲＡ15竪穴住居跡・ＲＦ02焼土・ＲＤ15陥し穴・ＲＤ13土坑より古い。

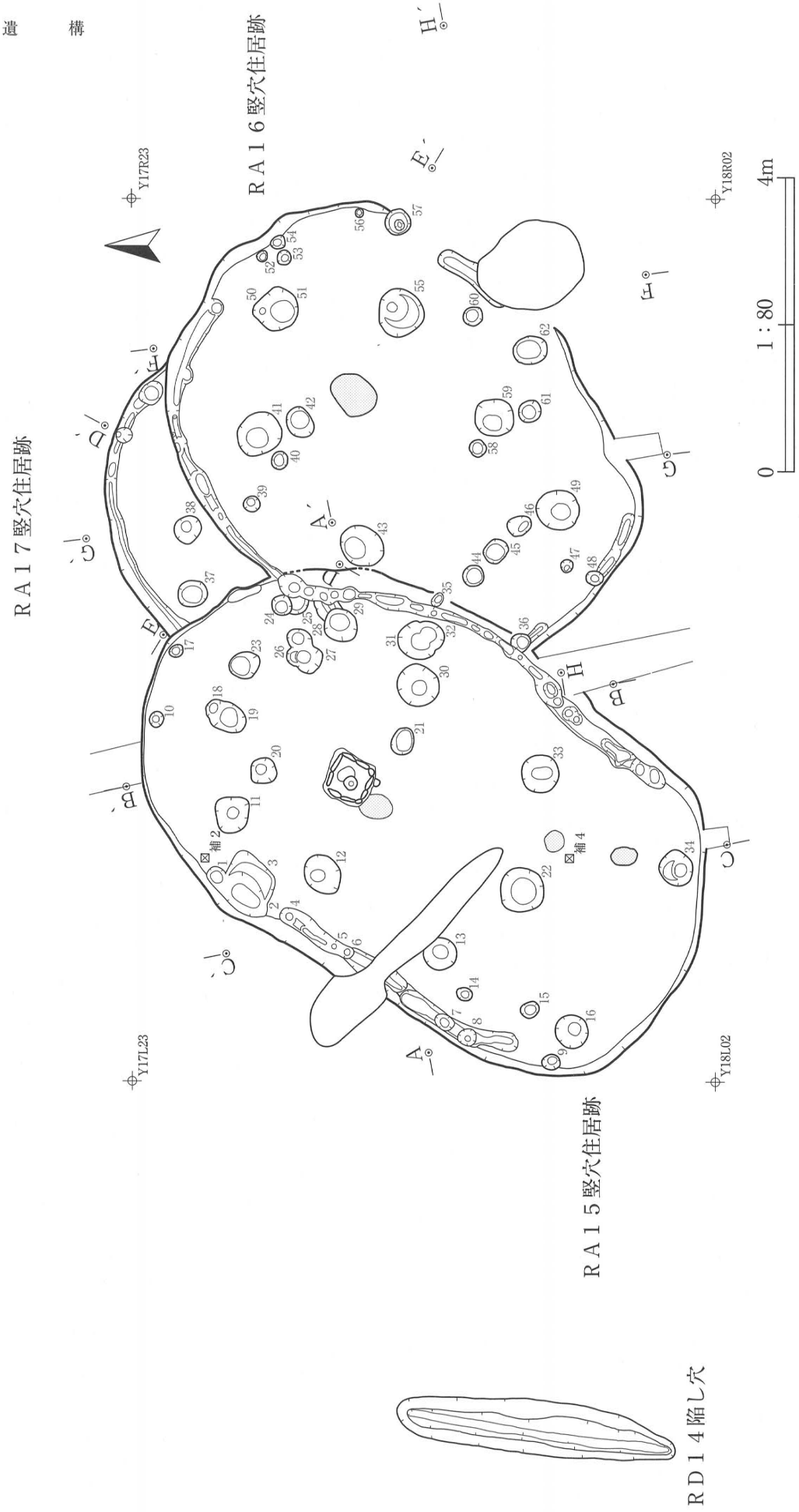
〔出土遺物〕（第44・45図、写真図版33・34）

＜土器＞　埋土および床面からⅡ群土器が出土している。周溝から90の小形深鉢、床面から91の深鉢の小破片が出土した。

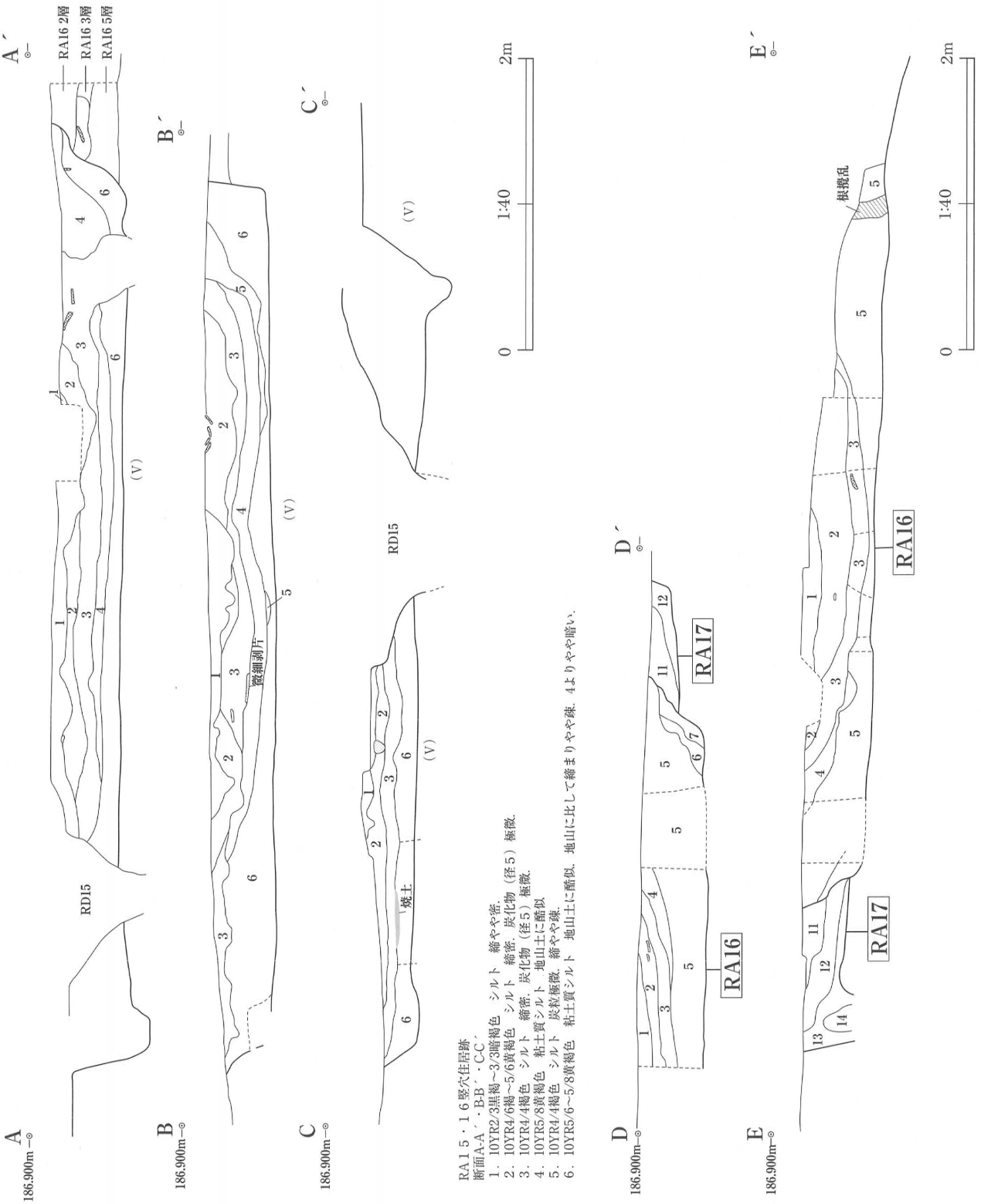
＜石器＞　尖頭器・石鏃・スクレイパーが出土した。

〔遺構の時期〕

出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。



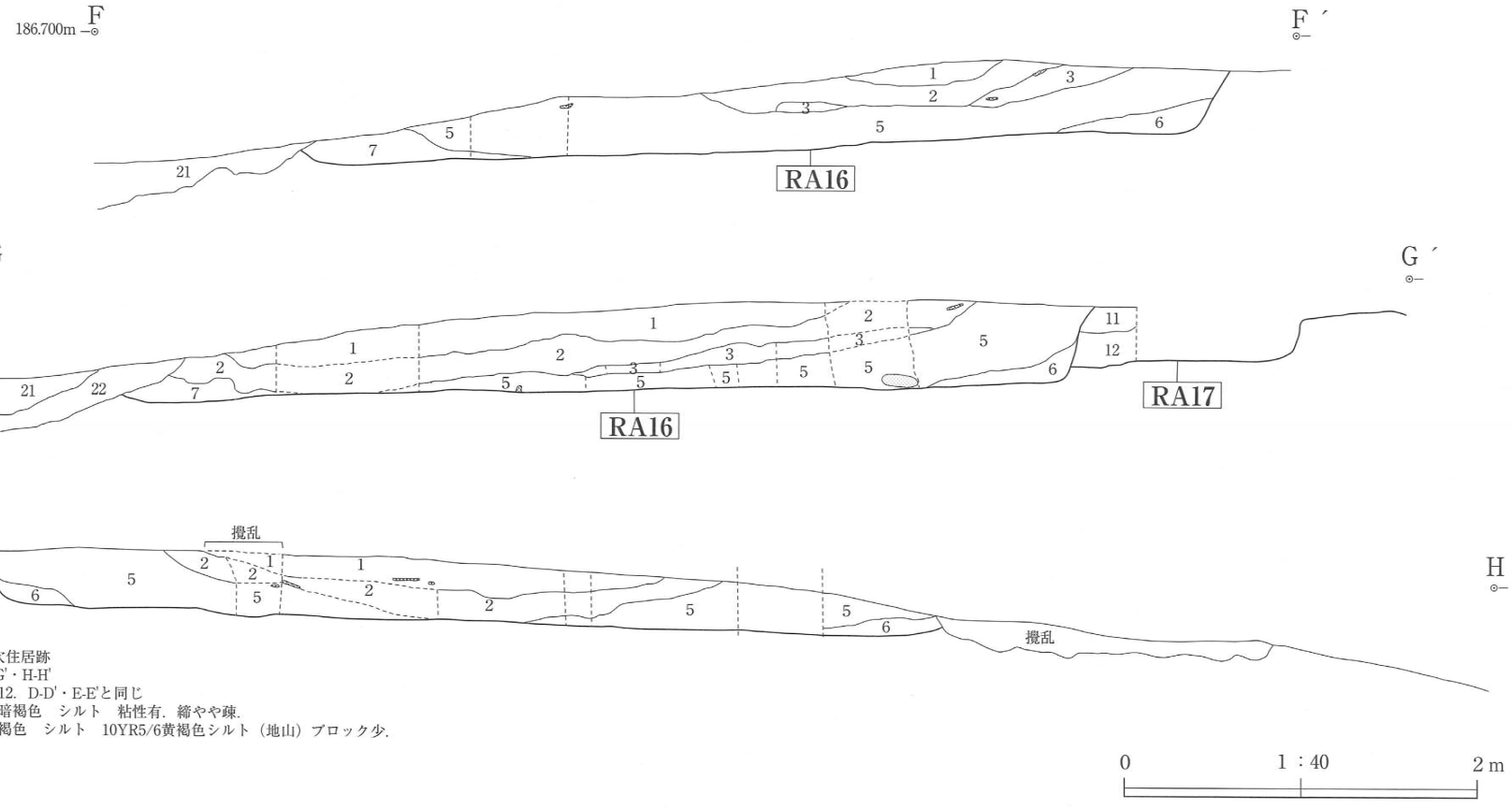
第5図　RA15・16・17竪穴住居跡平面図



RA15・16竪穴住居跡
断面A-A´・B-B´・C-C´
1．10YR2/3黒褐～3/3暗褐色　シルト　締やや密.
2．10YR4/6褐～5/6黄褐色　シルト　締密. 炭化物（径5）極微.
3．10YR4/4褐色　シルト　締密. 炭化物（径5）極微.
4．10YR5/8黄褐色　粘土質シルト　地山土に酷似
5．10YR4/4褐色　シルト　炭粒極微. 締やや疎.
6．10YR5/6～5/8黄褐色　粘土質シルト　地山土に酷似. 地山に比して締まりやや疎. 4よりやや暗い.

第6図　ＲＡ１５・１６・１７竪穴住居跡断面図（1）

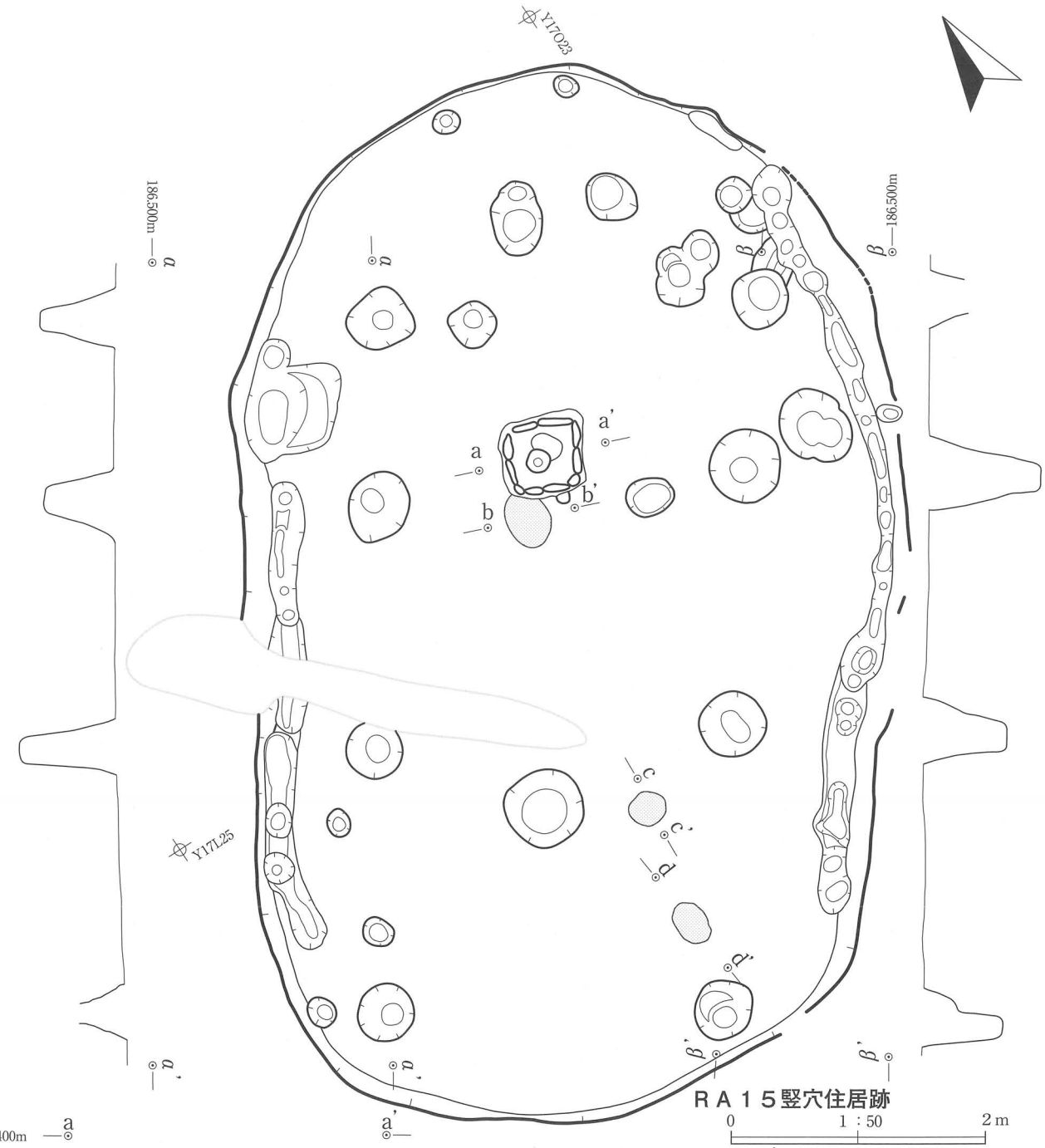
RA１６・１７竪穴住居跡
断面D-D´・E-E´
1．10YR5/6黄褐色　シルト　黄色味強く地山土との識別困難．締密．
2．10YR4/4褐色　シルト　炭化物微．１より暗く３より明るい．下面に遺物集中．
3．10YR3/3～3/4暗褐色　シルト　炭化物小片（径５～20）やや多．２層下面～３層に土器片多量．
4．10YR4/4褐色　シルト　10YR5/6黄褐色シルトブロック大量．全体黄味強．
5．10YR4/6褐色　シルト　床面直上層．
6．10YR4/4褐色　シルト　炭粒（径５～10）極微．５よりやや黒味．
7．６層に地山土ブロック多量．全体黄味．
11．10YR3/4暗褐色　シルト　炭粒（径５）極微．締密．
12．10YR4/6褐色～5/6黄褐色　シルト　全体黄味．締密．
13．10YR4/6褐色　シルト　炭粒極微．11・12より締疎．
14．10YR3/4暗褐色～4/4褐色　シルト　混入物少なく均質な土．柱痕？



RA16・17竪穴住居跡
断面F-F'・G-G'・H-H'
１～７・11・12．D-D'・E-E'と同じ
21．10YR3/4暗褐色　シルト　粘性有．締やや疎．
22．10YR4/4褐色　シルト　10YR5/6黄褐色シルト（地山）ブロック少．

第７図　ＲＡ１５・１６・１７竪穴住居跡断面図（２）

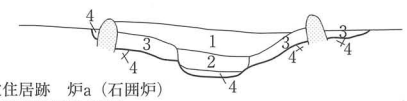
第8図　ＲＡ１５・１６・１７竪穴住居跡遺物出土状況



RA15竪穴住居跡

0　1：50　2m

186.400m　a　a'

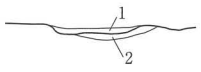


RA15竪穴住居跡　炉a（石囲炉）
1．RA15竪穴住居跡の6層.
2．10YR3/4暗褐色　シルト　炭化物（径5）極微.
　焼土ブロック（径10）極微. 締まりやや疎.
3．10YR4/6褐色　粘土質シルト　締まり密. 4層下面に薄い被熱痕.
4．10YR4/6褐色　粘土質シルト（下位の4層土）と地山ブロック（径10）の混土.
※1層は床面被覆層から連続するもの. 底面中央に3層を切り込む小ピット
（径約20）有り。埋置物痕跡か？この小ピットの周囲に薄い被熱痕跡が
あるだけで他はほとんど赤変が見られない。石囲の礫にも赤変が見られない。
※隣接する地床炉を切っている.

186.400m　b　b'

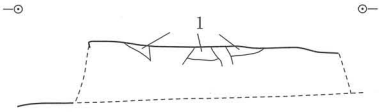
RA15竪穴住居跡　炉b
1．5YR5/8明赤褐色　シルト　焼土. 上面ガリガリに硬化.
※石囲炉に切られている.

186.400m　c　c'



RA15竪穴住居跡　炉c
1．7.5YR5/4にぶい褐色　シルト　焼土を含みやや赤味. 焼成面を覆う層.
2．5YR5/8明赤褐色　シルト　焼土. ガリガリに硬化.

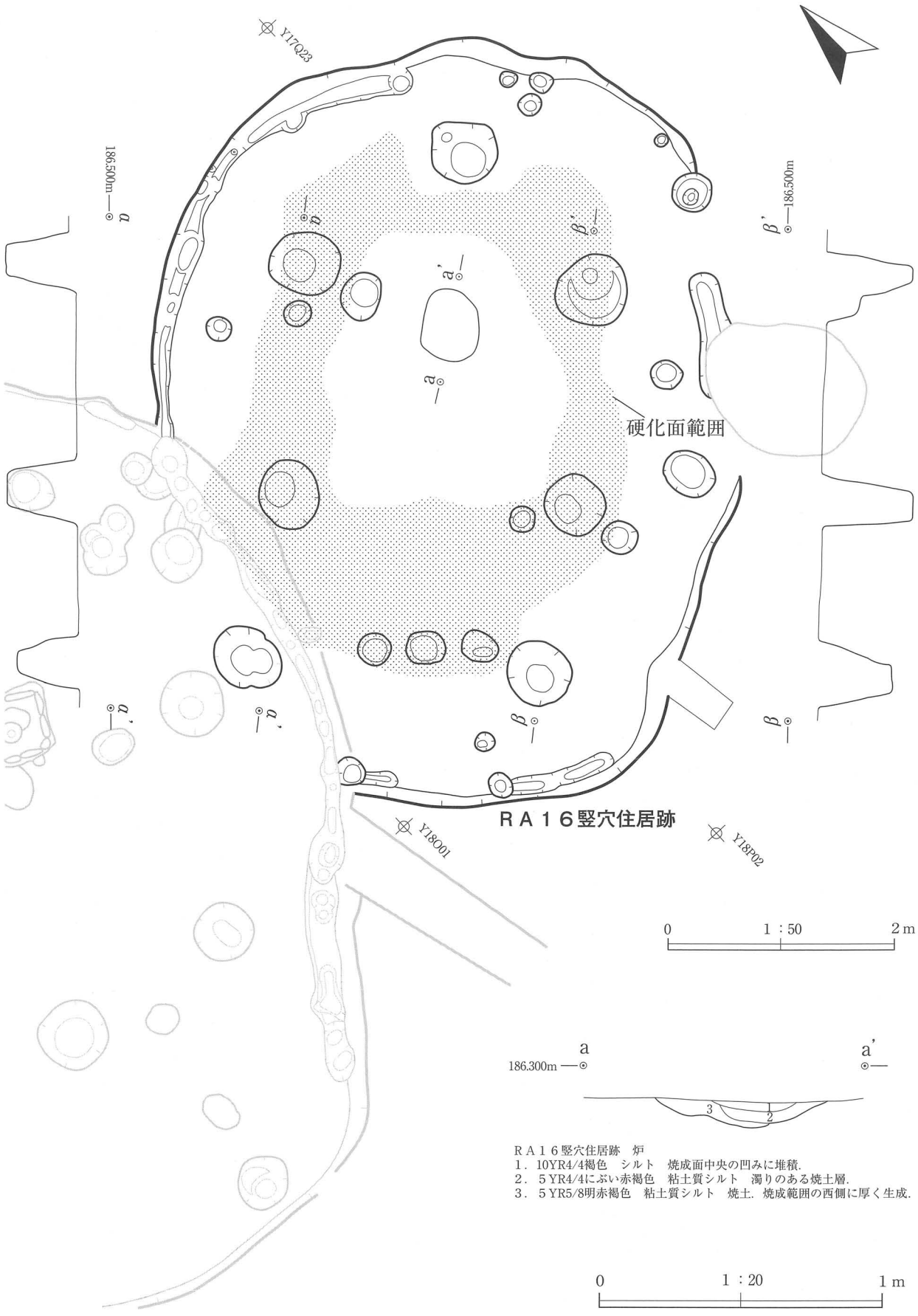
186.500m　d　d'



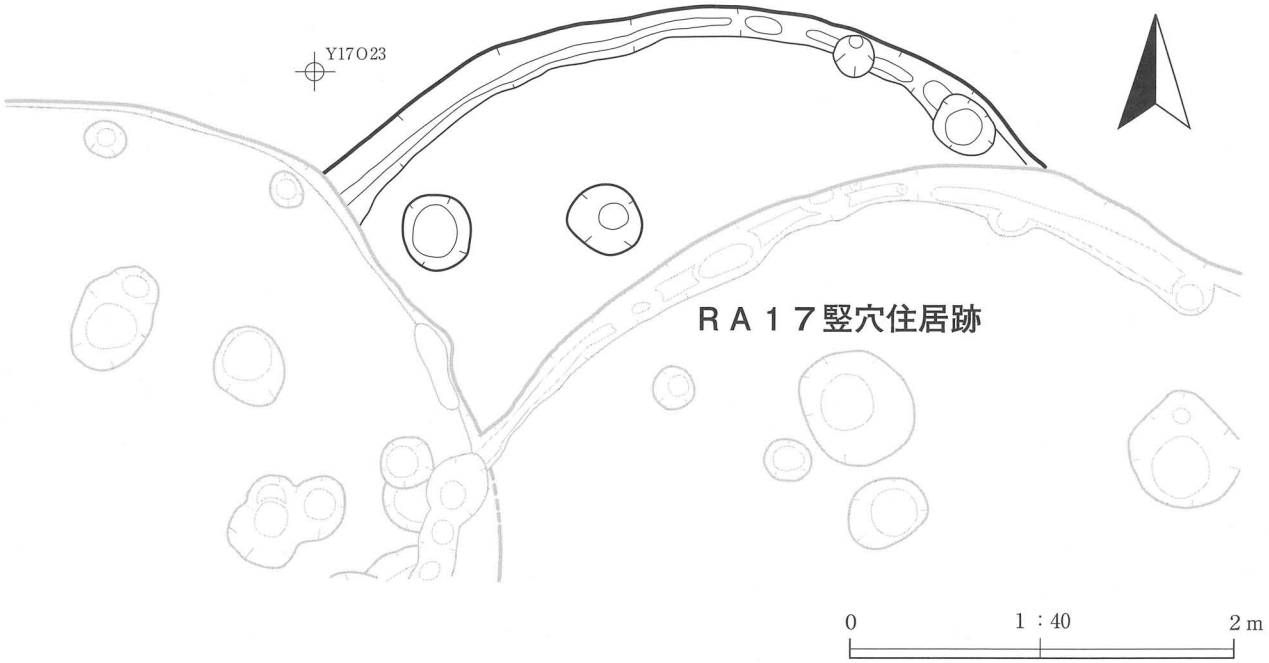
RA15竪穴住居跡　RF02焼土
1．5YR4/8赤褐～5/8明赤褐色　シルト　焼土. 締まり密.
※住居跡本体の埋没の途中で形成された焼土. 遺物集中面と同面.
根撹乱により乱されている.

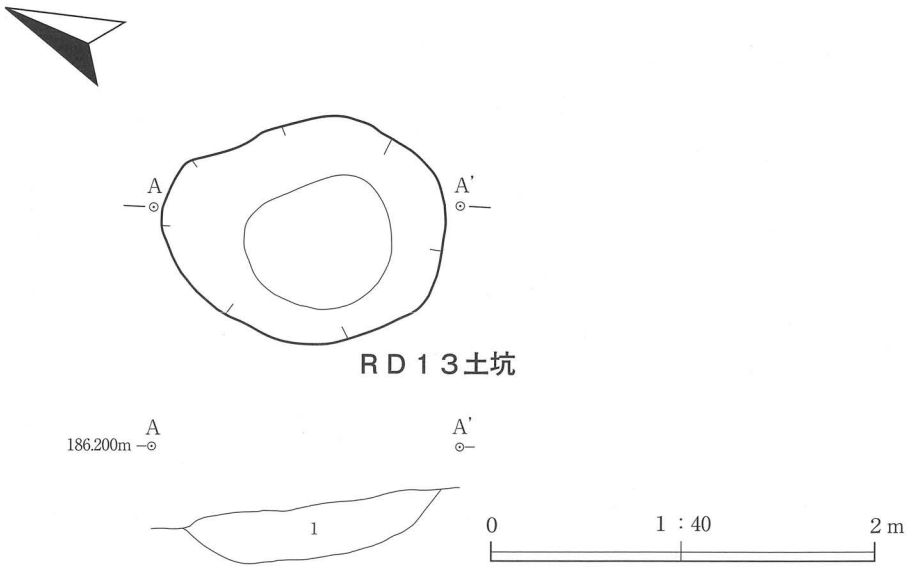
0　1：20　1m

第9図　RA15竪穴住居跡



第10図　ＲＡ１６竪穴住居跡





ＲＤ１３土坑
1．10YR3/4暗褐色　シルト　褐色土ブロック少．炭化物粒（径５㎜）微．
※人為堆積と思われる．

第11図　ＲＡ１７竪穴住居跡・ＲＤ１３土坑

（2）土坑

ＲＤ１３土坑（第11図、写真図版９）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Ｙ17Ｑ25グリッドに位置する。ＲＡ16竪穴住居跡の床面精査の際に、当該住居跡の東壁側の周溝に重複する暗褐色土の円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕

開口部は148×120cmの楕円形で、底面までの残存深度は28cmである。

〔埋土と堆積状況〕

暗褐色シルトを主体とし、Ⅲ層土類似の褐色土ブロックを全体に含む。褐色土ブロックは底面や壁際に偏ることなくほぼ均質に含まれていることから、人為的に埋められた可能性がある。

〔重複遺構〕

ＲＡ16竪穴住居跡より新しい。

〔出土遺物〕

なし。

〔遺構の時期〕

埋土の様相から縄文時代中期中葉に帰属するものと考えられる。

（3）陥し穴

ＲＤ１４陥し穴（第12図、写真図版９）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Ｙ17Ｊ25～Ｙ18Ｊ02グリッドに位置する。Ｖ層上面において黒褐色土の明瞭な長楕円形の範囲として検出された。

〔規模・形状〕

開口部の平面形は385×74cmの不整長楕円形で、底面までの残存深度は126cmである。壁面は下半部がほぼ垂直であるのに対し、上半部が外反気味に大きく開いている。底面は全体的に平坦で両端のみ僅かに低くなっている。底面に小穴等は認められなかった。

〔埋土と堆積状況〕

最下部及び最上部には埋没時の表土とみられる黒褐色土が堆積するが、遺構内の大半は壁面崩落土と思われる地山Ｖ層類似の黄褐色土によって埋没している。

〔重複遺構〕

なし。

〔出土遺物〕

埋土からⅡ群土器が数片出土している（19-101～103）。

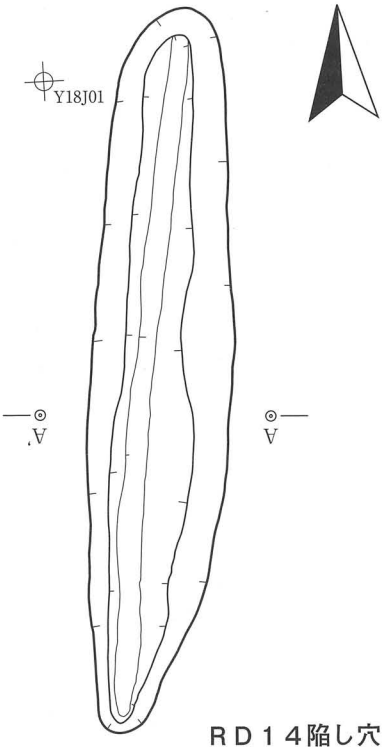
〔遺構の時期〕

形態と埋土の様相から、ＲＤ15と同時期と考えられる。

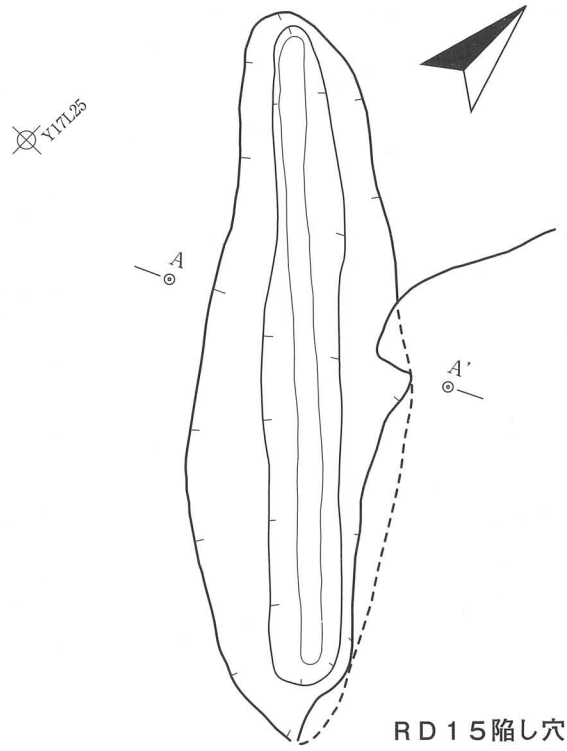
ＲＤ１５陥し穴（第12図、写真図版９）

〔位置・検出状況〕

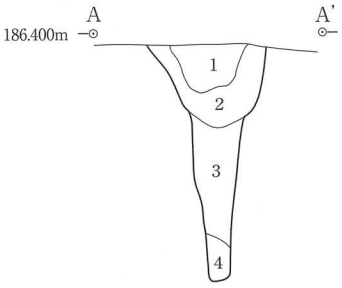
調査区中央部、Ｙ17Ｌ24～Ｙ17M25グリッドに位置する。Ｖ層上面において黒褐色土の明瞭な長楕



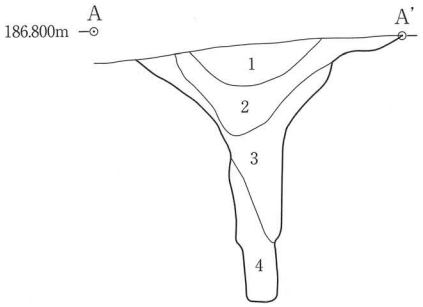
RＤ１４陥し穴



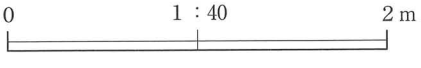
RＤ１５陥し穴



RＤ１４陥し穴
1．10YR2/2～2/3黒褐色　シルト　締やや疎.
2．10YR3/3暗褐色　シルト　地山土やや多.
3．10YR4/4褐色　シルト　地山崩落土.
4．10YR3/3暗褐色　シルト　締疎.



RＤ１５陥し穴
1．10YR5/6～5/8黄褐色　シルト　締密.
2．10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性有り.
3．10YR2/2　黒褐色　シルト　地山土多量.
4．10YR2/2　黒褐色　シルト　地山土大量.
※　地山土　10YR5/6　黄褐色　シルト　ブロック　締疎.



第12図　ＲＤ１４・１５陥し穴

円形の範囲として検出された。

〔規模・形状〕

開口部の平面形は388×122cmの不整長楕円形で、底面までの残存深度は142cmである。壁面は下半部がほぼ垂直であるのに対し、上半部が外反気味に大きく開いている。底面は全体的に平坦で両端のみ僅かに低くなっている。底面に小穴等は認められなかった。

〔埋土と堆積状況〕

埋没時の表土とみられる黒褐色土が埋土の主体土であるが、遺構内の大半は壁面崩落土と思われる地山Ⅴ層類似の黄褐色土によって埋没している。

〔重複遺構〕

なし。

〔出土遺物〕

埋土からⅡ群土器が数片出土している（19-104～107）。

〔遺構の時期〕

ＲＡ15より新しい、縄文時代中期中葉以降に属すると考えられる。

（４）焼土遺構

ＲＦ０２焼土（第９図・写真図版３）

調査区中央部、Ｙ18M01グリッドに位置する。ＲＡ15竪穴住居跡の精査の過程において、南端部付近の埋土中から検出された。平面形は36×28cmの楕円形、中央部での焼土の厚さは約４cmである。全体が根攪乱によって乱されている。焼土の締まりは密で燃焼部上面はやや硬化している。

同一面からは投棄されたと思われる土器等の遺物が多量に出土している。層位的事実や出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属するものと考えられる。

（５）捨て場（遺物包含層）

捨て場は、調査区の尾根頂部東部から南東に形成されたY17Y19～Z17L20グリッドに位置する斜面地で検出された。調査区東部の斜面は南東方向に向かって傾斜しており、高低差は東部５区と東部２区とで約1.5m、最東端の１区では、現地表面からの深さが約3.5mとなっている。遺物量は東部（斜面下方）に向かって多くなる。

調査区は尾根縁部の斜面を斜めに横断しており、さらに幅２ｍという狭い調査範囲であったため、捨て場全体の堆積状況を把握することは困難であった。しかし、個別の地点における土層の堆積状況は比較的明瞭に把握でき、遺物の面的な上下関係を捉えることができた。

調査区南東の捨て場（調査区中央東部）はY17T24～Y17W24グリッドにかけて大きく撹乱されており、Y17V22～Y17X23グリッドと、調査区南東コーナーのY17X24グリッドにかろうじて撹乱をまぬがれた部分が検出された。撹乱のないところは調査区東部の捨て場とほぼ同様の堆積状況であった。

①捨て場の区割

調査区東部は、精査の初段階において、斜面に沿って多量の遺物が層位的な上下を保って堆積している可能性が高いと思われた。調査区が細長い東部斜面では、傾斜方向に合わせた堆積状況の観察を行うため、グリッドとは軸の異なる区割を設定した。調査区に沿って５ｍごとに任意の区画を設定し、東側から東部１区・２区・３区・４区・５区という区割りを設定し、遺物を取り上げた（第４図）。

調査区中央東部から出土した遺物は、グリッドごとに遺物を取上げた。

②遺物出土状況と取り上げ方法

調査区東部の精査において、まず東部２・３・４区で遺物の集中が面的に広がる箇所（復元可能な単一個体または同時廃棄による複数個体のまとまり）が３箇所検出された。この３つのグループのうち、一番東側のグループは黒褐色土、他の２つのグループは黄褐色土に遺物が包含されており、それぞれのグループを「黒褐色土層」（東部２区）、「黄褐色土層上面」（東部３区）、「黄褐色土層下面」（東部３・４区）出土遺物として一括して取上げた。遺物を取上げた後、黒褐色土層（東部２区）を掘り下げた結果、その下に東部３区と同様の黄褐色土に包含された遺物集中面が検出され、黒褐色土と黄褐色土の層序を確認することができた。さらに黄褐色土層を掘り下げると、黄褐色土上面で検出されたものとは異なる黒褐色土が見られ、これを「黄褐色土下位黒褐色土層」、先の黄褐色土より上位の黒褐色土を「黄褐色土上位黒褐色土層」と区別して、遺物を取上げた。「黄褐色土下位黒褐色土層」以下は、ほとんど遺物が出土しなかった。

後に「黄褐色土上位黒褐色土層」をⅡ層、「黄褐色土層」をⅢ層（「黄褐色土層上面」をⅢ層上面、「黄褐色土層下面」をⅢ層下面として細分）、「黄褐色土下位黒褐色土層」をⅣ層と、名称を整理した。

この土層堆積状況は調査区中央東部にも認められ、同じ層序で取り上げた。

Ⅲ層は遺物集中面を上面、下面に分けて遺物を取り上げた。その後調査区東部の基本層序を検討した結果、Ⅲ層が２つに分層できることがわかり、それぞれⅢa層・Ⅲb層と名づけた。ただし、基本層序におけるⅢa層・Ⅲb層が遺物取り上げの際に便宜的に用いた「Ⅲ層上面・下面」の呼称に対応するものではないことに留意されたい。

③捨て場の形成時期と集落について

今次調査で検出した捨て場の形成時期は出土土器から縄文時代中期中葉に位置づけられる。この地点は第１次調査において同時期の捨て場が確認された地点（第１次調査B区）に隣接しており、両者は連続するものとみられる。

また、調査区中央部に分布する住居跡や第１次調査A区で確認された住居跡は捨て場形成時期と同時期のものであり、これらの住居によって構成された集落に伴う捨て場であったと理解される。

3　遺物（表3～5・第13～32図・写真図版12～34）

（1）縄文土器

出土した遺物の総量は大コンテナ25箱分である。遺構内出土土器は主に竪穴住居跡の埋土から、遺構外としたものは調査区東部の斜面に堆積していたⅢ層（Ⅲa層）から出土したものが大半を占めている。調査区中央部の竪穴住居跡外や西側斜面地では、遺物が少なかった。また、西側斜面地は大きな攪乱を受けており、出土層位を把握することができなかった。

出土土器の主体は縄文時代中期に位置づけられ、縄文時代早期の土器も若干出土している。分類については松屋敷遺跡第1次調査のものを参考に、早期の土器を第Ⅰ群、中期の土器を第Ⅱ群とし、さらに小分類を1類・2類・・・、a類・b類・・・として記載した。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期に属する土器群である。

本調査で出土した第Ⅰ群土器は6点のみで、全て小破片である。口縁部破片の2点は斜位（左下り）の貝殻復縁文を地文とし、口縁部に横走する刺突文が施される（1・2）。体部破片には斜位（左下り）の貝殻腹縁文を地文とするもの（3・5・6）や貝殻腹縁文を矢羽状に施したもの（4）がある。

第Ⅱ群土器

縄文時代中期に属する土器群で、器形や文様要素の違いから以下のように細分した。

・Ⅱ群1類

円筒上層式またはその影響が顕著に見られるもので、器種は深鉢がある。文様の特徴から、①口唇部に原体圧痕が施された波状隆帯があり、口縁部に爪形の原体圧痕が施されるもの（73・116・119・256）、②波状口縁の頂部から垂下する2条の隆帯文と、曲線状の隆帯文が施されるもの（117・128・191・250・252）、③細い弧状の隆帯文が施されるもの（43・147・158）、④細い弧状の沈線文が施されるもの（33・157・207・209）に細分される。それぞれ①円筒上層b式、②円筒上層c式、③円筒上層d式、④円筒上層e式に相当すると考えられる。

その他、円筒上層式と大木式を折衷した様なもの（Ⅱ群2類74）や、装飾の一部にその影響を受けたと見られるもの（72・123の口唇部装飾）がある。

・Ⅱ群2類（大木7b式）

原体圧痕文を多用して文様が施される土器群である。器種には深鉢と浅鉢がある。深鉢はキャリパー形を呈するものがあるが、屈曲が弱い。ほとんどが平縁で、弁状突起や山形突起が施されるものがある。文様は口縁部に集約される傾向があり、原体圧痕のみで文様が施されるもの、隆帯に沿って原体圧痕が施されるもの（8・142）、隆帯により文様が区画されるもの（153・154）がある。体部には綾絡文（153）や羽状縄文（206）が見られる。

浅鉢は平縁と波状口縁のものがある。また底部に段が付く特徴が見られる（122・253・257・258）。口縁部に文様が施されるものが多く、波状・ループ状の原体圧痕文（118など）やボタン状貼付（270など）が見られる。体部文様には隆帯文（258）・沈線文（188）・原体圧痕文（219）などがある。

・Ⅱ群3類

隆帯・沈線・隆沈線により文様が描かれる土器群である。器種は深鉢と浅鉢のほかに、コップ様の鉢（41）がある。

深鉢はキャリパー形のもの（７など）、口縁部が内傾するもの（15・79など）、外反するもの（14・86など）があるが、キャリパー形のものが主流である。口縁部形態は平縁と波状口縁（237・264）がある。平縁には４単位の弁状突起が施されるものが多く（78・129・145など）、その他の口縁部装飾としては、S字状隆帯の貼付（15）、三角状突起（135）、波上隆帯文（74・86など）がある。文様は口縁部に集約され、特に平縁でキャリパー形のものにその傾向が顕著である。口縁部の文様は、隆帯・沈線・隆沈線により山形波状文（13・23など）・屈曲文（7・129など）・渦状文（28・56など）などのモチーフを描き、これらを組み合わせて用いている。特に山形波状文と渦状文の組み合わせが多い傾向にある。文様の上下端の接点には、貼付突起や縦位の刻み目が施されるもの（７・27・129など）がある。原体圧痕文も見られるが、文様モチーフの主体とはならない（135・243など）。体部文様は隆帯文（15・79・220）、隆沈線（86・152）、沈線（148）により、口縁部とは趣の異なる幾何学的なモチーフが描かれる。地文は口縁部文様帯では横回転、体部では縦回転で施される傾向がある（27・28など）。地文は、口縁部は横回転、胴部は縦回転に施されるものが多い。

浅鉢は平縁で、口縁部に文様が集約するものと体部にまで文様が広がるもの（22・215・217）がある。文様は隆帯文によるものが主体だが、深鉢に比べると原体圧痕文が多用されている（22・77・214・215）。体部文様には縦位の隆帯文や原体圧痕文が見られる。

・Ⅱ群４類

隆帯･沈線･隆沈線により文様が描かれる土器群である。器種は深鉢で、器形はキャリパー形（106･273・282）や口縁部が外傾するもの（25・34・84・287）がある。キャリパー形は平縁、外傾するものは波状口縁で、頸部に無文帯や文様帯をもつもの（25・34・280）、波頂部に渦状文が施されるもの（84）がある。文様モチーフには隆帯文と沈線文による渦文が多用され、隆帯文と沈線文は一体化して調整がなされる。他の類系に比べて胎土や焼成が良い。。

・Ⅱ群５類

中期に属する粗製の土器、網代痕や木葉痕をもつ底部破片、小形土器、その他全体形をうかがうことはできないが、特徴のあると思われるものを一括した。

網代痕が観察できたのは18・151の底部破片のほかⅡ群2類の206、木葉痕は90の小形深鉢である。深鉢と浅鉢を問わず、土器を仕上げる際には底面から底部直上にかけて調整がなされるものが多く（68・75・80など）、これらの痕跡が残り難かったと考えられる。

小形土器には19・20・46・47・90・136・149・251がある。他の土器に比べて極端に小さいが、成形方法が同じことからミニチュアとは区別される。器種は深鉢と壷形様のものがある。

44はいわゆる器台と呼ばれるものである。粗雑な造りで、器面が粗い。

（２）土製品

ミニチュア土器（291～298）

完形状態の器高及び最大幅が概ね10cmに収まると思われるものを集めた。手捏ね成形によるものが多いが、297は細い粘土紐による輪積み痕が内外面に明瞭に観察される。295・298は底部を欠損し全体形状は不明であるが浅鉢形を呈すると思われる。このうち298の体部には2つの貫通口が観察される。

円盤状土製品（299～301）

土器片を素材とし、周縁を打ち欠きや研磨で成形した板状の土製品である。300・301は円形、299は長楕円形を呈する。

その他（302・303）

302は紡錘車様の土製品である。一方が球面状の凸面、反対面が椀状の凹面をなし、凸面上端部と凹面底部を連絡する孔を持つ。孔の周囲や外縁部は丁寧な面取りとナデが施され、全体が曲面で構成されている。両面の一部にはアスファルト様の黒色付着物が残存している。

303は円筒形を呈する土製品の一部とおもわれる。外面は比較的丁寧になでられているが、内面には粘土の接合部をなで消す縦横の雑な調整が見られるのみである。規則的な輪積み痕は認められず、粘土塊を手捏ねで継ぎ合わせ成形したものと思われる。

（3）石器類

尖頭器（304～307）

4点登録、2点を図示した。304・305は細長い刃部の下端近くに最大幅を持ち、その直下が窄まって比較的明瞭なくびれをもつ。欠損している下端部には本来茎部があったと思われる。307・308は先の2点に比して幅広で、細部加工未了のまま放棄された未成品と見られる。

石鏃（308～323）

16点登録、5点を図示した。茎部形状で分類すると、有茎円基6点、有茎平基3点、無茎凹基4点、不明3点となる。有茎円基鏃は6点中5点が茎部を欠損、3点にアスファルト様付着物が認められた。他の形態には付着物はみられなかった。

石錐（324～328）

5点登録、2点を図示した。324・325は剥片の一端に細長い刃部が作り出されたものである。ほかの3点は全体が細長く刃部と摘み部の境界が不明瞭なもので、尖頭器あるいは石鏃に分類すべきものかも知れない。

石匙（329～334）

6点登録、3点を図示した。329・330は横長の体部をもつ。両面加工による直線的な刃部を持ち、これと直交する方向に延びる摘み部を持つ。331もこれらに似た形状であるが、刃部及び摘み部作出の細部加工が雑であり未成品の可能性が高い。332～334は概ね三角形を呈する素材剥片に部分的に細部加工が施されたもので、石匙製作が意図された未成品とみられる。

石篦（335～341）

7点登録、5点を図示した。335～337は長さ8㎝前後の短冊形を呈する両面加工石器である。両側縁は雑な加工ながら直線的に整えられ、下端部は入念な細部加工により弧状の刃部を形成している。340・341はこれらと同種の欠損個体であろう。338・339は長さ6㎝前後とやや小形の長楕円形を呈するもので、縁辺全周の両面に入念な細部加工が施されている。

削器・掻器類（342～356）

15点登録、3点図示した。素材剥片縁辺の一部または全部に細部加工剥離による刃部が形成されたもののうち、上記の定形石器に分類されなかったものをまとめた。本来他の器種に帰属させるべき個体が含まれている可能性がある。342は薄い素材剥片の両側縁に連続的な細部加工が両面から施され長軸の一端に尖頭部が作り出されているものである。表裏両面の中央部には広く素材原面が残されている。折損により本来形状が不明だが、幅広の尖頭器または石匙等に分類すべきものかもしれない。

磨敲器類（357～401）

45点登録、9点図示した。面的な広がりを持つ磨痕・敲打痕や点的な打撃痕の凹部など、使用痕が複合して観察される石器である。凹部を持たないもの（357～382）、凹部を持つもの（393～401）、いわゆる「特殊磨石」（383～392）の3類に分けている。

石皿・台石（402～407）

6点登録、1点図示した。402は周縁に高まりが作り出されている。裏面にも磨り作用による平滑面が認められる。他の個体もやや大きめの自然礫に磨り作用による平滑面や敲打を受けた痕跡が認められるものである。

石斧（408～411・420）

5点登録、4点図示した。401～411は磨製石斧である。全ての面に研磨による擦痕が認められる。このうち411は欠損個体であるが、おそらく本来形状の長軸（正中線）上の表裏に、擦り切りによる溝が形成されている。420は打製石斧である。

棒状石製品（412～414）

3点登録、全て図示した。細長く扁平な素材礫に打ち欠きや研磨を加え整形したものである。

その他（415～419）

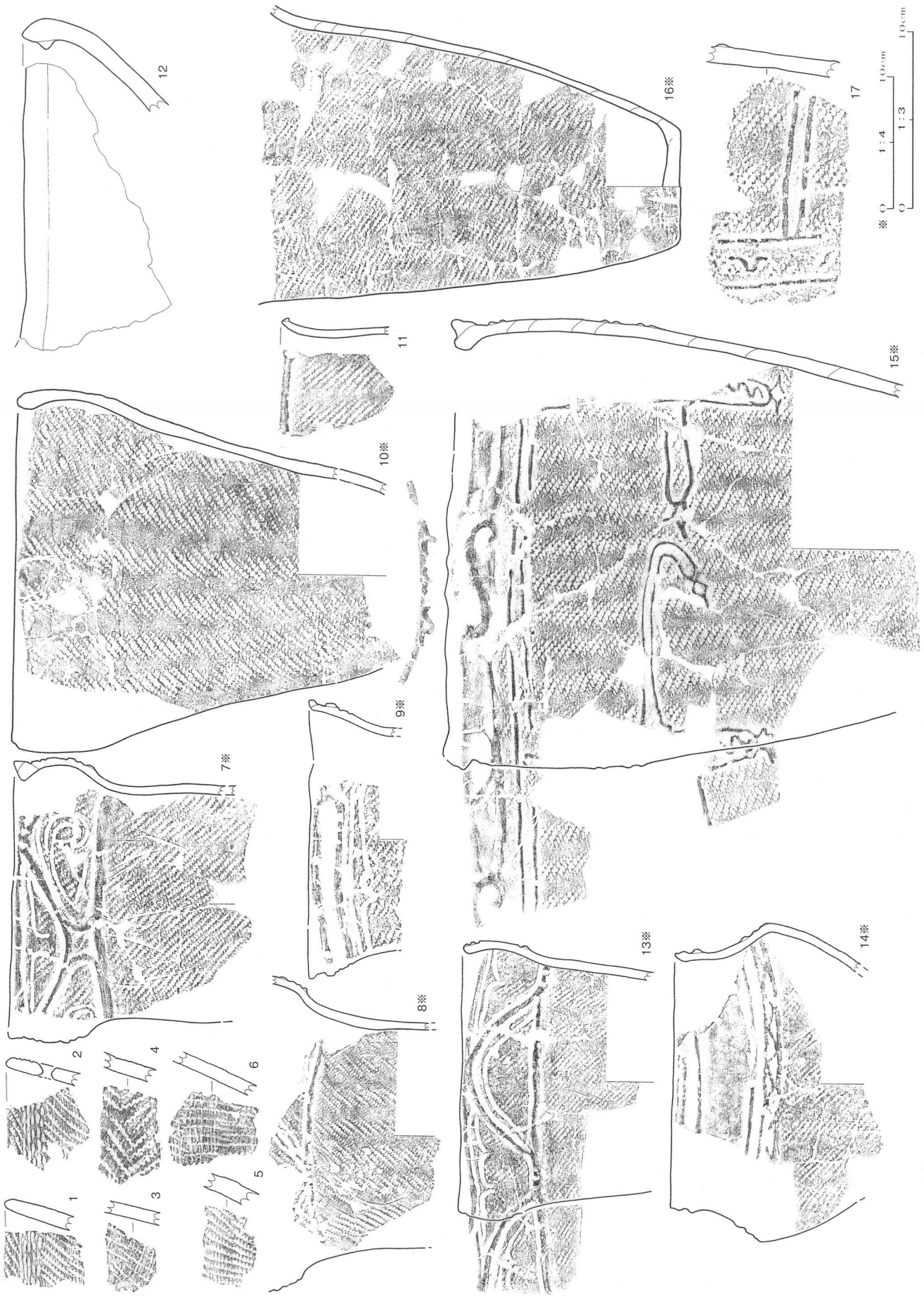
415は凝灰岩製の石製品である。石斧の基部に良く似た成形がされているが欠損品のため原形は不明である。

416はいわゆる三角壕形石製品である。研磨によって成形されているが、表面には磨痕・敲打痕・円錐状の凹部など、磨敲器と同様の使用痕が認められる。

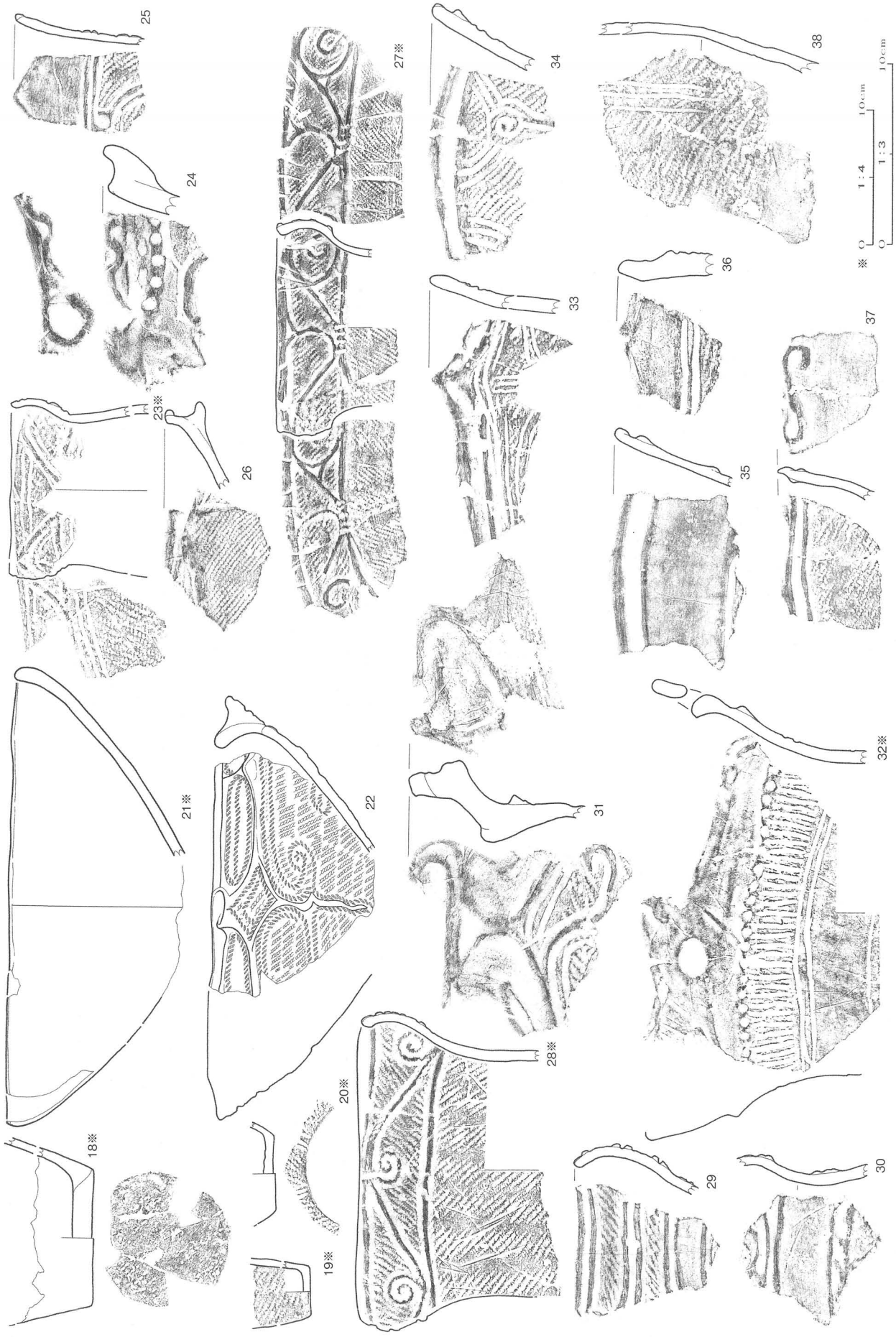
417はRA15埋土から集中して出土した微細剥片である。写真のみ掲載した。採取した総量は53.7ｇだが、周辺土壌に紛れて拾い漏らしたものがある可能性は高い。全て奥羽山脈産頁岩で、母岩は少なくとも4種ある。大きさはいずれも長さ・幅が20㎜以下で、打瘤を残す最小個体は5㎜四方程度である。二次的加工や使用痕を持つ個体は含まれていない。石器の細部加工段階で生じた微細剥片（屑片）が集められたものと思われる。

418はコハクである。保存のため乾燥重量は計測していないが、出土総量は直径80㎜のシャーレに適量入れた状態で約10個分となり、このうちの一部を写真掲載した。大半が微細な欠片だが、わずかに含まれる玉状の個体は加工を受けている可能性が高い。玉状の個体は20×10㎜ほどの楕円球状を呈するものが多く、その欠損品と見られるものも複数認められる。

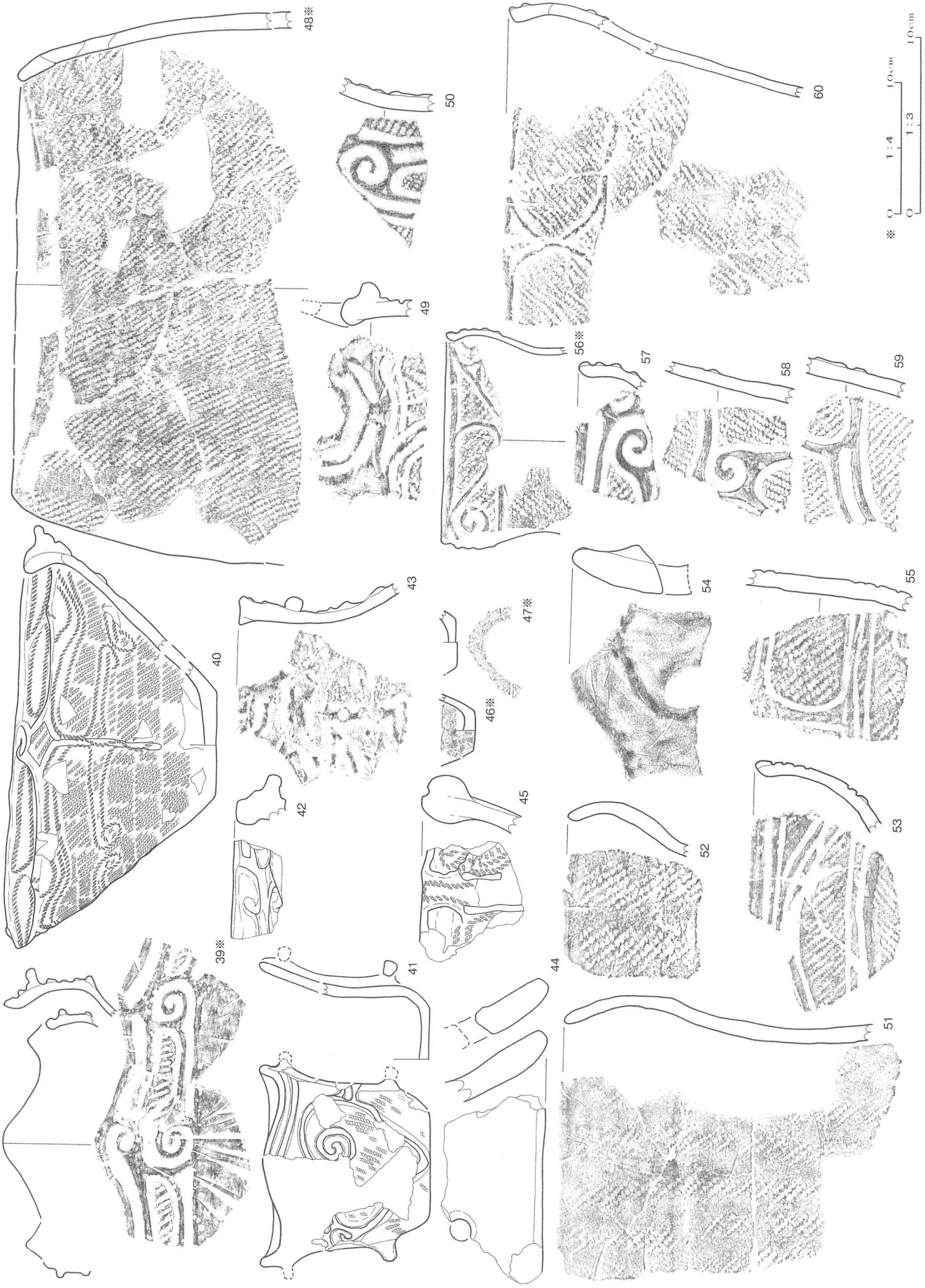
419はメノウの原石である。加工痕はないが滑らかで光沢のある美しい個体である。住居埋土からの出土であることから特に登録したものである。



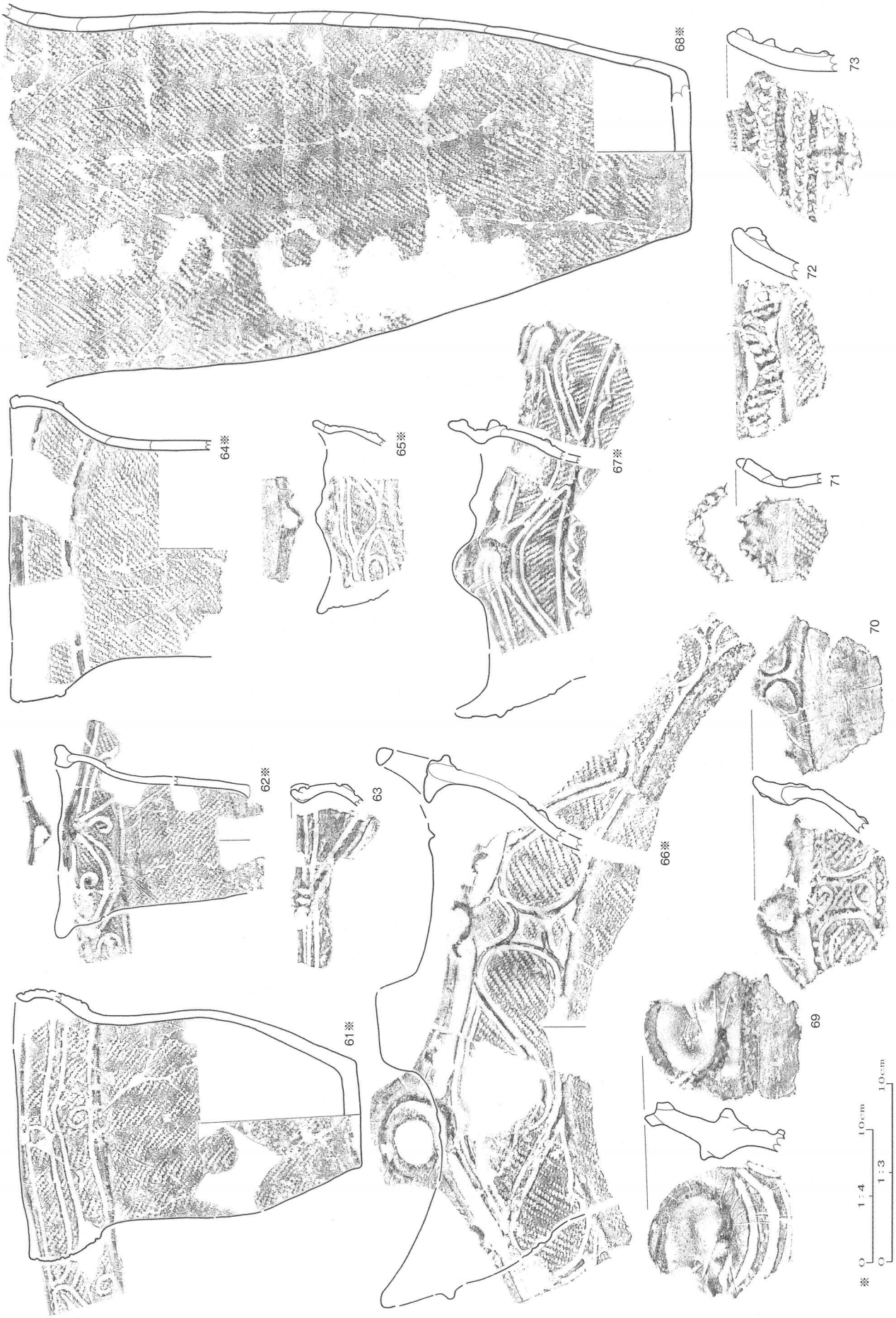
第13図　出土遺物（1）



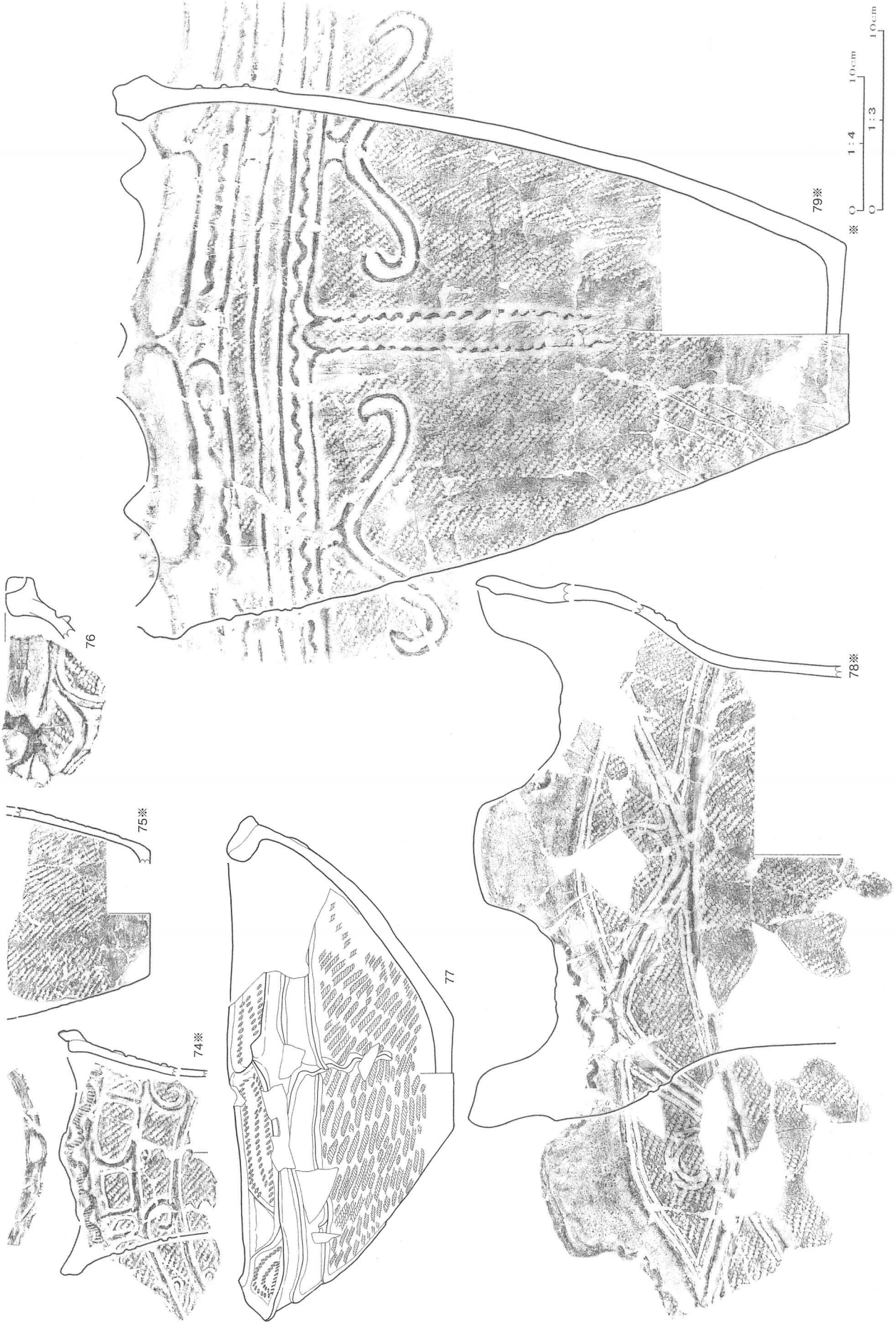
第14図　出土遺物（2）


※
0
1:4
10cm
0
1:3
10cm
39※
40
41
42
43
44
45
46※
47※
48※
49
50
51
52
53
54
55
56※
57
58
59
60

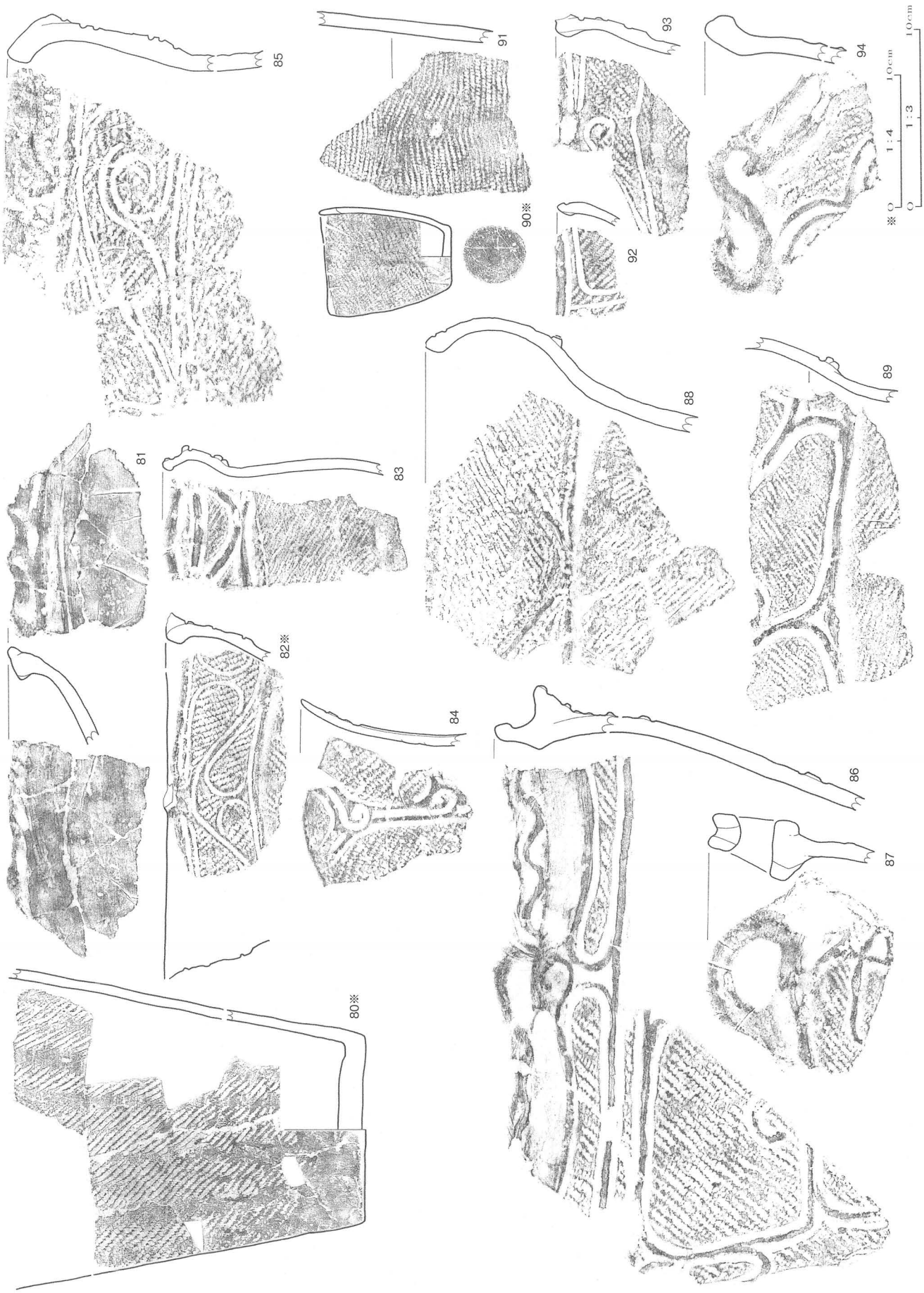
第15図　出土遺物（3）



第16図　出土遺物（4）



第17図　出土遺物（5）



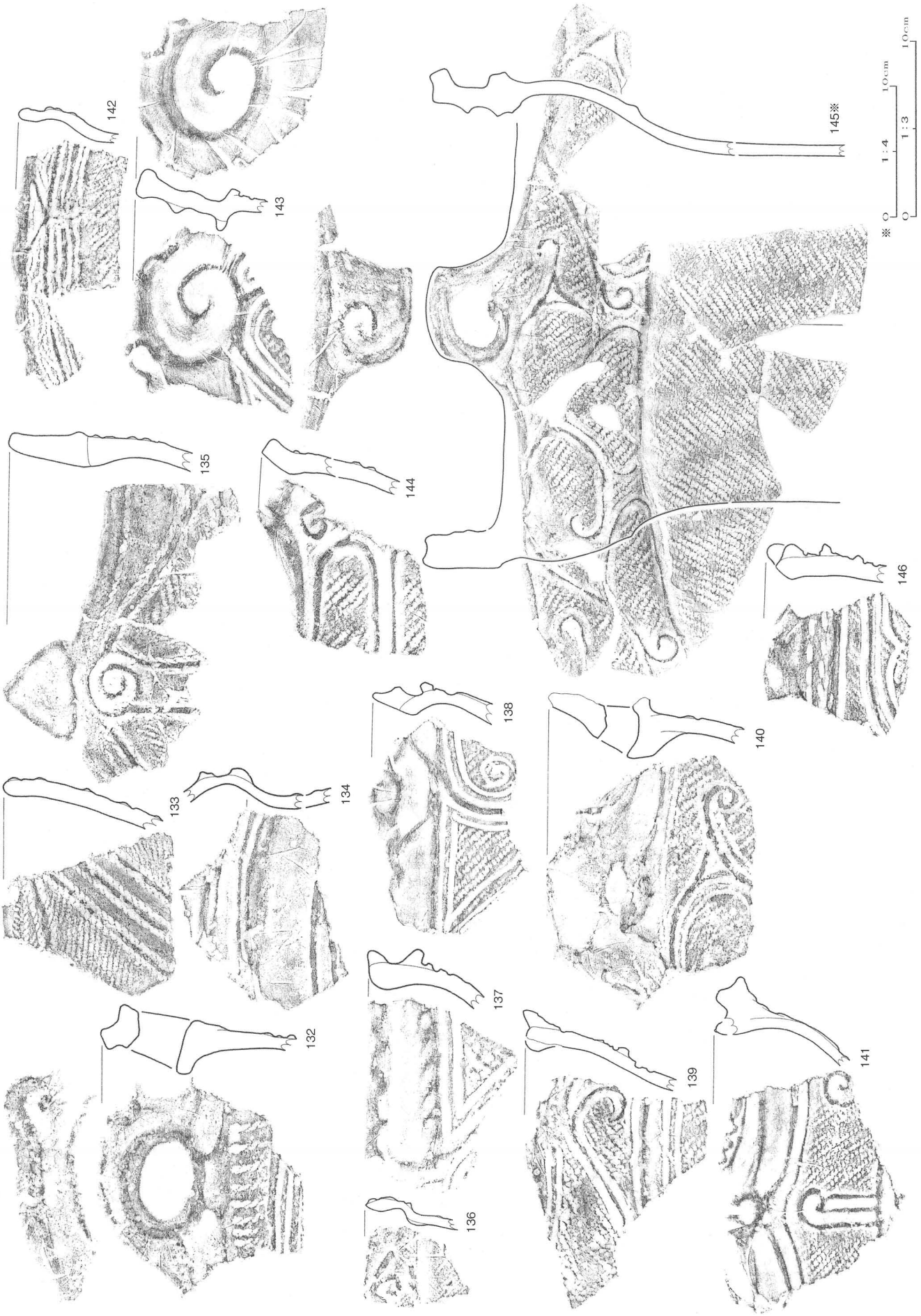
第18図　出土遺物（6）

95
96
97
98
99
100※
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110※
111
112
113
114
115
116
117
118
119※
※0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

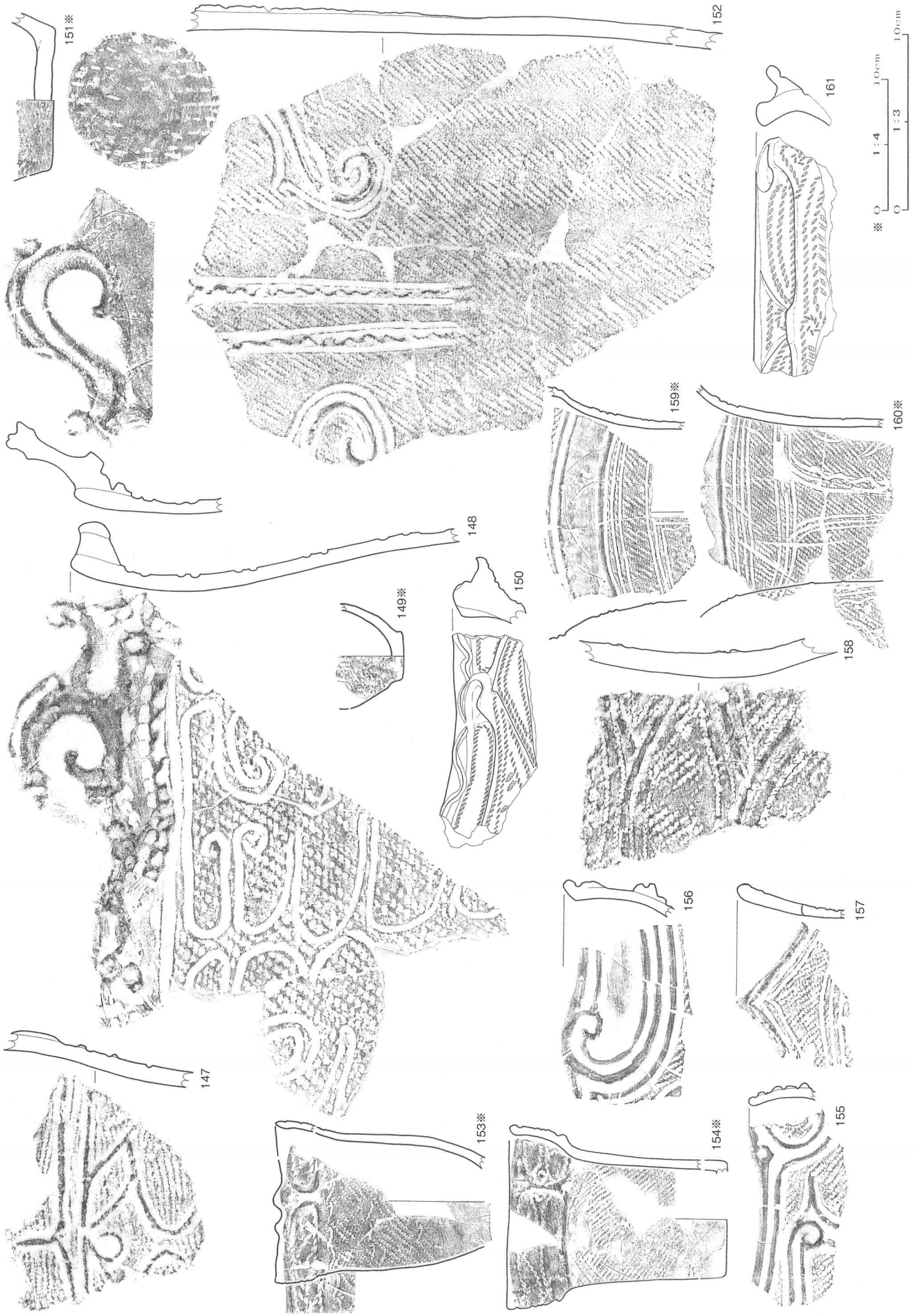
第19図　出土遺物（7）

120
121
122※
(122拓本)
123
124
125※
126
127
128※
129※
130
131
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

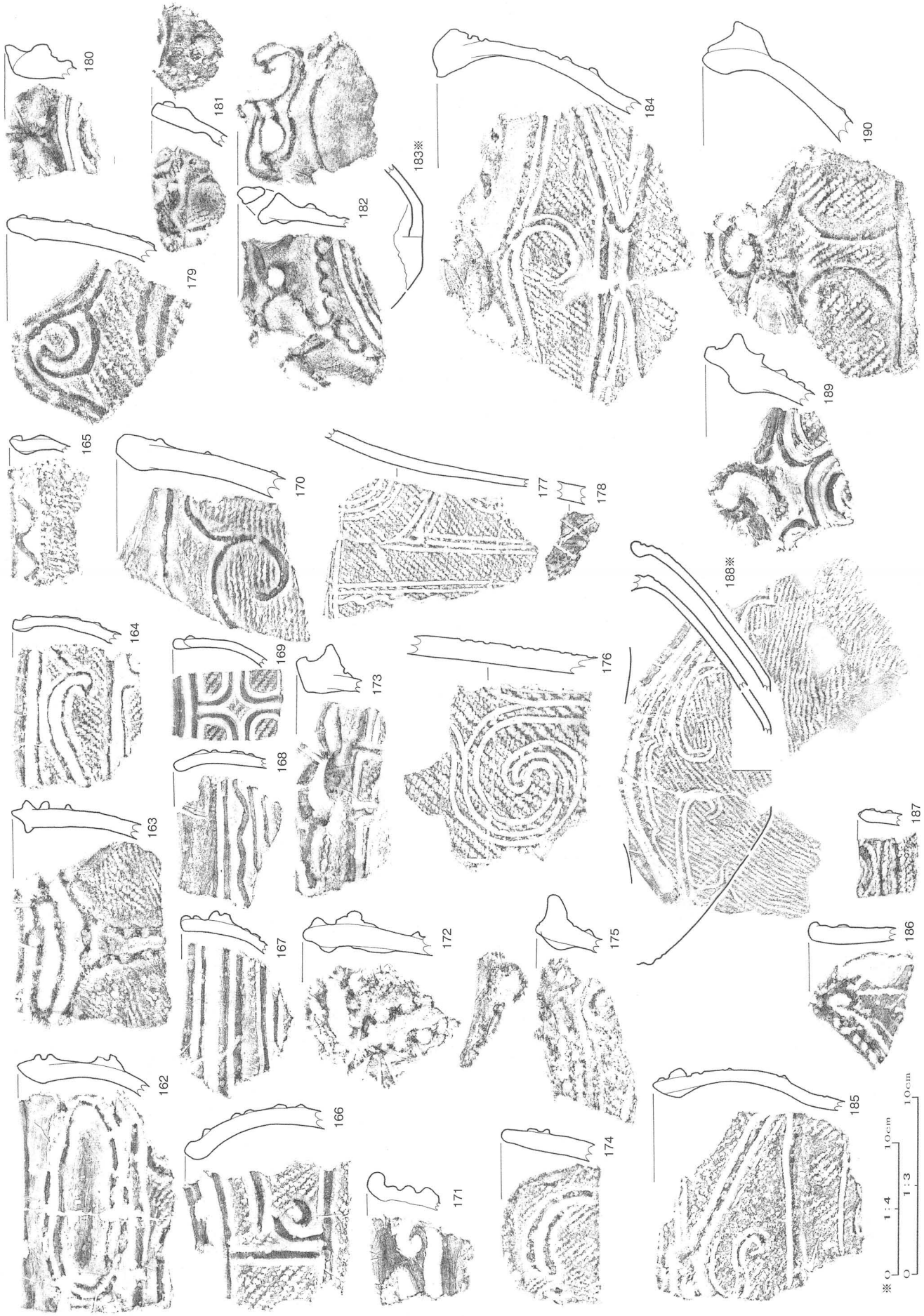
第20図　出土遺物（8）


142
143
144
145※
146
135
133
134
138
140
132
137
139
141
136
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

第21図　出土遺物（9）


151※
152
161
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm
159※
160※
148
149※
150
158
156
157
147
153※
154※
155

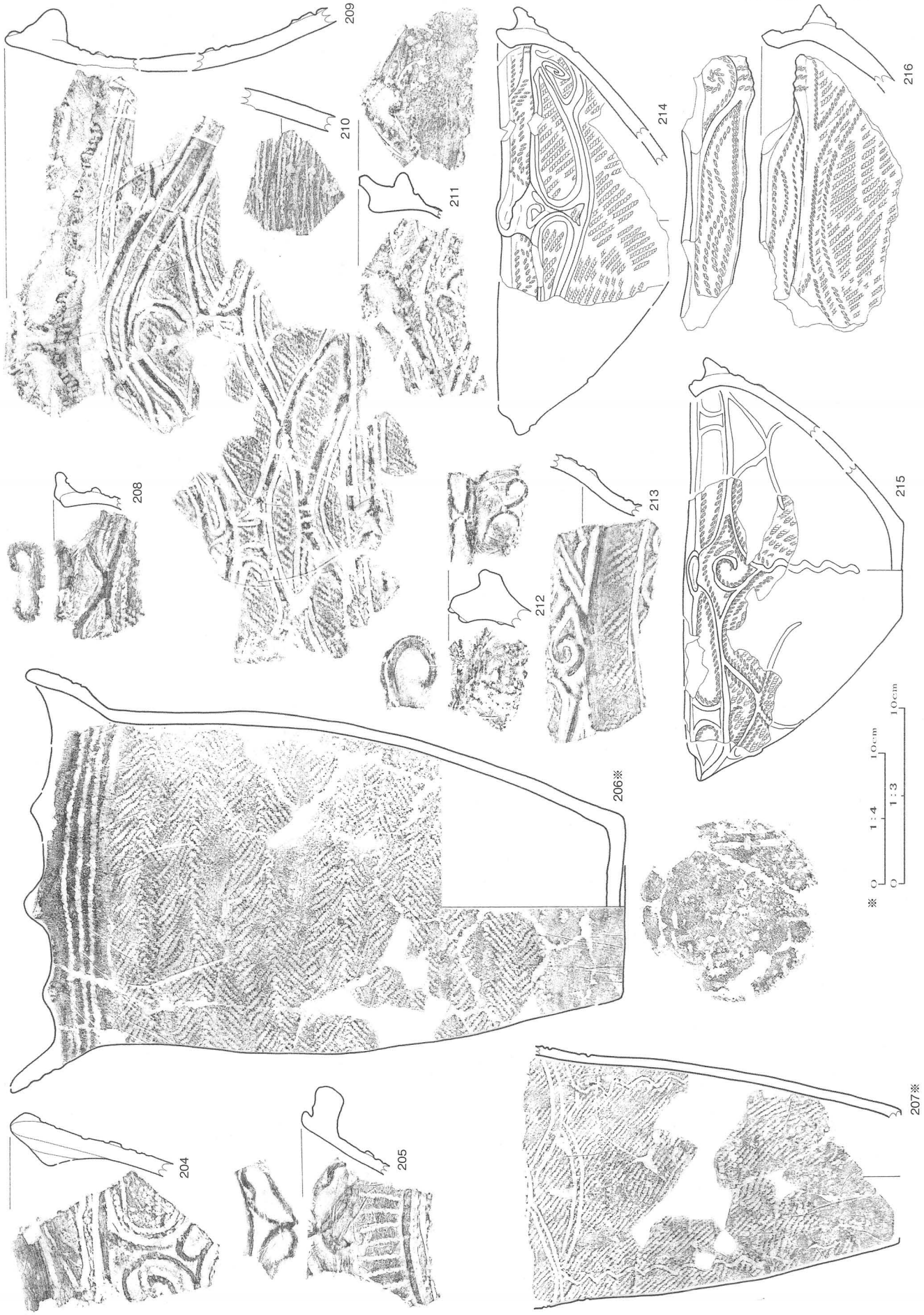
第22図　出土遺物（10）


162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183※
184
185
186
187
188※
189
190
※0
1:4
0
1:3
10cm
10cm

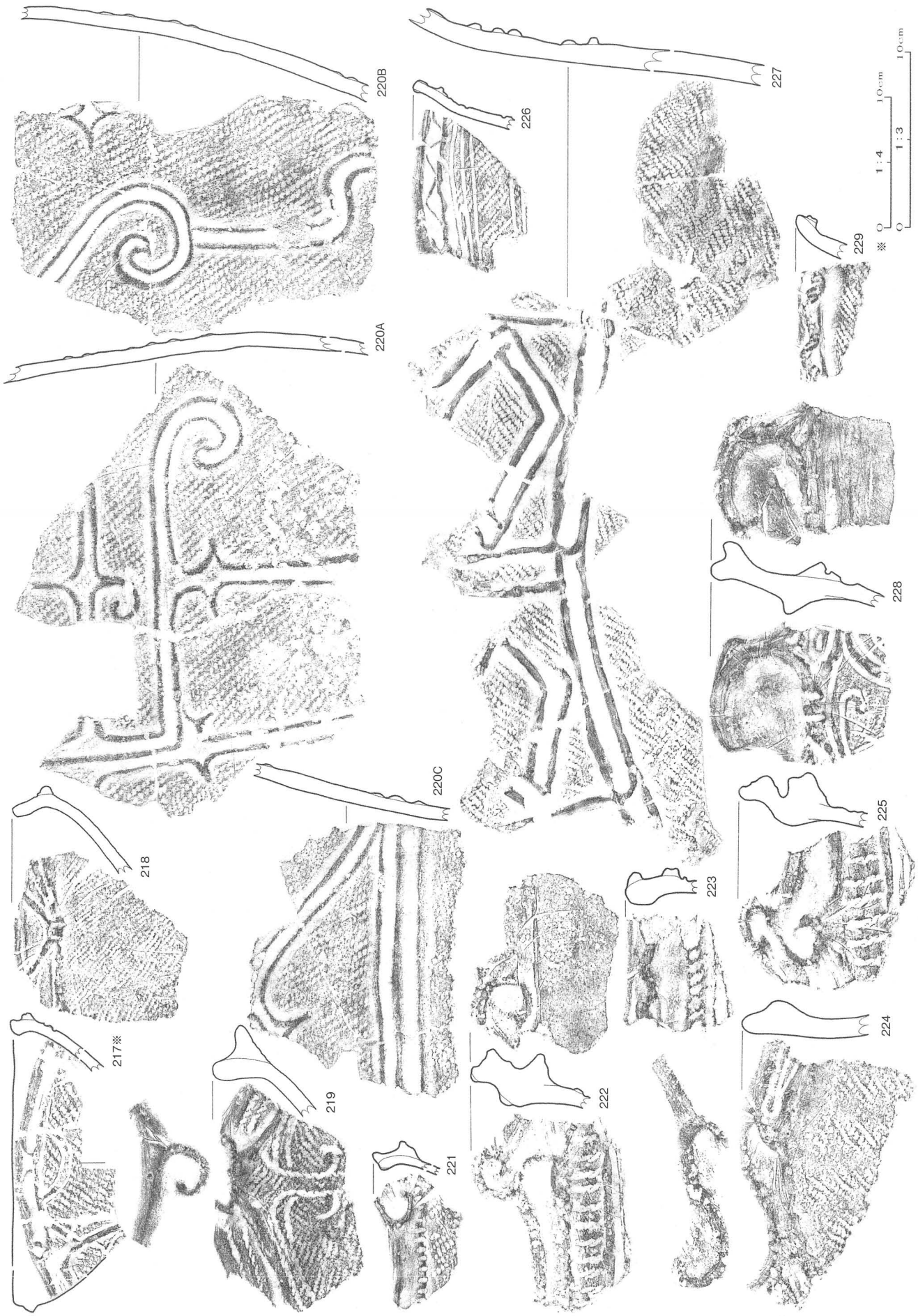
第23図　出土遺物（11）

195
196※
197
202
194A※
194B※
201
200
203
199
192※
191
193
198※
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

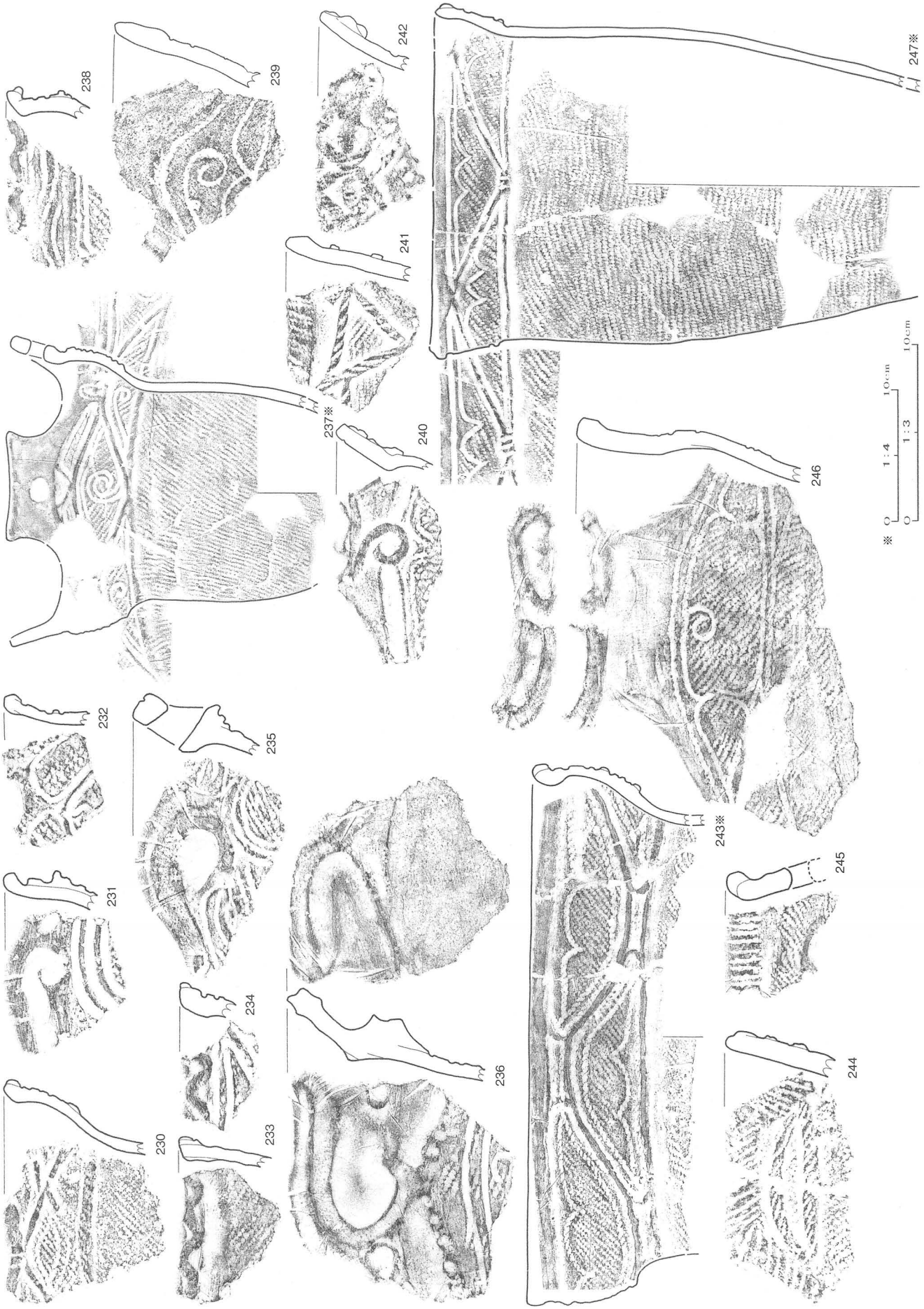
第24図　出土遺物（12）


209
210
211
214
216
208
213
212
215
206※
207※
204
205
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

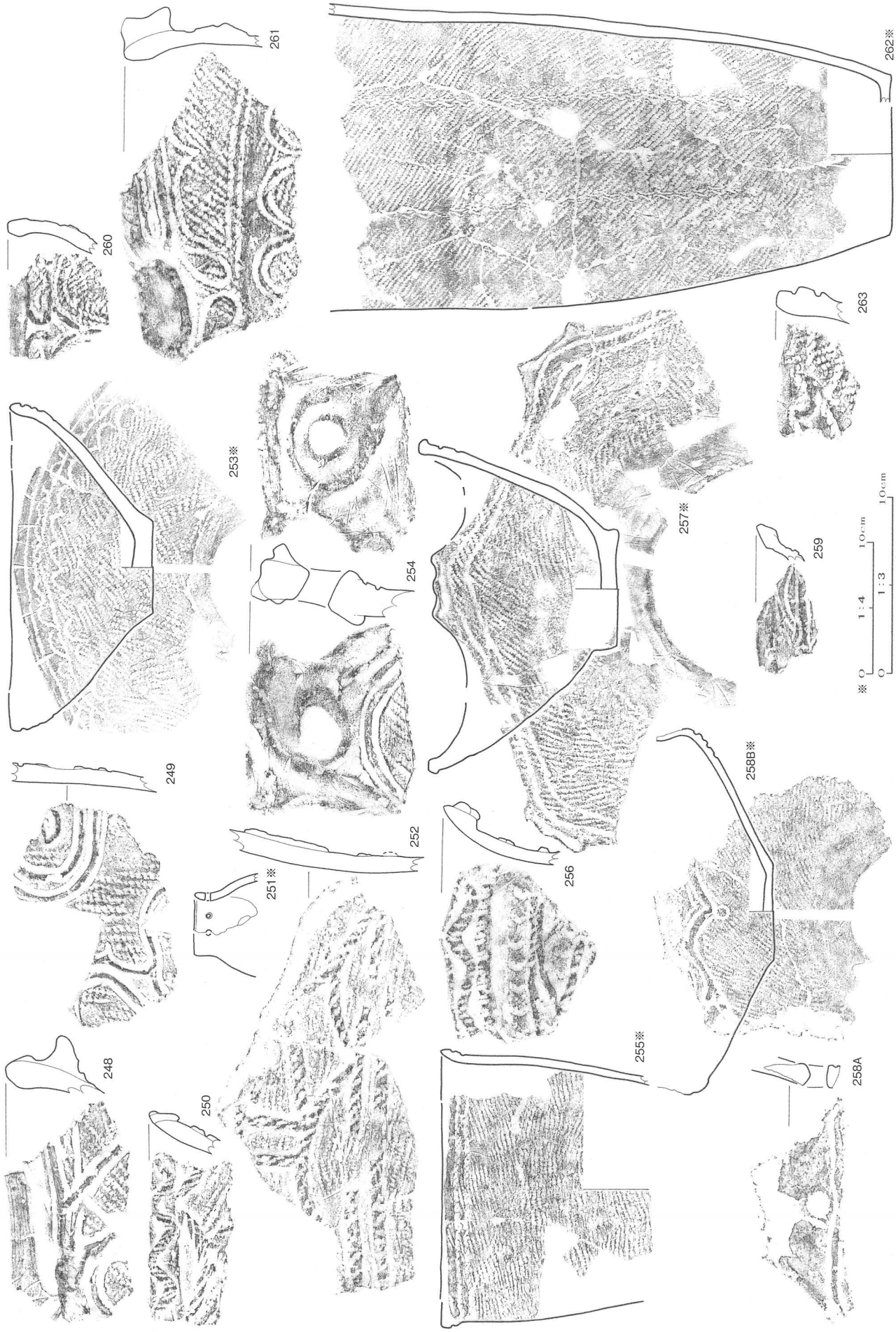
第25図　出土遺物（13）


220B
220A
220C
218
217※
219
221
222
223
225
224
226
227
228
229
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

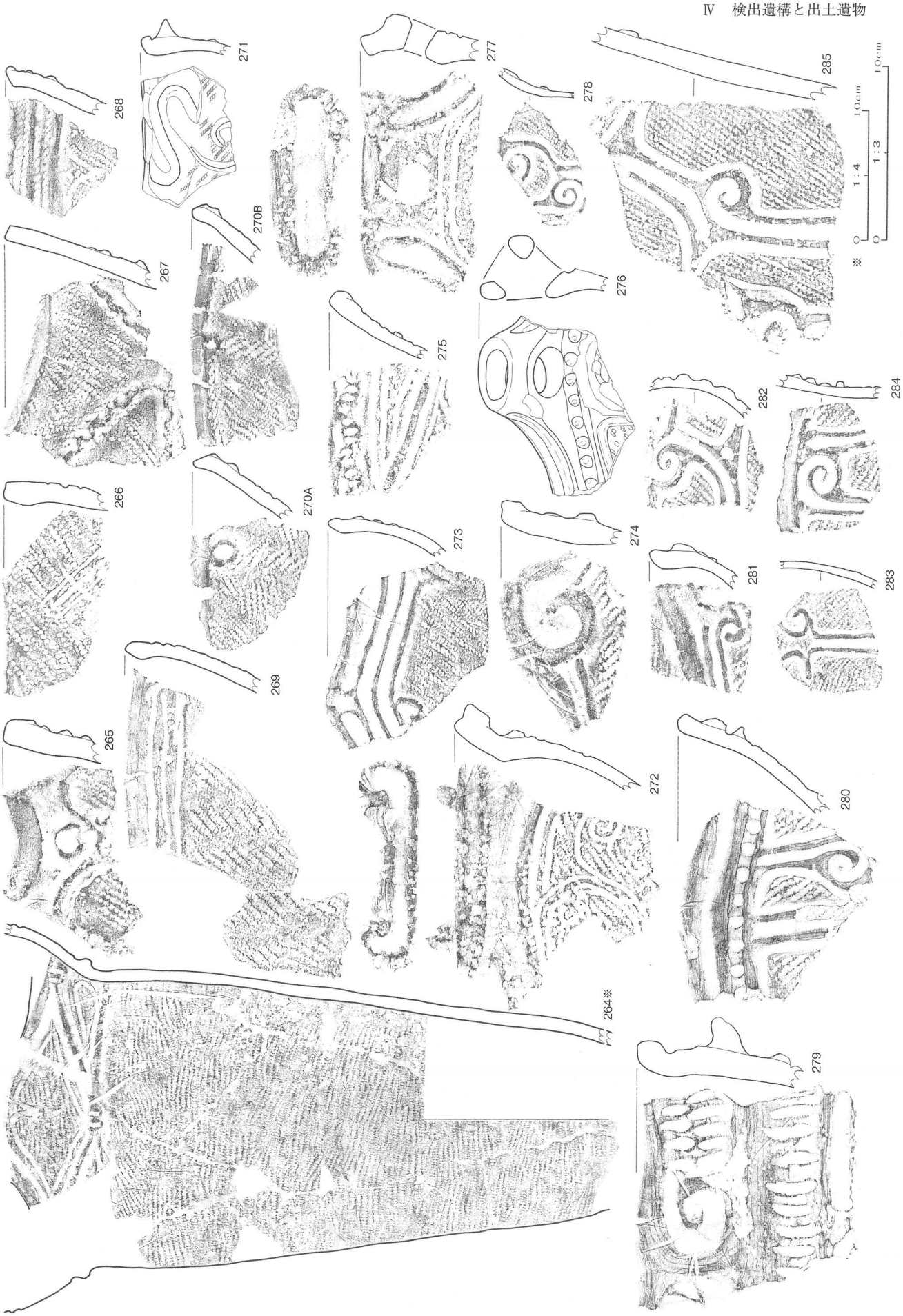
第26図　出土遺物（14）


230
231
232
233
234
235
236
237※
238
239
240
241
242
243※
244
245
246
247※
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

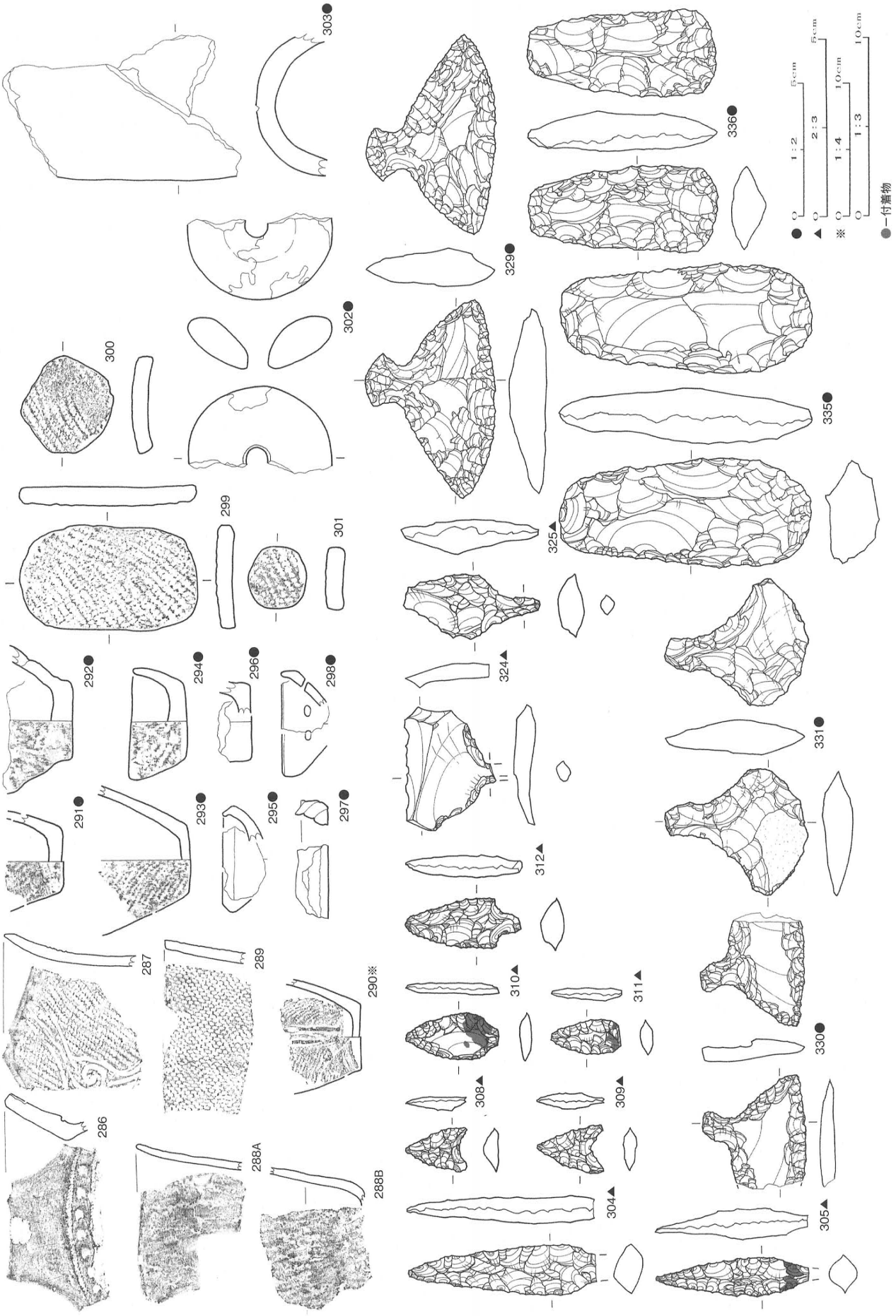
第27図　出土遺物（15）


248
249
250
251※
252
253※
254
255※
256
257※
258A
258B※
259
260
261
262※
263
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

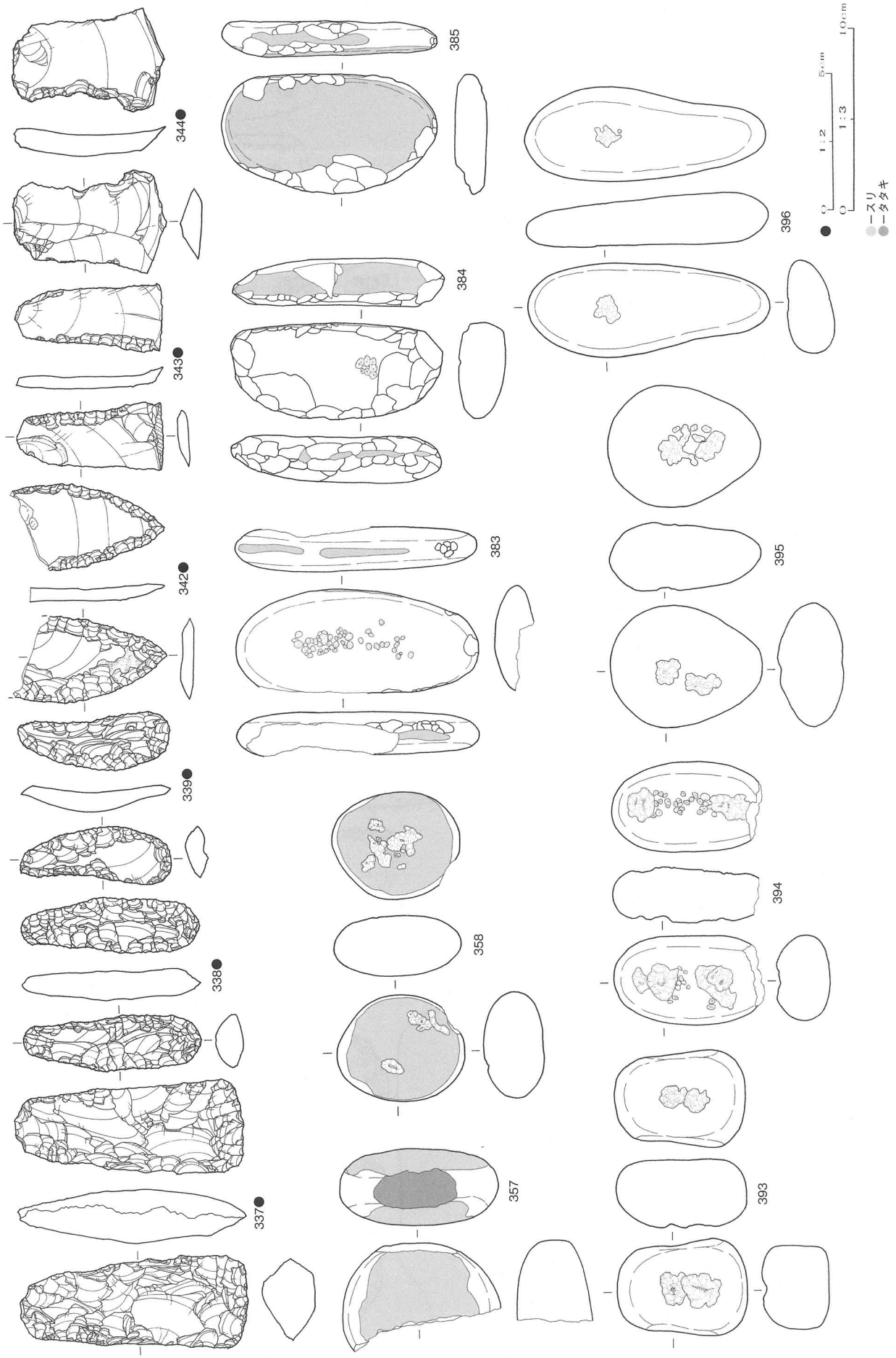
第28図　出土遺物（16）


264※
265
266
267
268
269
270A
270B
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
※ 0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

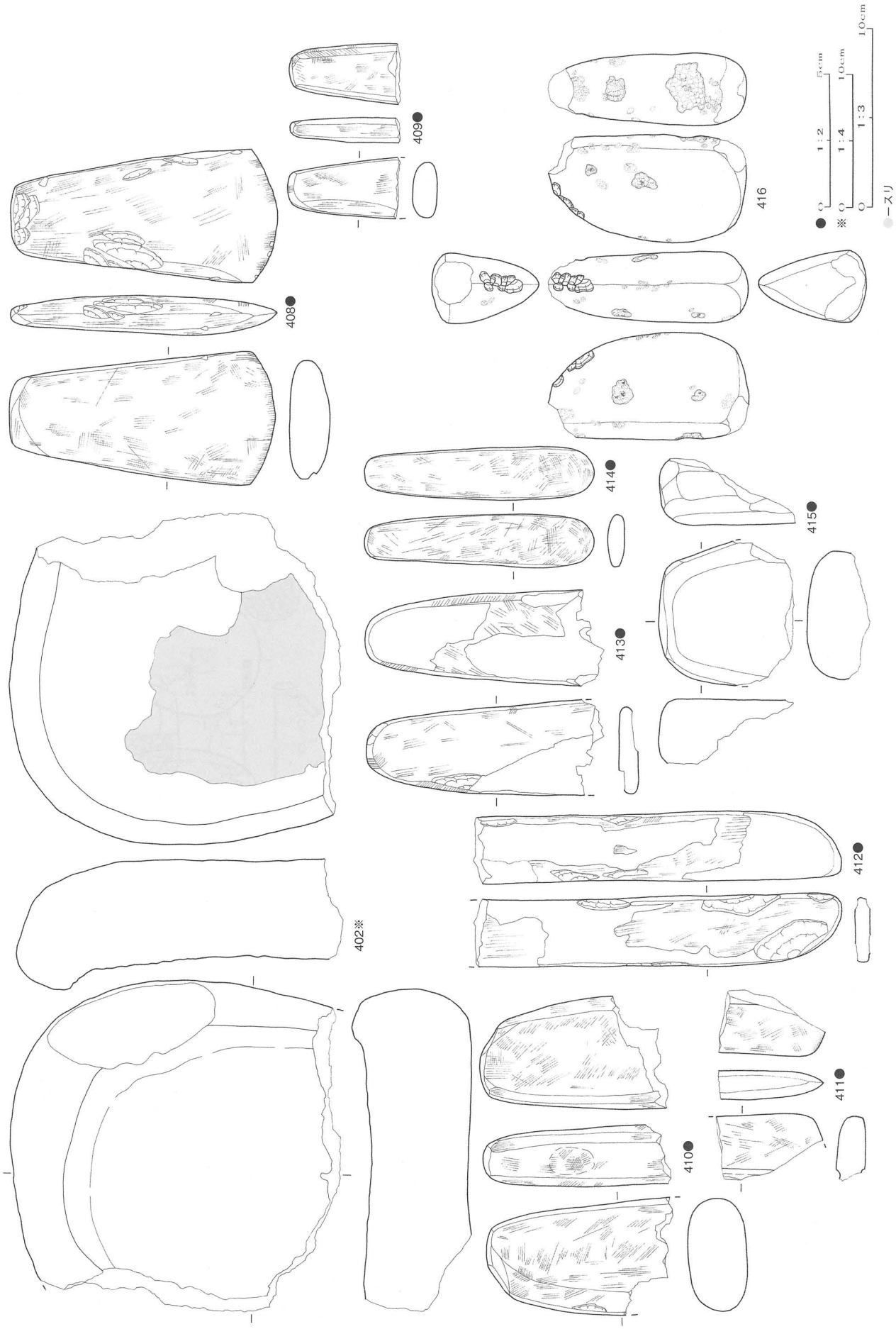
第29図　出土遺物（17）


286
287
288A
288B
289
290※
291●
292●
293●
294●
295●
296●
297●
298●
299
300
301
302●
303●
304▲
305▲
308▲
309▲
310▲
311▲
312▲
324▲
325▲
329●
330●
331●
335●
336●
0 1:2 5cm
0 2:3 5cm
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm
●▲※—付着物

第30図　出土遺物（18）


337
338
339
342
343
344
357
358
383
384
385
393
394
395
396
0 1:2 5cm
0 1:3 10cm
スリ
タタキ

第31図　出土遺物（19）


409●
408●
416
414●
415●
413●
412●
402※
411●
410●
1:2
5cm
1:4
10cm
1:3
10cm
0
●
※
スリ

第32図　出土遺物（20）

第3表　出土土器一覧

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
13-1	281	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-1	刺突文。
13-2	280	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-2	刺突文。
13-3	126	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-3	
13-4	343	調査区東部	表土	深鉢	—	—	—	貝殻文(羽状)	—	Ⅰ群	12-4	
13-5	320	東部3区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-5	
13-6	218	Y17W23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-6	
13-7	16	RA15(中央⑦)	床直	深鉢	※21.6	(16.8)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-7	山形波状・屈曲隆帯文、渦状沈線文、接点に刻み。
13-8	11	RA15(中央⑦)	埋土	深鉢	※23.8	(12.1)	—	RL	縦	Ⅱ群2類	12-8	隆帯文、原体圧痕文、接点に刻み。
13-9	13	RA15(中央⑦)	埋土	深鉢	※21.0	(6.8)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-9	隆帯文と沈線文。
13-10	12	RA15(中央⑦)	埋土	深鉢	※27.4	(27.8)	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	12-10	
13-11	18	RA15(中央⑦)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	12-11	
13-12	17	RA15(中央⑦)	埋土	浅鉢	—	(8.1)	—	無文	—	Ⅱ群5類	12-12	突起、内面に隆帯。
13-13	8	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	21.0	(14.5)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-13	山形波状隆帯文、接点に刻み。
13-14	10	RA15(中央⑧)	埋土	浅鉢	※24.0	(14.4)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-14	波状隆帯文。
13-15	26	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	※34.2	(34.0)	—	LRL	縦	Ⅱ群3類	12-15	口縁部にS字状隆帯文、体部に隆帯文様、外傾接合。
13-16	7	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	※22.7	(31.3)	8.7	LR	縦	Ⅱ群5類	12-16	外傾接合。
13-17	30	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	—	—	—	LRL	縦	Ⅱ群3類?	12-17	隆帯文様。
14-18	27	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	※12.6	(6.5)	10.0	不明	—	Ⅱ群5類	12-18	外傾接合。底面に網代痕。
14-19	20	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	※5.3	(4.4)	3.5	LR	横	Ⅱ群5類	12-19	小形土器。
14-20	28	RA15(中央⑧)	埋土	深鉢	※7.6	(1.6)	5.6	RL	縦	Ⅱ群5類	12-20	縦位沈線文様。小形土器。
14-21	9	RA15(中央⑧)	埋土	浅鉢	33.8	(12.8)	—	無文	—	Ⅱ群5類	12-21	
14-22	21	RA15(中央⑧)	床直	浅鉢	※23.5	(9.0)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-22	渦状隆帯文、原体圧痕文。
14-23	31	RA15(中央⑩)	埋土	深鉢	※13.0	(10.0)	—	RL	縦	Ⅱ群3類	12-23	山形波状隆帯文。
14-24	35	RA15(中央⑩)	埋土	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群3類	12-24	波状隆帯文、刺突列。
14-25	36	RA15(中央⑩)	埋土	深鉢	—	—	—	LRL	縦	Ⅱ群4類	12-25	渦状隆帯文。
14-26	34	RA15(中央⑩)	埋土	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	12-26	渦状隆帯文、原体圧痕文。
14-27	4	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	※16.0	(7.1)	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	12-27	山形波状・渦状隆帯文、接点に刻み。
14-28	5	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	23.5	(13.3)	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	12-28	山形波状隆帯文、原体圧痕文。
14-29	42	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群3類	12-29	隆帯文。
14-30	44	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群3類	12-30	波状隆帯文。
14-31	45	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群3類	13-31	弁状突起、隆帯文。
14-32	6	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	34.2	(14.8)	—	不明	—	Ⅱ群3類	13-32	波状隆帯文(剥離)、縦位短沈線。
14-33	22	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群1類e	13-33	山形突起、沈線文。
14-34	43	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群4類	13-34	渦状沈線文。
14-35	40	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-35	
14-36	19	RA15(中央⑪)	埋土	浅鉢	—	—	—	RLR	斜位	Ⅱ群5類	13-36	山形突起、沈線文。
14-37	24	RA15(中央⑪)	埋土	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-37	内面にS字状隆帯文。
14-38	23	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-38	縦位沈線文。
15-39	3	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	※20.4	(8.5)	—	不明	—	Ⅱ群4類	13-39	波状口縁、渦状隆帯文、縦位短沈線。
15-40	1	RA15(中央⑪)	埋土	浅鉢	24.1	11.7	6.0	LR	縦	Ⅱ群3類	13-40	渦状隆帯文、原体圧痕文。
15-41	37	RA15(中央⑪)	埋土	鉢	※12.9	(9.6)	5.8	RL	縦	Ⅱ群3類	13-41	渦状隆帯文。
15-42	25	RA15(中央⑪)	埋土	浅鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	13-42	渦状隆帯文。
15-43	38	RA15(中央⑪)	埋土	深鉢	—	—	—	LRL	横	Ⅱ群1類d	13-43	山形突起、隆帯文様。
15-44	39	RA15(中央⑪)	埋土	器台	—	—	5.6	無文	—	Ⅱ群5類	13-44	穿孔、器面粗い。
15-45	105	中央表土一括	埋土	深鉢	—	(5.6)	—	LR	—	Ⅱ群5類	13-45	橋状突起、原体圧痕文。
15-46	100	中央表土一括	埋土	深鉢	※5.4	(2.7)	3.2	無文	—	Ⅱ群5類	13-46	小形土器。
15-47	101	中央表土一括	埋土	深鉢	※4.7	(1.0)	3.6	LR	縦	Ⅱ群5類	13-47	沈線文。小形土器。
15-48	14	RA15(中央⑫)	埋土	深鉢	※42.0	(20.5)	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-48	
15-49	46	RA15(中央⑫)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群5類	13-49	弁状突起、沈線文。
15-50	47	RA15(中央⑫)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群4類	13-50	渦状隆沈線文。
15-51	48	RA15(中央⑰)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-51	
15-52	51	RA15(中央⑰)	埋土	深鉢	—	—	—	?	縦	Ⅱ群5類	13-52	
15-53	52	RA15(中央⑰)	埋土	深鉢	—	—	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	13-53	山形波状沈線文。
15-54	50	RA15(中央⑰)	埋土	不明	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	13-54	弁状突起。
15-55	49	RA15(中央⑰)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	13-55	屈曲沈線文。
15-56	2	RA15	埋土	深鉢	※16.6	(9.1)	—	RLR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	13-56	山形波状・渦状隆帯文。
15-57	56	RA15	埋土	深鉢	—	—	—	RLR	横	Ⅱ群4類	13-57	渦状隆沈線文。

※は推定値、(　　)は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
15-58	60	RA15	埋土下部	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群4類	13-58	渦状隆沈線文。
15-59	62	RA15	埋土下部	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群5類	13-59	隆沈線文。
15-60	77	RA16(中央②)	埋土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群3類	13-60	隆帯文。
16-61	65	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※20.4	25.5	8.0	LR	縦	Ⅱ群3類	13-61	渦状沈線文。
16-62	67	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※14.4	(14.6)	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	13-62	山形波状・渦状隆帯文。接点に突起。
16-63	89	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群3類?	13-63	山形波状沈線文。接点に刻み。
16-64	66	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※23.0	(14.9)	—	RLR	縦	Ⅱ群3類	14-64	
16-65	80	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	※14.4	(5.2)	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	14-65	山形突起、山形波状・渦状沈線文。
16-66	73	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	※41.8	(15.5)	—	RL	縦	Ⅱ群3類	14-66	弁状突起、山形波状・屈曲隆帯文。
16-67	75	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※22.4	(9.8)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	14-67	弁状突起、山形波状隆帯文。
16-68	64	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※28.8	(50.4)	12.0	RLR	縦	Ⅱ群5類	14-68	底部直上ミガキ。
16-69	84	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	14-69	弁状突起。
16-70	85	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群3類	14-70	弁状突起、屈曲・渦状沈線文、内面に屈曲隆帯文。
16-71	83	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群5類	14-71	口唇部原体圧痕。
16-72	81	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	14-72	波状隆帯、隆帯上に原体圧痕文。
16-73	78	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群1類b	14-73	隆帯文、爪形原体圧痕文。
17-74	72	RA16(中央⑤)	埋土	深鉢	※18.2	(10.9)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	14-74	波状隆帯に原体圧痕文、渦状隆帯文。
17-75	74	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	※15.8	(10.5)	※9.3	LR	縦	Ⅱ群5類	14-75	底部直上ミガキ。
17-76	87	RA16(中央⑤)	埋土	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群3類	14-76	隆帯文。
17-77	76	RA16(中央⑤)	3層	浅鉢	※28.3	12.5	6.3	LR	縦	Ⅱ群3類	14-77	隆帯文、原体圧痕文、0段多条。
17-78	69	RA16(中央⑥)	埋土	深鉢	※41.0	(27.0)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	14-78	弁状突起、山形波状隆帯文、渦状沈線文。
17-79	70	RA16(中央⑥)	床直	深鉢	42.0	(53.8)	13.2	LR	縦	Ⅱ群3類	15-79	波状隆帯文、体部に隆帯文様。
18-80	68	RA16(中央⑥)	埋土	深鉢	※24.2	(26.6)	14.0	LR	縦	Ⅱ群5類	14-80	底部直上ミガキ。
18-81	90	RA16(中央⑧)	3層	浅鉢	—	—	—	無文	—	Ⅱ群5類	14-81	口唇突起。
18-82	91	RA16(中央⑧)	3層	深鉢	※28.0	(7.9)	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	14-82	口唇突起、山形波状沈線文。
18-83	113	中央⑧	埋土	深鉢	—	—	—	L	縦	Ⅱ群3類	15-83	山形波状隆帯文。
18-84	112	中央⑧	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群4類	15-84	渦状隆帯文。
18-85	71	RA16(中央⑨)	埋土	深鉢	—	—	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	15-85	刺突列、波状・渦状隆帯文。
18-86	98	RA16	埋土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群3類	15-86	屈曲・渦状隆帯文、体部に隆帯文。
18-87	95	RA16	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群3類?	15-87	弁状突起。
18-88	94	RA16	埋土	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	15-88	山形波状隆帯文、原体圧痕文、接点に刻み。
18-89	93	RA16	埋土	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横体部縦	Ⅱ群3類	15-89	隆帯文。
18-90	99	RA17	周溝	深鉢	8.2	9.8	4.4	LR	横	Ⅱ群5類	15-90	木葉痕、小形土器。
18-91	127	RA17(中央④)	床直	深鉢	—	—	—	LR	斜位	Ⅱ群5類	15-91	
18-92	115	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群5類	15-92	沈線文。
18-93	114	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	15-93	口唇突起(剥離)、渦状沈線文。
18-94	120	調査区中央	表土	浅鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群5類	15-94	S字状隆帯、隆帯文。
19-95	119	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	15-95	弁状突起、沈線文。
19-96	116	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群4類	15-96	渦状隆沈線文。
19-97	122	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	RLR	斜位	Ⅱ群4類	15-97	渦状隆沈線文。
19-98	121	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	15-98	
19-99	63	調査区中央	表土	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群3類	15-99	原体圧痕文。
19-100	125	調査区中央	表土	—	※8.8	(3.0)	※7.4	—	—	Ⅱ群5類	15-100	土師器?
19-101	345	RD14	埋土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	15-101	
19-102	347	RD14	埋土	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群5類	15-102	沈線文。
19-103	346	RD14	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群5類	15-103	沈線文。
19-104	107	RD15	埋土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	15-104	隆沈線文
19-105	109	RD15	埋土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	16-105	刺突列、隆帯文。
19-106	110	RD15	埋土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群4類	16-106	渦状隆沈線文。
19-107	108	RD15	埋土	浅鉢?	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	16-107	隆帯文。
19-108	192	Y17T22	攪乱	浅鉢	—	—	—	LRL	横	Ⅱ群3類	16-108	隆帯文。
19-109	191	Y17T23	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	RLR	横	Ⅱ群5類	16-109	渦状隆帯文。
19-110	133A	Y17V22	Ⅲ層	深鉢	※24.0	(9.3)	—	LR	横	Ⅱ群5類	16-110	隆帯文、原体圧痕文。
19-111	170	Y17V22	Ⅳ層	不明	—	—	—	RL	—	Ⅱ群5類	16-111	波状隆帯文に原体圧痕、穿孔。
19-112	181	Y17V23	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群3類	16-112	隆帯文、原体圧痕文、接点に突起と刻み。
19-113	189	Y17V23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群4類	16-113	渦状隆帯文。
19-114	168	Y17V23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	16-114	弁状突起、両面に渦状隆帯文。

※は推定値、(　　)は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
19-115	175	Y17V23	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LRL	横	Ⅱ群３類	16-115	渦状隆帯文。
19-116	180	Y17V23	表土	深鉢	—	—	—	LR・RL羽状	横	Ⅱ群１類ｂ	16-116	爪形原体圧痕文。
19-117	173	Y17V23	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群１類ｃ	16-117	原体圧痕文。
19-118	216	Y17V23	Ⅳ層	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類	16-118	口縁部二股突起、原体圧痕文。
19-119	134	Y17W20	Ⅲ層	深鉢	※15.8	(11.2)	—	LR	縦回転	Ⅱ群１類ｂ	16-119	山形突起、爪形原体圧痕文。
20-120	136	Y17W20	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	16-120	綾絡文。底部直上ミガキ。
20-121	190	Y17W20	Ⅳ層	浅鉢	—	—	—	RL	—	Ⅱ群５類	16-121	原体圧痕文、穿孔。
20-122	129	Y17W20	Ⅳ層	浅鉢	※28.9	(13.8)	11.8	LR	横	Ⅱ群２類	16-122	山形突起、M字状隆帯文、原体圧痕文。
20-123	186	Y17W22	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群５類	16-123	波状隆帯文に原体圧痕。
20-124	182	Y17W22	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類	16-124	原体圧痕文。
20-125	132	Y17W23	Ⅱ層	深鉢	※29.4	(10.9)	—	LR ?	縦	Ⅱ群５類	16-125	
20-126	184	Y17W23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	16-126	
20-127	187	Y17W23	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群３類	16-127	刺突列、波状沈線文。
20-128	138	Y17W23	Ⅲ層	深鉢	※25.0	(27.1)	—	LR	縦回転	Ⅱ群１類ｃ	16-128	弁状突起、隆帯文に原体圧痕。
20-129	143	Y17W23	Ⅲ層	深鉢	(※40.8)	(25.3)	—	R(?)	口縁部横、体部縦。	Ⅱ群３類	16-129	弁状突起、山形波状・渦状隆帯文、接点に刻み。
20-130	215	Y17X21	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	斜位	Ⅱ群２類	16-130	縦位波状隆帯文、原体圧痕文。
20-131	174	Y17X22	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群３類	16-131	波状沈線文、接点に突起と刻み。
21-132	176	Y17X22	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	RL	—	Ⅱ群３類	16-132	弁状突起、縦位原体圧痕文。
21-133	171	Y17X22	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LRL?	?	Ⅱ群５類	16-133	原体圧痕文。
21-134	169	Y17X22	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群３類	17-134	隆帯文。
21-135	141	Y17X22	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	横(？)	Ⅱ群３類	17-135	三角突起、渦状隆帯文、原体圧痕文。
21-136	164	Y17X23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群３類	17-136	渦状隆帯文。
21-137	167	Y17X23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	RLR?	縦	Ⅱ群５類	17-137	沈線文。
21-138	178	Y17X23	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群３類	17-138	渦状沈線文。
21-139	161	Y17X23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横体部縦	Ⅱ群３類	17-139	渦状隆帯文、接点に刻み。
21-140	177	Y17X23	表土	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群３類	17-140	渦状隆帯文、原体圧痕文。
21-141	179	Y17X23	表土	深鉢	—	—	—	LRL	横	Ⅱ群３類	17-141	渦状隆帯文。
21-142	140	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群２類	17-142	原体圧痕文。
21-143	159	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群３類	17-143	弁状突起、隆帯文、両面に渦状隆帯文。
21-144	157	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群３類	17-144	渦状隆帯文。
21-145	131	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	※38.0	(31.3)	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群３類	17-145	弁状突起、山形波状・屈曲・渦状隆帯文。
21-146	155	Y17X23	Ⅲ層上面	浅鉢	—	(4.1)	—	RLR ?	縦	Ⅱ群５類	17-146	刺突列、沈線文。
22-147	172	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	斜位	Ⅱ群１類ｄ	17-147	隆帯文。
22-148	130A	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群３類	17-148	刺突列、渦状沈線文。
22-149	145	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	(※8.0)	(4.8)	3.2	?	—	Ⅱ群５類	17-149	小型土器。
22-150	156	Y17X23	Ⅲ層上面	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群２類	17-150	波状隆帯文、原体圧痕文。
22-151	144	Y17X23	Ⅲ層	深鉢	(12.3)	(2.8)	10.7	無文	—	Ⅱ群５類	17-151	網代痕。
22-152	158	Y17X23	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群３類	17-152	渦状隆帯文、縦位波状隆帯文。
22-153	137	Y17X23	Ⅳ層	深鉢	12.3	(16.1)	—	LR	横回転	Ⅱ群２類	18-153	屈曲隆帯文。
22-154	135	Y17X23	Ⅳ層	深鉢	※14.0	16.4	※8.6	LR	縦	Ⅱ群２類	18-154	原体圧痕文。
22-155	153	Y17X23	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群４類	18-155	渦状隆沈線文。
22-156	149	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	深鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群３類	18-156	渦状隆帯文。
22-157	150	Y17X24	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群１類ｅ	18-157	沈線文。
22-158	154	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群１類ｄ	18-158	隆帯文、原体圧痕文。
22-159	139B	Y17X24	Ⅲ層	深鉢	(※19.2)	(10.3)	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	18-159	160と別固体。無文帯、沈線文。
22-160	139A	Y17X24	Ⅲ層	深鉢	(※17.6)	(14.2)	—	RLR	縦	Ⅱ群３類	18-160	159と別固体。無文帯、沈線文。
22-161	151	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	浅鉢	—	(4.3)	—	RL	縦	Ⅱ群２類	18-161	原体圧痕文。
23-162	203	Y17T24～W24	攪乱	浅鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群５類	18-162	隆帯文。
23-163	199	Y17T24～W24	攪乱	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類？	18-163	縦位波状隆帯文。
23-164	200	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群３類	18-164	渦状隆帯文。
23-165	208	Y17T24～W24	攪乱	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	18-165	波状隆帯文。
23-166	201	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	R	口縁部横、体部縦	Ⅱ群５類	18-166	渦状隆帯文。
23-167	205	Y17T24～W24	攪乱	不明	—	—	—	LR ?	—	Ⅱ群５類	18-167	隆帯文。
23-168	206	Y17T24～W24	攪乱	不明	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	18-168	波状隆帯文。
23-169	195	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	RLR	横	Ⅱ群５類	18-169	十字状隆帯文。
23-170	194	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	撚糸文L	?	Ⅱ群５類	18-170	隆帯文。
23-171	210	Y17T24～W24	攪乱	不明	—	—	—	—	—	Ⅱ群５類	18-171	渦状隆帯文。

※は推定値、(　　)は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
23-172	204	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	—	—	Ⅱ群5類	18-172	縦位隆帯文に刻み。
23-173	198	Y17T24～W24	攪乱	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	18-173	渦状隆帯文、原体圧痕文。
23-174	207	Y17T24～W24	攪乱	不明	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	18-174	隆帯文。
23-175	193	Y17T24～W24	攪乱	浅鉢	—	—	—	—	—	Ⅱ群5類	18-175	刺突列、渦状隆帯文。
23-176	211	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	18-176	渦状沈線文。
23-177	212	Y17T24～W24	攪乱	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	18-177	沈線文。
23-178	217	Y17T24～W24	攪乱	不明	—	—	—	—	—	Ⅱ群5類	18-178	原体圧痕文。
23-179	241	東部1区	不明	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群5類	18-179	渦状隆帯文。
23-180	257	東部2区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	18-180	
23-181	258	東部2区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	18-181	波状隆帯に原体圧痕文。
23-182	252	東部2区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	18-182	弁状突起、穿孔。
23-183	243	東部2区	Ⅱ・Ⅲ層	不明	(※10.8)	(2.3)	4.8	不明	—	Ⅱ群5類	18-183	小形土器。
23-184	244	東部2区	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群3類	18-184	山形波状・屈曲隆帯文、渦状沈線文。
23-185	248	東部2区	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群3類	18-185	渦状隆帯文。
23-186	249	東部2区	Ⅱ層	深鉢？	—	—	—	不明	—	Ⅱ群5類	18-186	口唇竹管文。
23-187	251	東部2区	Ⅱ層	鉢？	—	—	—	LR	—	Ⅱ群5類	18-187	原体圧痕文。
23-188	228	東部2区	Ⅱ層	浅鉢	(※29.4)	(※10.4)	(※6.6)	LR	横	Ⅱ群2類	18-188	渦状沈線文、原体圧痕文。
23-189	246	東部2区	Ⅱ層	浅鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群5類	18-189	渦状隆帯文。
23-190	245	東部2区	Ⅱ層	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	18-190	屈曲隆帯文。
24-191	242	東部2区	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群1類c	19-191	隆帯に原体圧痕。
24-192	235	東部2区	Ⅲ層	深鉢	※9.0	(11.1)	4.5	LR	横	Ⅱ群5類	19-192	小形土器、底部直上ミガキ。
24-193	232	東部2区	Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群2類	19-193	原体圧痕文(LR)。
24-194A	234A	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	※41.5	(22.3)	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	19-194A	屈曲隆帯文に原体圧痕。
24-194B	234B	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群3類	19-194B	屈曲隆帯文に原体圧痕、接点に突起と刻み。
24-195	269	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群2類	19-195	0段多条、原体圧痕文。
24-196	344	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	(※21.0)	(11.7)	—	LR	横(一部縦)	Ⅱ群3類	19-196	山形波状・屈曲隆帯文、原体圧痕文。
24-197	260	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群3類	19-197	原体圧痕文。
24-198	225	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	26.0	(27.6)	—	RLR	縦	Ⅱ群3類	19-198	山形隆帯文、接点に突起と刻み。
24-199	270	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群5類	19-199	渦状隆帯文、渦状沈線文。
24-200	267	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群2類	19-200	橋状突起、原体圧痕文。
24-201	272	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR?	—	Ⅱ群2類	19-201	原体圧痕文。
24-202	266	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群2類	19-202	原体圧痕文。
24-203	264	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	19-203	隆帯文。
25-204	261	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	19-204	隆帯文。
25-205	273	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群5類	19-205	渦状隆帯文、縦位原体圧痕。
25-206	221	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	32.2	45.1	13.5	RL・LR羽状	横	Ⅱ群2類	19-206	原体圧痕文、網代痕。
25-207	226	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	(※20.0)	(27.4)	(※10.2)	LR	縦	Ⅱ群1類e	20-207	菱形状沈線文、綾絡文。
25-208	268	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	RLR	—	Ⅱ群5類	20-208	原体圧痕文。
25-209	240A	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群1類e	20-209	波状隆帯に原体圧痕、渦状・菱形状隆帯文。
25-210	276	東部2区	Ⅲ層下面	不明	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	20-210	
25-211	271	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群2類	20-211	原体圧痕文。
25-212	274	東部2区	Ⅲ層下面	不明	—	—	—	—	—	Ⅱ群5類	20-212	突起、内面に隆帯文。
25-213	275	東部2区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	20-213	渦状隆帯文。
25-214	238	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	※24.3	(9.6)	—	LR	縦	Ⅱ群3類	20-214	渦状隆帯文、原体圧痕文。
25-215	239	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	※24.2	12.2	5.4	RL	横	Ⅱ群3類	20-215	渦状隆帯文、原体圧痕文(原体LR)。
25-216	262	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	(7.8)	—	LR	縦	Ⅱ群2類	20-216	原体圧痕文。
26-217	237	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	※22.8	(7.0)	—	LRL	横	Ⅱ群3類	20-217	渦状隆帯文。
26-218	265	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群2類	20-218	原体圧痕文。
26-219	263	東部2区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群2類	20-219	渦状隆帯文、原体圧痕文。
26-220A	282A	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LRL	—	Ⅱ群3類	20-220A	渦状隆帯文。
26-220B	282B	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LRL	—	Ⅱ群3類	20-220B	渦状隆帯文。
26-220C	282C	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LRL	—	Ⅱ群3類	20-220C	隆帯文。
26-221	288	東部2・3区	表土	浅鉢	—	—	—	RL	横	Ⅱ群5類	20-221	隆帯に刻み。
26-222	285	東部2・3区	表土	浅鉢	—	—	—	RL	—	Ⅱ群5類	20-222	縦位原体圧痕文。
26-223	286	東部2・3区	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	20-223	波状隆帯文。
26-224	283	東部2・3区	表土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群5類	20-224	S字状隆帯文。原体圧痕文。
26-225	284	東部2・3区	表土	浅鉢	—	—	—	RL	—	Ⅱ群5類	20-225	渦状隆帯文、縦位原体圧痕。
26-226	289	東部3区	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	20-226	波状隆帯文、沈線文。
26-227	224	東部3区	表土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群5類	21-227	菱形状隆帯文、縦位区画文。
26-228	302	東部3区	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群5類	21-228	弁状突起、渦状沈線文、刺突列。

※は推定値、(　　)は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
26-229	303	東部３区	表土	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	21-229	波状隆帯に原体圧痕。
27-230	292	東部３区	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群３類	21-230	山形波状隆帯文、原体圧痕文。
27-231	293	東部３区	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群５類	21-231	渦状隆帯文。
27-232	299	東部３区	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	21-232	沈線文。
27-233	298	東部３区	Ⅱ層	浅鉢？	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	21-233	波状隆帯文。
27-234	297	東部３区	Ⅱ層	浅鉢？	—	—	—	不明	—	Ⅱ群５類	21-234	波状隆帯文、沈線文。
27-235	291	東部３区	Ⅱ層	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群３類	21-235	原体圧痕文。
27-236	290	東部３区	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	21-236	弁状突起、原体圧痕文。
27-237	223	東部３区	Ⅲ層	深鉢	※23.6	(23.4)	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群３類	21-237	弁状突起に穿孔、山形波状・渦状隆帯文。
27-238	308	東部３区	Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	21-238	波状隆帯文、原体圧痕文。
27-239	310	東部３区	Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	21-239	原体圧痕文。
27-240	309	東部３区	Ⅲ層	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	21-240	渦状隆帯文、原体圧痕文。
27-241	312	東部３区	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	21-241	隆帯に原体圧痕。
27-242	313	東部３区	Ⅲ層	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群５類	21-242	波状隆帯に原体圧痕(原体LR)。
27-243	227	東部３区	Ⅲ層上面	深鉢	※41.0	(13.0)	—	LR	横	Ⅱ群３類	21-243	波状・屈曲隆帯文、原体圧痕文。
27-244	306	東部３区	Ⅲ層上面付近	深鉢	—	—	—	RLR	横	Ⅱ群５類	21-244	原体圧痕文。
27-245	307	東部３区	Ⅲ層上面付近	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	21-245	縦位原体圧痕文、穿孔。
27-246	233	東部３区	Ⅲ層上面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群２類	21-246	弁状突起、原体圧痕文。
27-247	220	東部３区	Ⅲ層下面	深鉢	27.0	(36.2)	—	LRL	横	Ⅱ群３類	21-247	山形波状隆帯文、「W」状沈線文、接点に突起と刻み。
28-248	318	東部３区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	21-248	隆帯文。
28-249	316	東部３区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	21-249	隆帯文。
28-250	319	東部３区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RLR	横	Ⅱ群１類ｃ	21-250	波状隆帯に原体圧痕。
28-251	317	東部３区	Ⅲ層下面	深鉢	(※7.8)	(4.8)	—	無文	—	Ⅱ群５類	21-251	穿孔、小形土器。
28-252	314	東部３区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	斜位	Ⅱ群１類ｃ	21-252	原体圧痕文。
28-253	229	東部３区	Ⅲ層下面	浅鉢	※24.8	10.8	6.9	LR	横	Ⅱ群２類	22-253	原体圧痕文。
28-254	322	東部３・４区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	22-254	弁状突起、穿孔。
28-255	236	東部３・４区	Ⅲ層下面	深鉢	※21.0	(15.8)	—	LR ?	斜位	Ⅱ群２類	22-255	原体圧痕文。
28-256	321	東部３・４区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	RL	—	Ⅱ群１類ｂ	22-256	波状隆帯に原体圧痕、爪形原体圧痕文。
28-257	230	東部３・４区	Ⅲ層下面	浅鉢	25.2	15.2	8.6	RLR	縦	Ⅱ群２類	22-257	波状隆帯文、原体圧痕文、底部直上ミガキ。
28-258A	231B	東部３・４区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群２類	22-258A	原体圧痕文、穿孔。
28-258B	231A	東部３・４区	Ⅲ層下面	浅鉢	※17.8	(8.7)	7.4	LR	横	Ⅱ群２類	22-258B	隆帯文。
28-259	324	東部３・４区	Ⅲ層下面	浅鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	22-259	原体圧痕文。
28-260	326	東部４区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	22-260	隆帯文、原体圧痕文。
28-261	325	東部４区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類	22-261	原体圧痕文。
28-262	222	東部４区	Ⅲ層下面	深鉢	※23.4	(42.1)	(※11.8)	LR	縦	Ⅱ群５類	22-262	綾絡文、底部直上ミガキ。
28-263	328	東部４区	Ⅲ・Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	22-263	原体圧痕文。
29-264	219	東部４区	Ⅳ層	深鉢	(※30.0)	(46.0)	—	LR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群３類	22-264	山形波状隆帯文、沈線文、接点に突起と刻み。
29-265	331	東部４区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類	22-265	渦状のボタン状貼付、隆帯文。
29-266	330	東部４区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	22-266	沈線文。
29-267	333	東部４区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群５類	22-267	隆帯文、原体圧痕文。
29-268	332	東部４区	Ⅳ層	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	22-268	原体圧痕文。
29-269	329	東部４区	Ⅳ層	浅鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群５類	22-269	平行沈線文。
29-270A	334A	東部４区	Ⅳ層	浅鉢	—	—	—	LR	横・縦混在	Ⅱ群２類	22-270A	ボタン状貼付。
29-270B	334B	東部４区	Ⅳ層	浅鉢	—	—	—	LR	横・縦混在	Ⅱ群２類	22-270B	ボタン状貼付、原体圧痕文。
29-271	338	調査区東部	表土	不明	—	(5.4)	—	LR	縦	Ⅱ群５類	22-271	S字状隆帯文。
29-272	352	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群２類	22-272	弁状突起、原体圧痕文。
29-273	362	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群４類	22-273	渦状隆沈線文。
29-274	353	北西斜面	撹乱	浅鉢？	—	—	—	LR	—	Ⅱ群５類	22-274	渦状隆沈線文。
29-275	365	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群５類	22-275	波状隆帯に刻み。
29-276	356	北西斜面	撹乱	浅鉢	—	—	—	RLR	—	Ⅱ群５類	23-276	刺突列。
29-277	358	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	23-277	弁状突起に穿孔、原体圧痕文。
29-278	370	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群４類	23-278	渦状隆沈線文。
29-279	351	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群５類	23-279	渦状隆沈線文、縦位短沈線。
29-280	357	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群４類	23-280	渦状沈線文、刺突列。
29-281	364	北西斜面	撹乱	浅鉢	—	—	—	RL?	—	Ⅱ群５類	23-281	渦状隆沈線文。
29-282	371	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	横	Ⅱ群４類	23-282	渦状隆沈線文。
29-283	369	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群５類	23-283	隆帯文。
29-284	372	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群４類	23-284	渦状隆沈線文。
29-285	368	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群４類	23-285	渦状隆沈線文。
30-286	361	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	R	—	Ⅱ群５類	23-286	弁状突起、原体圧痕文、刺突列。
30-287	363	北西斜面	撹乱	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群４類	23-287	渦状沈線文。

※は推定値、(　　)は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
30-288A	373A	北西斜面	攪乱	深鉢	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	23-288A	小形土器。
30-288B	373B	北西斜面	攪乱	深鉢	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	23-288B	小形土器。
30-289	360	北西斜面	攪乱	深鉢	—	—	—	?	?	Ⅱ群5類	23-289	
30-290	348	北西斜面	攪乱	深鉢	(※8.6)	(5.6)	5.0	LR	縦	Ⅱ群5類	23-290	小形土器。

第4表　出土土製品一覧

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	器種	大きさ			原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	器高	底径					
30-291	128	RA16(中央⑤)	埋土	ミニチュア	※3.3	(2.1)	2.5	無文	—	—	23-291	手捏ね。
30-292	146	Y17W23	Ⅲ層上面	ミニチュア	(※5.6)	(2.4)	※2.8	無文	—	—	23-292	手捏ね。
30-293	147	Y17W23	Ⅲ層上面	ミニチュア	※5.6	(3.4)	2.5	L無節	縦	—	23-293	手捏ね。
30-294	148	Y17W23	Ⅲ層上面	ミニチュア	4.2	2.3	2.9	L無節	縦	—	23-294	手捏ね。
30-295	277	東部2区	Ⅲ層下面	ミニチュア	(※4.0)	(1.6)	—	無文	—	—	23-295	浅鉢形。
30-296	278	東部2区	Ⅲ層下面	ミニチュア	(※3.0)	(1.2)	(※2.6)	—	—	—	23-296	
30-297	279	東部2区	Ⅲ層下面	ミニチュア	—	(1.7)	—	無文	—	—	23-297	輪積痕。
30-298	367	北西斜面	攪乱	ミニチュア	(※4.0)	(1.8)	—	無文	—	—	23-298	浅鉢形。穿孔。
30-299	401	東部3区	Ⅲ層	円盤状土製品	—	—	—	LR	—	—	23-299	楕円形。
30-300	402	RA15(中央⑩)	埋土	円盤状土製品	—	—	—	RL	—	—	23-300	
30-301	403	東部2区	Ⅲ層下面	円盤状土製品	—	—	—	LR	—	—	23-301	
30-302	404	RA15(中央⑰)	埋土	土製品	(5.4)	(3.3)	(2.0)	—	—	—	23-302	穿孔。
30-303	400	Y17V22	Ⅲ層	土製品	(8.9)	(5.5)	—	—	—	—	23-303	筒状。

※は推定値、(　　)は残存値。

第５表　出土石器・石製品一覧

掲載番号	仮No[1]	出土地点・遺構名	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重　量（g）	器種	石質	産地	備考	写真図版
30-304	20	東部４区	Ⅳ層	5.3	1.5	0.8	5.2	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎	23-304
30-305	21	RA16（中央⑤）	住居埋土	4.4	1.1	0.9	3.0	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	基部黒色付着物、有茎	23-305
306	17	RA16（中央⑤）	住居埋土	4.0	2.4	1.2	9.9	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—
307	18	北西斜面	攪乱	4.9	2.7	0.7	7.7	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—
30-308	13	RA16（中央⑤）	住居埋土	1.7	1.2	0.4	0.7	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凹基	23-308
30-309	15	東部２区	Ⅱ層	1.9	1.5	0.5	0.8	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凹基	23-309
30-310	4	東部３区	Ⅲ層	2.7	1.8	0.4	1.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	基部黒色付着物、有茎凸基	23-310
30-311	8	RA16	住居埋土	2.0	1.0	0.4	0.7	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	基部黒色付着物、有茎平基	23-311
30-312	1	RA16（中央②）	住居埋土	3.3	1.5	0.7	2.8	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	23-312
313	2	RA16（中央④）	住居埋土	2.5	1.3	0.5	1.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—
314	5	RA15	住居埋土	2.3	1.5	0.9	3.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—
315	6	Y17V22	Ⅲ層	2.7	1.3	0.4	1.4	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—
316	7	東部２区	Ⅱ層	2.5	1.2	0.5	1.6	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	基部黒色付着物、有茎凸基	—
317	9	RA15	埋土下部	2.0	1.2	0.4	0.9	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—
318	10	RA15（中央⑰）	住居埋土	2.6	1.5	0.6	1.7	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	火はね、有平	—
319	11	東部３区	Ⅱ層	2.8	1.4	0.9	2.7	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—
320	12	Y17X23	Ⅲ層	2.8	1.4	0.6	2.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—
321	14	RA15（中央⑪）	住居埋土	1.8	1.1	0.5	0.6	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	無茎凹基	—
322	16	中央⑧	住居埋土	1.9	1.3	0.5	0.8	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	無茎凹基	—
323	53	東部３区	Ⅲ層下面	2.9	1.1	0.5	1.5	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎平基	—
30-324	25	RA15（中央⑧）	住居埋土	2.6	3.5	0.7	4.8	石錐	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-324
30-325	3	RA15（中央⑫）	住居埋土	3.9	1.9	1.0	4.6	石錐	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-325
326	22	RA15（中央⑦）	住居埋土	3.7	1.0	0.7	2.2	石錐？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
327	23	RA16（中央⑤）	住居埋土	4.7	1.6	1.1	5.6	石錐？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
328	24	Y17V23	Ⅱ層	4.5	1.1	0.8	3.9	石錐？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
30-329	26	Y17T22	Ⅲ層	4.9	7.5	1.5	36.4	石匙	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-329
30-330	27	Y17W20	Ⅳ層	3.9	4.3	0.9	11.3	石匙	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-330
30-331	28	調査区中央	表土	5.4	4.8	1.4	22.0	石匙	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品？	23-331
332	29	Y17V23	Ⅲ層	8.0	4.4	1.7	45.3	削掻器類？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—
333	30	RA15（中央⑱）	住居埋土	4.5	5.5	1.8	30.0	削掻器類？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—
334	31	Y17T24～W24	攪乱	4.5	8.7	1.9	66.0	削掻器類？	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—
30-335	32	Y17V22	Ⅲ層上面	9.4	4.2	2.1	77.4	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-335
30-336	33	Y17U24	Ⅲ層	7.1	3.3	1.5	37.7	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-336
31-337	34	Y17V23	Ⅲ層	8.4	3.4	2.0	53.1	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-337
31-338	41	Y17W22	Ⅲ層上面	6.6	2.1	1.2	16.6	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	両面加工	23-338
31-339	40	SK02	遺構埋土	5.5	2.2	1.0	9.1	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	両面加工	23-339
340	35	東部３区	表土	5.8	4.0	2.0	49.3	石篦	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
341	37	Y17W22	Ⅲ層上面	3.7	3.5	1.3	20.7	石篦?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
31-342	19	RA15（中央⑪）	住居埋土	(5.6)	3.2	0.6	10.1	スクレイパー（尖頭器？）	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	黒色付着物	23-342
31-343	39	東部３区	Ⅲ層	5.4	2.5	0.8	7.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-343
31-344	36	RA16	住居埋土	5.6	3.8	1.1	18.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		23-344
345	38	X24	Ⅳ層	3.3	1.5	0.5	1.8	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
346	42	RA16（中央⑤）	住居埋土	7.4	2.7	0.6	9.7	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
347	43	中央表土一括	住居埋土	4.7	2.0	0.9	5.5	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
348	44	RA16（中央①）	住居埋土	3.6	3.7	0.9	10.1	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
349	45	V22	Ⅲ層	2.2	2.2	0.5	2.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
350	46	東部４区	Ⅲ・Ⅳ層	1.6	2.6	0.4	1.8	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
351	47	RA15（中央⑰）	住居埋土	2.1	2.6	0.7	3.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
352	48	RA15	埋土下部	4.7	2.5	0.8	8.1	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
353	49	Y17V22	Ⅲ層上面	5.9	3.9	1.7	19.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
354	50	Y17W23	Ⅲ層	4.1	4.5	1.2	18.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
355	51	Y17X22	Ⅳ層	4.3	2.8	0.9	7.6	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
356	52	Y17X22	Ⅲ層	5.1	3.2	1.5	20.6	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		—
31-357	81	東部４区	Ⅲ層下面	11.6	(7.8)	5.6	546.3	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	24-357
31-358	60	RA16（中央⑧）	床直	9.4	7.8	4.4	462.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	23-358
359	57	RA15（中央⑪）	住居埋土	8.6	6.0	4.9	350.3	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
360	58	RA15（中央⑪）	住居埋土	(9.7)	9.5	6.7	939.3	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
361	59	RA16（中央②）	住居埋土	11.2	7.4	3.9	469.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
362	61	RA16（中央⑤）	住居埋土	10.0	10.4	7.1	1018.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
363	64	—	—	10.5	10.5	5.6	886.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
364	66	北西斜面	攪乱	9.4	7.9	5.7	576.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—

1　　は紙幅の都合で掲載を省略した。※は推定値、（　　）は残存値。

掲載番号	仮No'	出土地点・遺構名	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重　量（g）	器種	石質	産地	備考	写真図版
365	67	Y17W23	Ⅳ層	10.4	9.4	6.1	810.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
366	68	Y17T24～W24	攪乱	10.4	6.9	4.9	537.2	磨石類	流紋岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	磨石	—
367	69	Y17T24～W24	攪乱	7.6	5.9	5.2	321.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
368	71	調査区中央東部	表土	8.6	4.7	2.9	190.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
369	72	東部２区	Ⅲ層下面	8.4	6.8	4.7	271.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	磨石	—
370	73	東部２区	Ⅲ層下面	11.5	9.0	5.0	647.0	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
371	74	東部３区	Ⅲ層	(12.2)	9.9	6.7	1085.1	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
372	75	東部２区	Ⅲ層下面	9.2	6.0	3.7	324.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
373	76	東部２区	Ⅲ層下面	9.9	7.2	4.5	441.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
374	77	東部３区	Ⅱ層	7.9	7.5	3.7	312.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
375	80	東部２区	Ⅱ層	4.9	4.4	4.2	120.2	磨石類	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	磨石	—
376	83	RA16(中央⑤)	住居埋土	(10.1)	5.1	3.7	364.3	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
377	87	RA15(中央⑪)	住居埋土	14.2	8.0	4.1	724.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
378	91	北西斜面	攪乱	11.0	5.2	3.2	280.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
379	92	東部３区	Ⅳ層	12.8	6.9	3.8	459.7	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
380	94	RA15(中央⑪)	住居埋土	16.3	8.6	3.7	777.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
381	96	Y17V22	Ⅲ層上面	12.6	8.3	5.0	805.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
382	99	Y17V24	Ⅳ層	13.4	9.2	7.7	1380.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—
31-383	85	RA15(中央⑦)	床直	17.8	(7.6)	(3.2)	574.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	24-383
31-384	84	RA16(中央②)	住居埋土	15.5	6.9	3.5	591.4	磨石類	玢岩	北上山地、中生代白亜紀	特殊磨石	24-384
31-385	82	RA15(中央⑩)	住居埋土	15.8	8.8	2.6	571.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	24-385
386	88	RA15(中央⑩)	住居埋土	(10.1)	5.8	2.6	242.6	磨石類	斑岩	北上山地、中生代白亜紀	特殊磨石	—
387	93	東部５区	Ⅳ層	(11.9)	(8.0)	(2.5)	266.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—
388	98	東部２区	Ⅲ層下面	15.7	9.2	(5.5)	899.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—
389	100	東部２区	Ⅱ層	(8.8)	(8.2)	3.8	666.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—
390	101	東部２区	Ⅱ層	(16.9)	(8.1)	(2.6)	425.6	磨石類	玢岩	北上山地、中生代白亜紀	特殊磨石	—
391	102	東部３区	Ⅲ層	(8.0)	6.9	3.7	336.5	磨石類	斑岩	北上山地、中生代白亜紀	特殊磨石	—
392	103	東部３区	Ⅲ層	(9.0)	9.0	3.4	397.5	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—
31-393	62	RA15(中央⑱)	住居埋土	9.6	7.1	4.9	545.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	24-393
31-394	63	RA16(中央⑤)	住居埋土	11.0	6.5	4.1	442.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	24-394
31-395	56	RA15	床直	11.1	8.9	5.0	581.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	24-395
31-396	89	RA15(中央⑫)	床直	17.7	6.9	3.7	646.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	24-396
397	65	北西斜面	攪乱	9.3	6.5	4.3	364.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	—
398	70	Y17V23	Ⅲ層上面	10.3	7.7	5.8	683.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	—
399	78	北西斜面	攪乱	11.7	9.4	4.0	453.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	—
400	79	東部２区	Ⅲ層下面	8.0	8.4	3.9	295.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	凹石	—
401	90	北西斜面	攪乱	12.5	6.1	3.7	433.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	凹石	—
32-402	105	東部２区	Ⅲ層	(24.5)	(24.8)	9.7	6080.0	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀		24-402
403	106	Y17V23	Ⅲ層上面	(19.8)	(21.5)	5.5	1857.1	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀		—
404	108	RA15(中央⑧)	住居埋土	(21.3)	(21.0)	7.4	5990.0	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代		—
405	109	RA15(中央⑦)	床直	(21.0)	(12.6)	6.7	2014.6	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代		—
406	110	東部２区	Ⅱ層	(19.4)	(7.7)	6.7	1465.2	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代		—
407	113	RA15(中央⑧)	床直	(35.5)	(27.0)	11.2	7480.0	台石	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀		—
32-408	201	東部４区	Ⅲ層	9.9	5.0	1.5	108.1	磨製石斧	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-408
32-409	203	RA15	住居埋土	(4.1)	2.3	0.9	15.8	磨製石斧	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-409
32-410	202	Y17T24～W24	攪乱	(6.9)	4.3	2.25	111.5	磨製石斧	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-410
32-411	204	東部２区	Ⅲ層	(3.9)	(2.5)	1.1	17.1	磨製石斧	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-411
32-412	205	RA15(中央⑪)	住居埋土	(13.6)	2.6	(0.6)	11.0	棒状石製品	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-412
32-413	206	Y17X24	Ⅲ層	(8.8)	(3.6)	(0.8)	34.7	棒状石製品	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-413
32-414	207	RA16	床直	8.5	2.0	0.6	16.3	棒状石製品	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		24-414
32-415	86	RA16(中央②)	住居埋土	(5.0)	(5.4)	(2.5)	53.8	斧形石製品	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		24-415
32-416	209	RA15	住居埋土	11.0	4.0	6.0	329.5	三角壕形石製品	流紋岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		24-416
417	114	RA15(中央⑧)	住居埋土	—	—	—	53.7	微細剥片	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		24-417
418	210	東部３区	Ⅲ層	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		24-418
	211	東部２区	Ⅲ層下面	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	212	Y17X24	Ⅳ層	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	213	RA17(中央④)	床直	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	214	東部３区	Ⅲ層	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	215	Y17X23	Ⅲ層	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	216	Y17W23	Ⅲ層下面	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
	217	東部３区	Ⅲ層	—	—	—	未計量	原石	コハク	北上山地、久慈？岩泉？		
419	111	RA15(中央⑩)	住居埋土	—	—	—	3.2	原石	めのう	北上山地、中生代白亜紀		
420	54	RA15(中央⑦)	住居埋土	18.5	6.5	3.5	525.1	打製石斧	頁岩	北上山地、中生代三畳～ジュラ紀		

1 　は紙幅の都合で掲載を省略した。※は推定値、(　　)は残存値。

Ⅴ　まとめ

1　遺構

今回の調査では、縄文時代中期中葉の３棟の竪穴住居跡が重複して検出された。今次調査区は平成５年度に実施された第１次調査の「Ａ区」と、現在の学校グラウンド以北の広がりのある平坦面との間に位置する。地形的に見ると、今次調査区付近は東西それぞれに延びる小谷に挟まれて平坦面が極めて狭隘化している。一次調査の総括では「Ａ区」の北西側が急斜面となっていることから中期集落は以北に展開しないものと推定されていたが、今次調査区で該期の住居跡が検出されたことに加え、県教委の試掘調査ではさらに北の養護学校グラウンドでも複数の竪穴住居跡が確認されていることから、この集落は小谷の発達に伴う狭隘部を越え、より北側の広い平坦面へと連続して展開していた可能性が高いと考えられる。また、楕円形を呈する住居跡の長軸が狭隘な平坦面の伸展方向に平行するように揃えられ、さらに同一地点に３棟が繰り返し建てられている状況をみると、住居の配置には不利と思えるこの地点を選択せざるを得ない何らかの規制が働いたように思われてならない。北側（グラウンド側）には十分な開けた土地がありながらあえて狭小な地点を選択する理由は何だったのか。集落内が過密となったために不適な地点をも利用するに至ったというような合理的な理由、または何らかの定形的設計に基づく集落構造を志向した住居配置の結果、あるいは構成員（世帯）間の取り決め（慣習等）による居住地点の制約など、様々な理由が考えられる。現時点では集落のごく一部を調査したに過ぎず想像の域を出ないが、集落の主要部と思われるグラウンド以北の平坦部の状況が将来明らかになれば、より具体的な解釈が可能となろう。

さて今回の調査で我々が大いに苦しんだのは、竪穴住居跡の埋土の識別が極めて困難だったことである。埋土の主体は地山土層とほとんど区別がつかない褐色土であり、通常の地表面に見られるような黒みを帯びた土は、検出面から床面までの埋土に全く堆積していなかったのだ。出土土器の形態をみても廃絶直後から埋没の完了までは長い時間を経ていないとおもわれた。そこで、まず住居周縁の「周堤」（あるいは屋根？）など、地山土を掘削して上屋構造に用いられた土砂が、崩壊と共に一気に堆積した可能性を想定し解釈を試みた。しかしこの仮説では黒色土の堆積が埋土に全く入らないことを十分に説明できない。住居建築に伴う竪穴の掘削段階から居住期間を経て廃絶後に至るまで、周囲に表土として黒色土が存在したならば、全く埋土に含まれないのはどう考えても不自然だからだ。したがって、当時周囲にはほとんど黒色土が発達していなかったのでは、と考えるに至るのである。現在でも尾根の頂部では表土（黒土）層の発達は乏しいのが一般的だ。だが、住居跡を切っている陥し穴状遺構に黒々としたシルトが大量に堆積していることを見れば、単に地形に起因する現象とは判断できないだろう。そこで集落存続期に黒色土の生成が抑制されるような人為的管理が行われたと仮定してみてはどうか。たとえば集落内において草木の生育を制限するような樹木の伐採・除草・整地等が行われたとしたなら、集落が営まれた一定期間においては黒色土の生成堆積が大幅に抑制されたに違いない。そして集落廃絶後は周辺の植生が変化し樹木等が繁茂、これに伴って黒色土の形成が進み、狩り場となった当地に設置された陥し穴に大量の黒色土が流入したと説明することができるだろう。人間による土地利用の変化に伴って自然環境も変化した痕跡をとらえたのだとしたなら、極めて興味深い事例と言えるだろう。この点についても周辺部における調査の進展、また他の遺跡での類例などから、より詳細な実態が判明することを期待したい。

2　遺物

Ⅰ群土器は縄文時代早期に属するもので、貝殻腹縁文と刺突文が見られる。これらは第１次調査で出土した早期のものと同じく早期中葉で、寺ノ沢遺跡出土土器や白浜・小船平式に比定されるものと考えられる。

Ⅱ群土器は縄文時代中期に属するもので、RA15・16竪穴住居跡と調査区東部の遺物包含層から出土したものが大半を占める。RA15・16出土のⅡ群土器は、遺構の堆積状況から住居廃絶後、半埋没の状態である凹地に一括廃棄されたものであることがわかっている（第８図13・14・27・40・61・62・66・67・78・85)。これらはⅡ群３類（大木８a式）に属するもので、その中でも特に平縁のキャリパー形で、口縁部に山形波状隆帯文が施された深鉢が主体となり、Ⅱ群１・２・４類はほとんど見られない。RA16はRA15によって切られており、遺構の新旧関係は明らかであるが、出土遺物についてはその差は見られない。これは、RA15・16竪穴住居跡への遺物廃棄が、大きな時間差のないうちに行われたことを示していると考えられる。これらの一括廃棄された遺物には、RA15出土の器台(44)や微細剥方（417）も含まれる。

一方、住居埋土中位には遺物が多量に廃棄されていたが、それに比べると竪穴住居跡の床面にはほとんど遺物が残されていなかった。その中で、RA16からは79の深鉢が床面に置かれたように出土している。この深鉢は、住居廃絶時に何らかの意図で、人為的に住居の床面に置かれたものと解される。

調査区東部に形成された遺物包含層では、主にⅢ層の黄褐色土層（Ⅲa層）から遺物が出土している。RA15・16竪穴住居跡の埋土と類似した土層で、同じくⅡ群３類を主体とするが、Ⅱ群１・２類も見られる。Ⅱ群４類は出土していない。東部包含層Ⅱ～Ⅳ層には、Ⅱ群１～３類が混在して包含されており、堆積層と各類との相関関係は把握できなかった。またⅡ群１類（円筒上層式土器）とⅡ群２・３類（大木式土器）との共伴関係を示す資料も見受けられなかった。

調査区西部斜面から出土した土器は攪乱層からではあるが、Ⅱ群４類（大木８b式）を主体としており、RA15～17や東部遺物包含層よりも若干新しいものが見られる。

さて、今回の調査で出土したⅡ群３類は、キャリパー形で、口縁部文様帯に隆帯による山形波状文や渦状文が描かれること、口縁部に弁状突起やＳ字状貼付が見られること、原体圧痕による文様がほとんど見られないことなどから、大木８a式でも比較的新しい段階にあたる大木８a－２式（神原2004）に属するものと思われる。盛岡市内で同時期と考えられる資料が、大館町遺跡、繋遺跡、柿ノ木遺跡などで出土している。紙幅の都合もあり、ここでは他遺跡との比較検討は行なわず、今後の課題としたい。

［引用・参考文献］

阿部勝則　1995『松屋敷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集
阿部勝則　2001「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要』ＸＸ（財）岩埋文
阿部勝則　2003「岩手県における縄文時代中期の剥片集中遺構について」『紀要』ＸＸⅡ（財）岩埋文
岩手大学考古学研究会　1978『大館町遺跡』盛岡市教育委員会
上野猛ほか　1982「繋Ⅴ遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第30集
神原雄一郎　2004「渦巻文様の展開―盛岡の縄文中期土器―」『縄文の彩華―中期の技と美―』盛岡市遺跡の学び館
熊谷常正　1989「北上川中流域における大木８a式土器」『岩手県立博物館研究報告』第７号
高橋憲太郎　1982『柿ノ木遺跡』　盛岡市教育委員会
盛岡市教育委員会　1997『大館町遺跡群　大館町遺跡―平成６・７年度発掘調査概報』

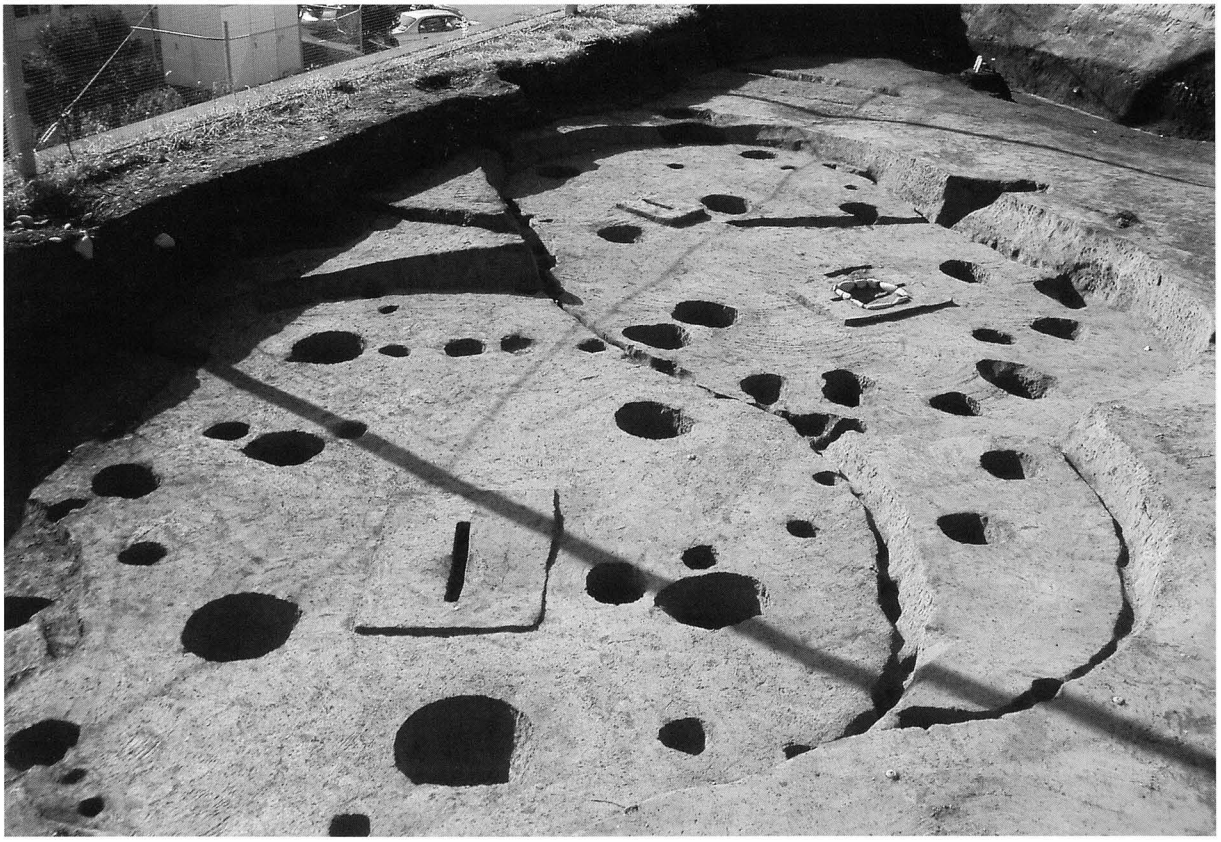
写　真　図　版

調査開始時の状況（西から）

調査開始時の状況（北東から）

写真図版１　調査開始時の状況

調査区全景（西から）



調査区中央部の竪穴住居跡群（北東から）

写真図版２　調査区全景

ＲＡ１５竪穴住居跡　全景（南西から）

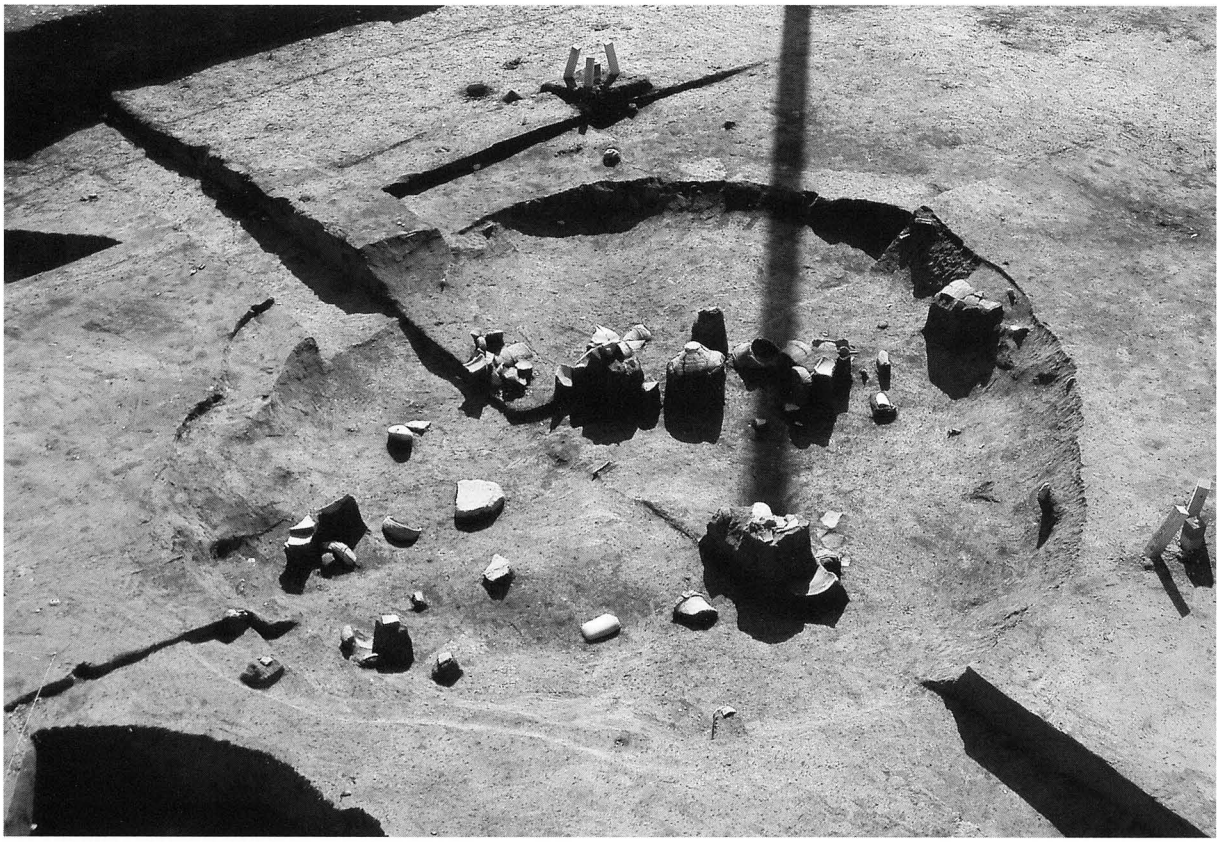
ＲＡ１５竪穴住居跡　床面除去後（北東から）

写真図版３　ＲＡ１５竪穴住居跡（１）

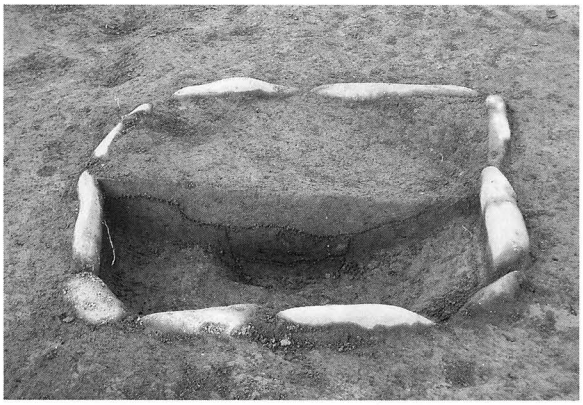
ＲＡ１５竪穴住居跡　断面（埋土上部　南東から）

ＲＡ１５竪穴住居跡　断面（埋土中～下部　南西から）

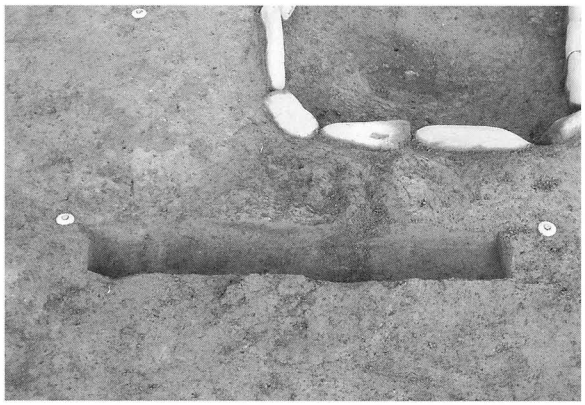
写真図版４　ＲＡ１５竪穴住居跡（２）



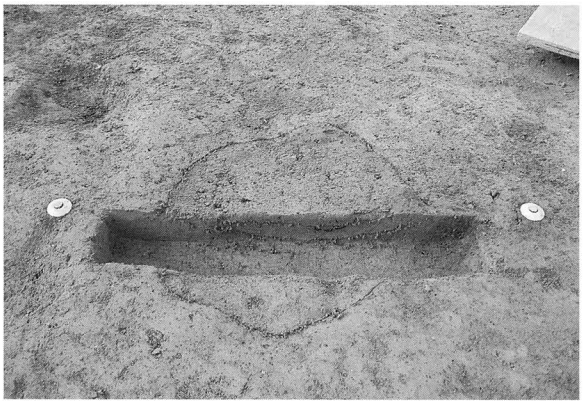
ＲＡ１５竪穴住居跡　遺物出土状況（北東から）



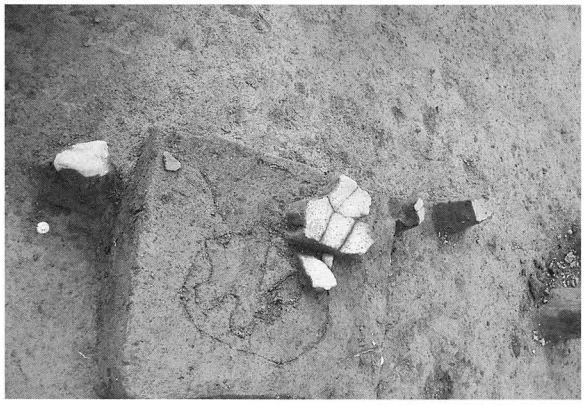
炉跡ａ



炉跡ｂ



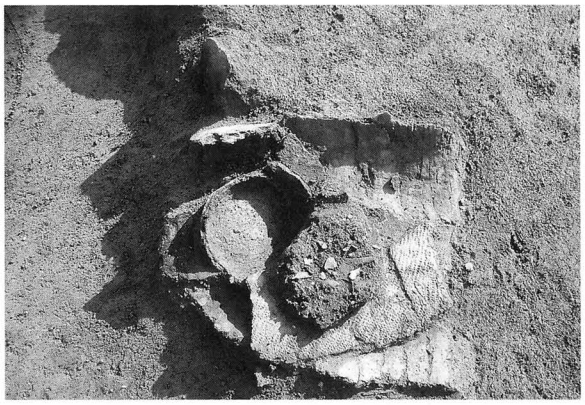
炉跡ｃ



ＲＦ０２焼土

写真図版５　ＲＡ１５竪穴住居跡（３）

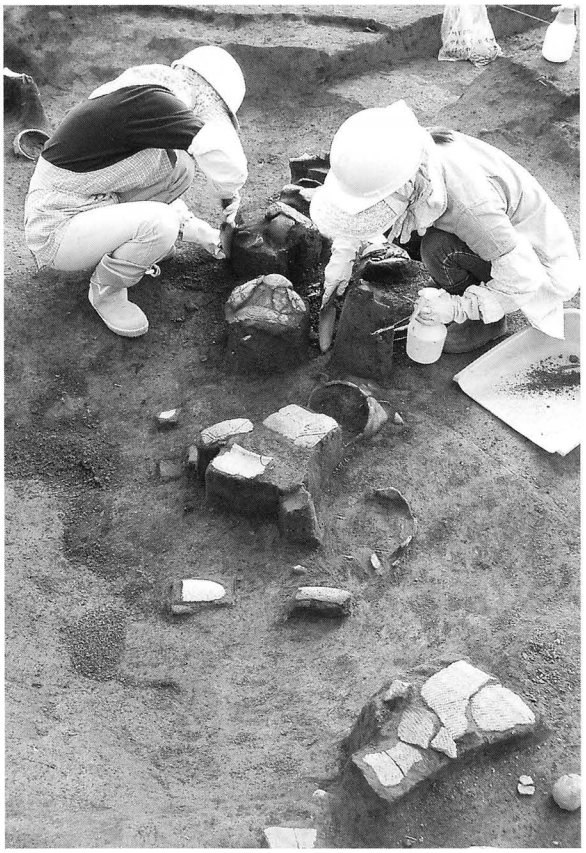
微細剥片の集中（検出初段階）



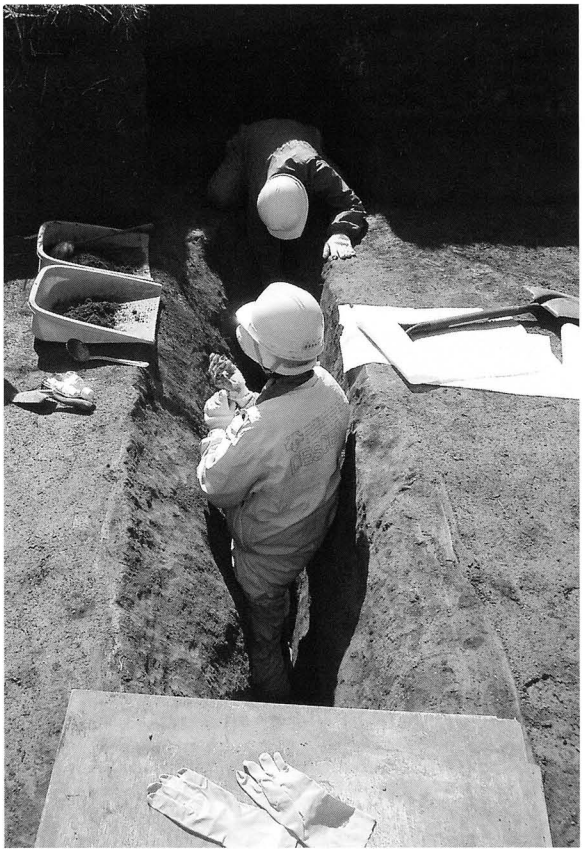
微細剥片の集中（周辺掘り下げ後）

遺物の出土状況（ＲＡ１５）

住居跡の精査風景（ＲＡ１５）



住居跡の精査風景（ＲＡ１５）



陥し穴の精査風景（ＲＤ１４）

写真図版６　ＲＡ１５竪穴住居跡（４）・作業風景

ＲＡ１６竪穴住居跡　全景（南西から）

ＲＡ１６竪穴住居跡　床面除去後（北東から）

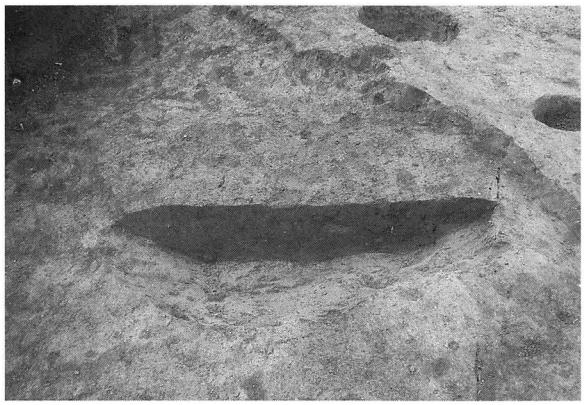
写真図版７　ＲＡ１６竪穴住居跡（１）

ＲＡ１６竪穴住居跡　断面（東から）

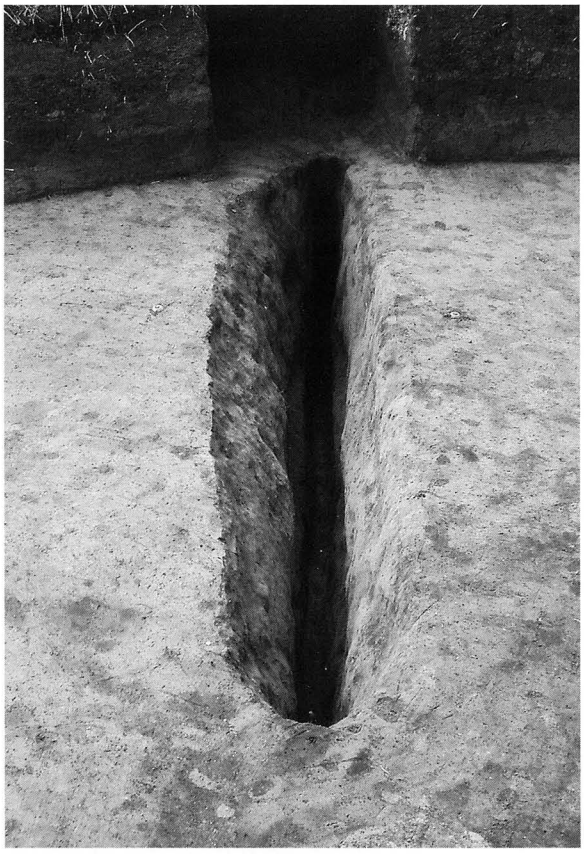
ＲＡ１６竪穴住居跡　遺物出土状況（北東から）

写真図版８　ＲＡ１６竪穴住居跡（２）

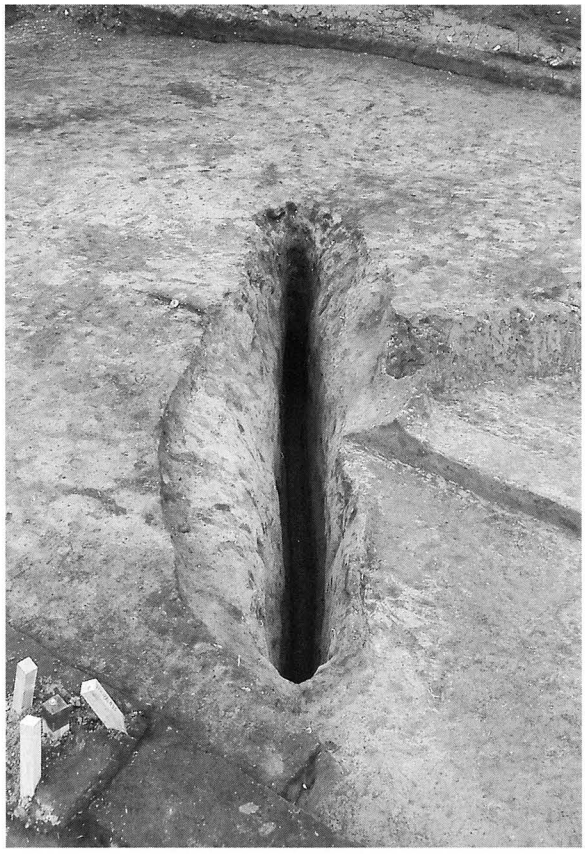
ＲＤ１３土坑（北東から）



ＲＤ１３土坑断面（北東から）

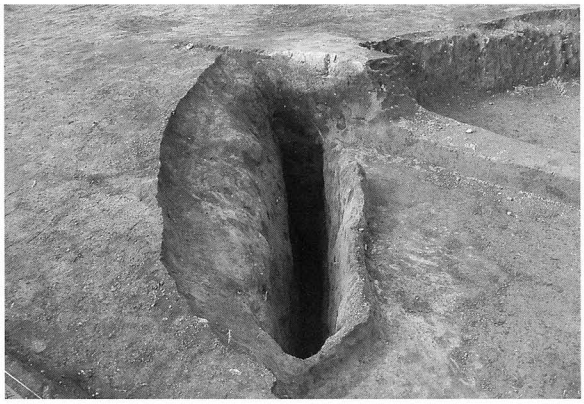


ＲＤ１４陥し穴（北から）



ＲＤ１５陥し穴（南東から）

ＲＤ１４陥し穴　断面



ＲＤ１５陥し穴　断面

写真図版９　土坑・陥し穴

中央～東部の出土状況

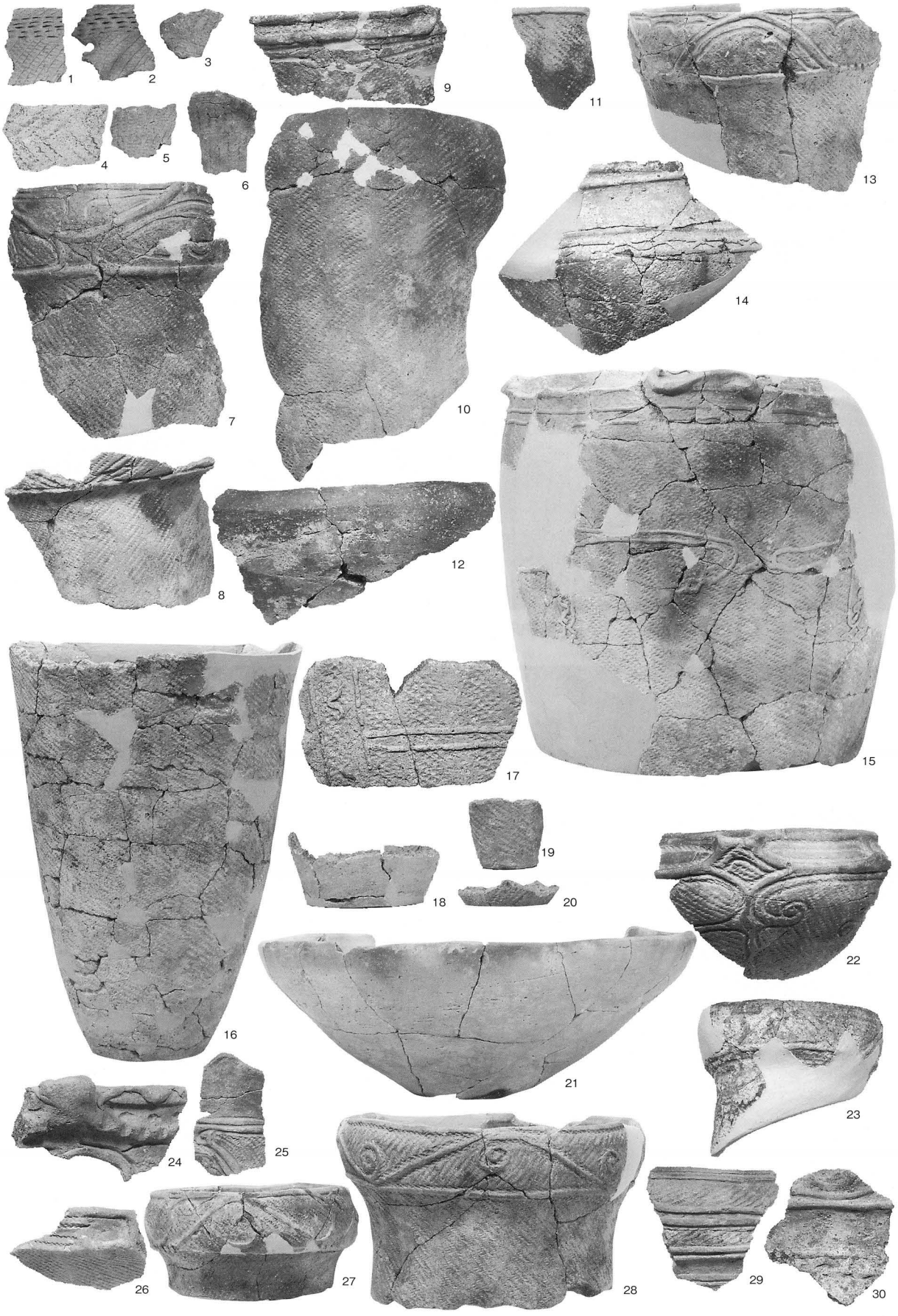
東端部の出土状況

写真図版10　捨て場

中央部～東部の堆積状況

東端部の堆積状況

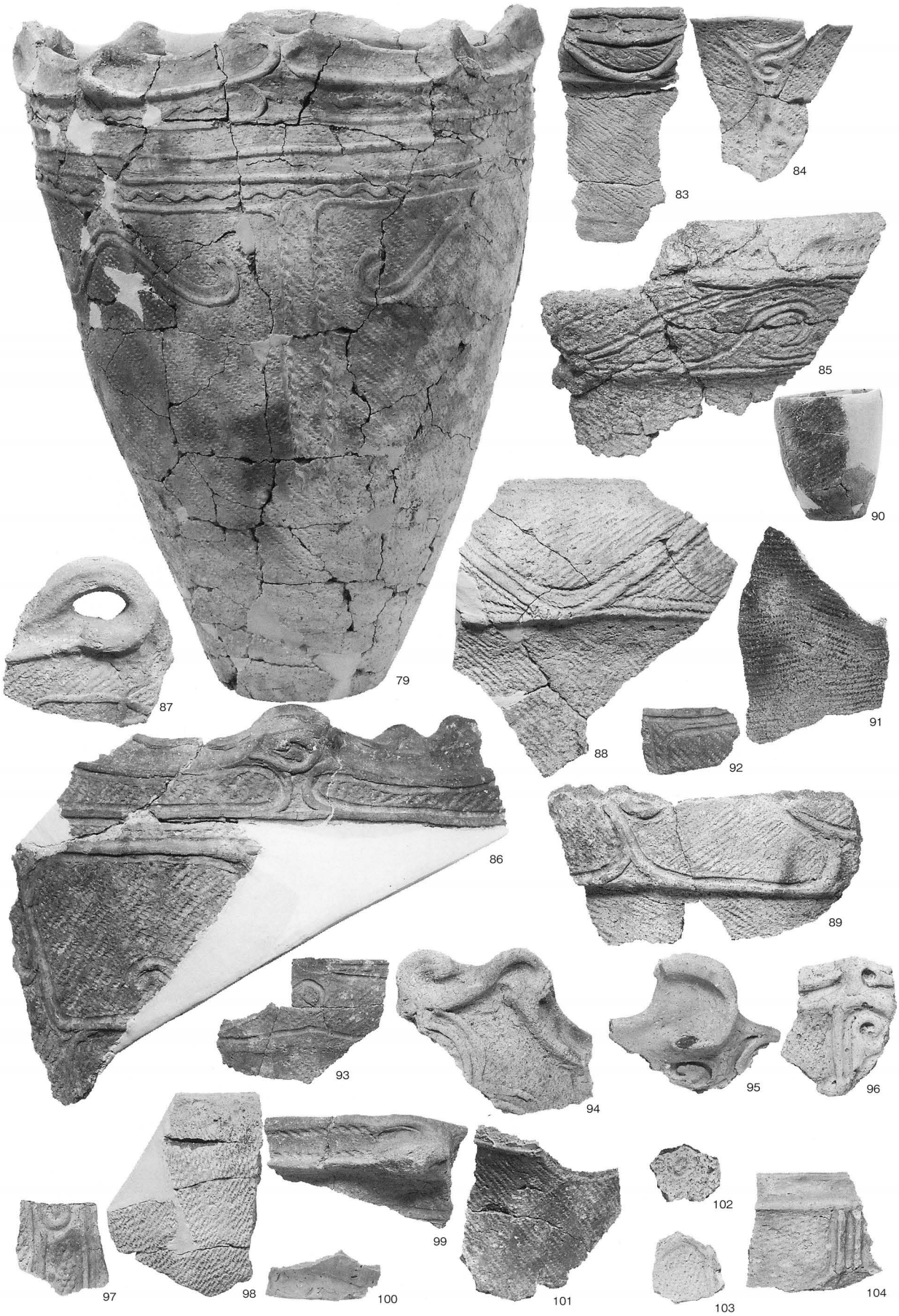
写真図版11　基本土層



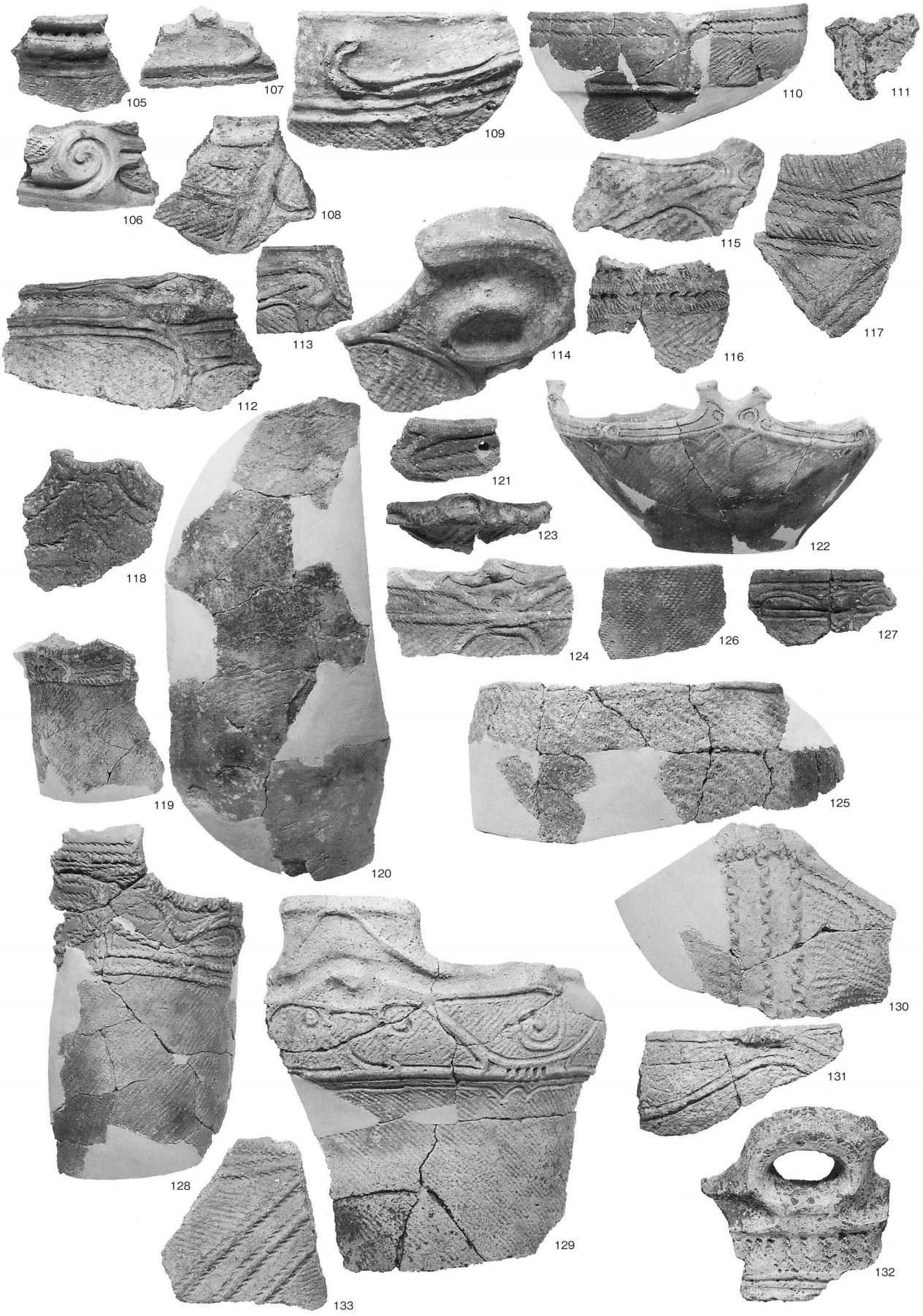
写真図版12　出土遺物（1）

写真図版13　出土遺物（2）

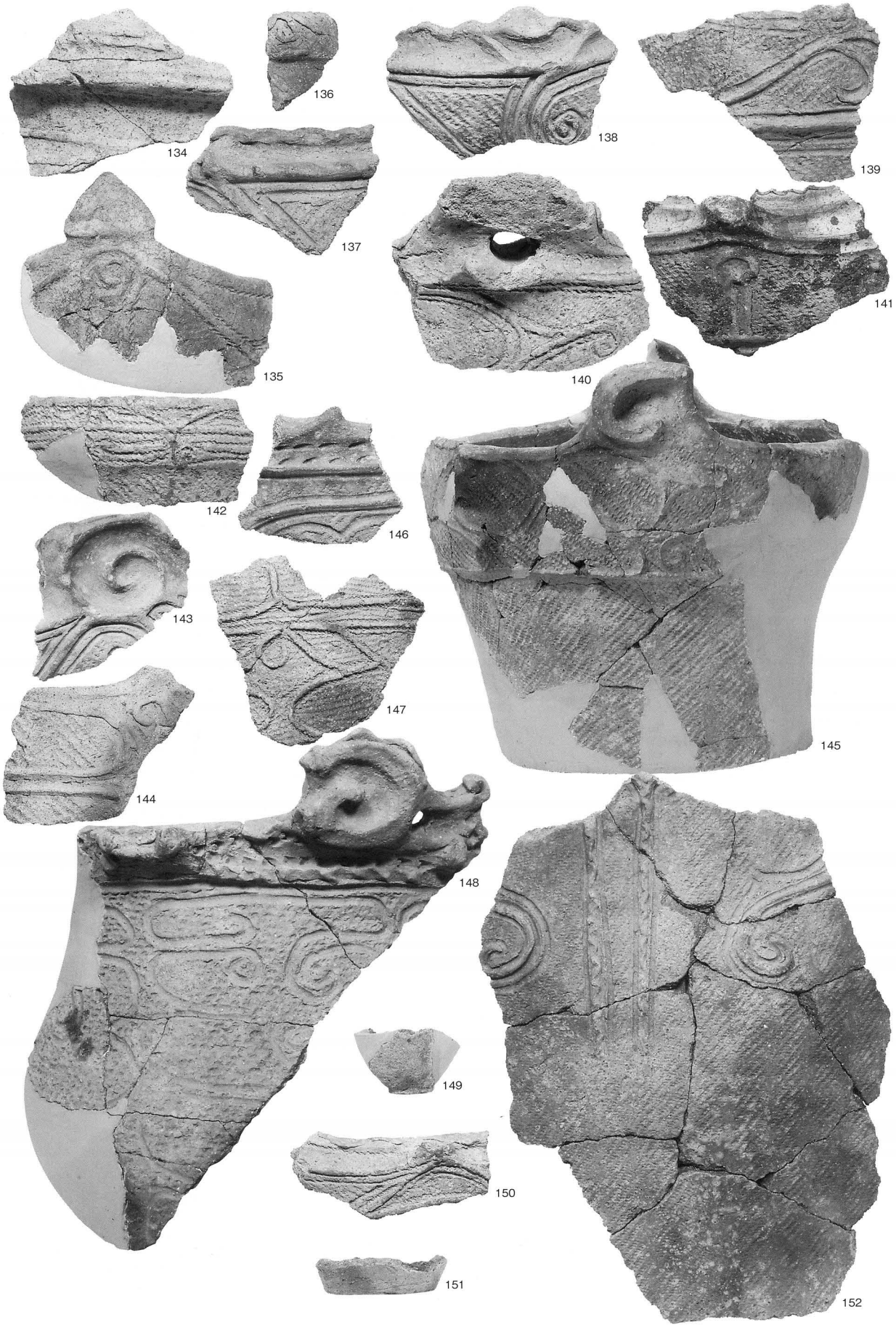
写真図版14　出土遺物（3）



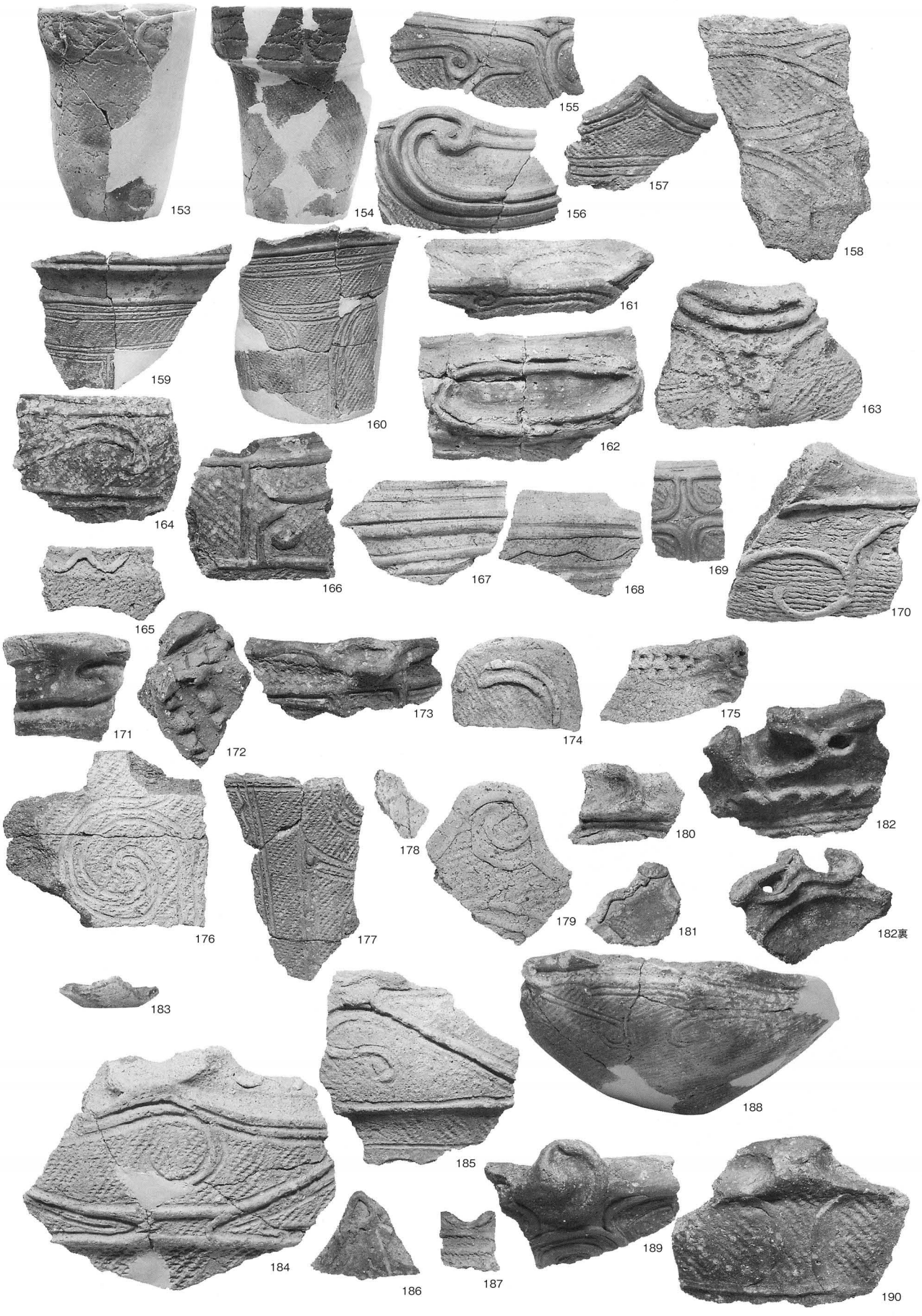
写真図版15　出土遺物（4）



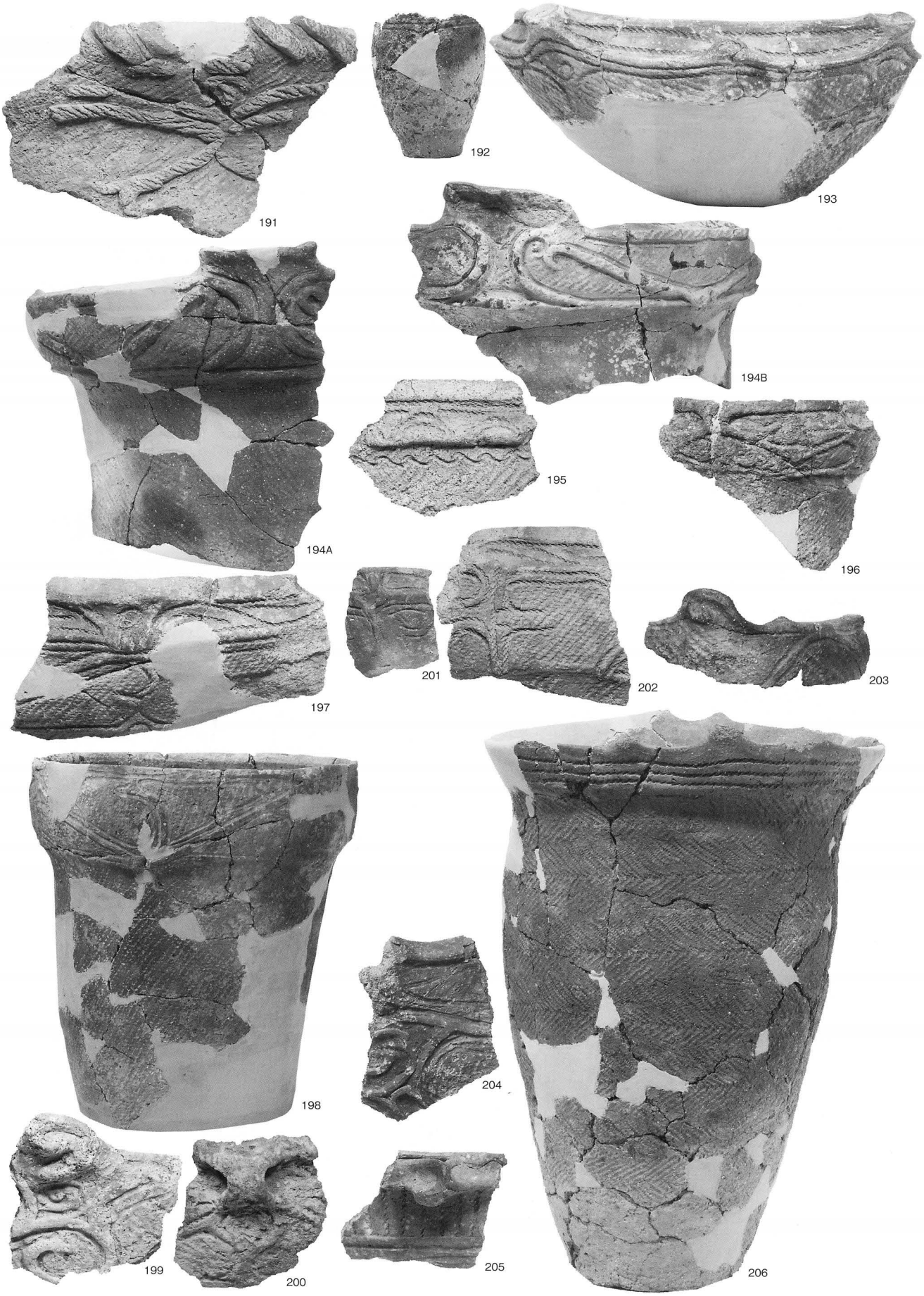
写真図版16　出土遺物（5）



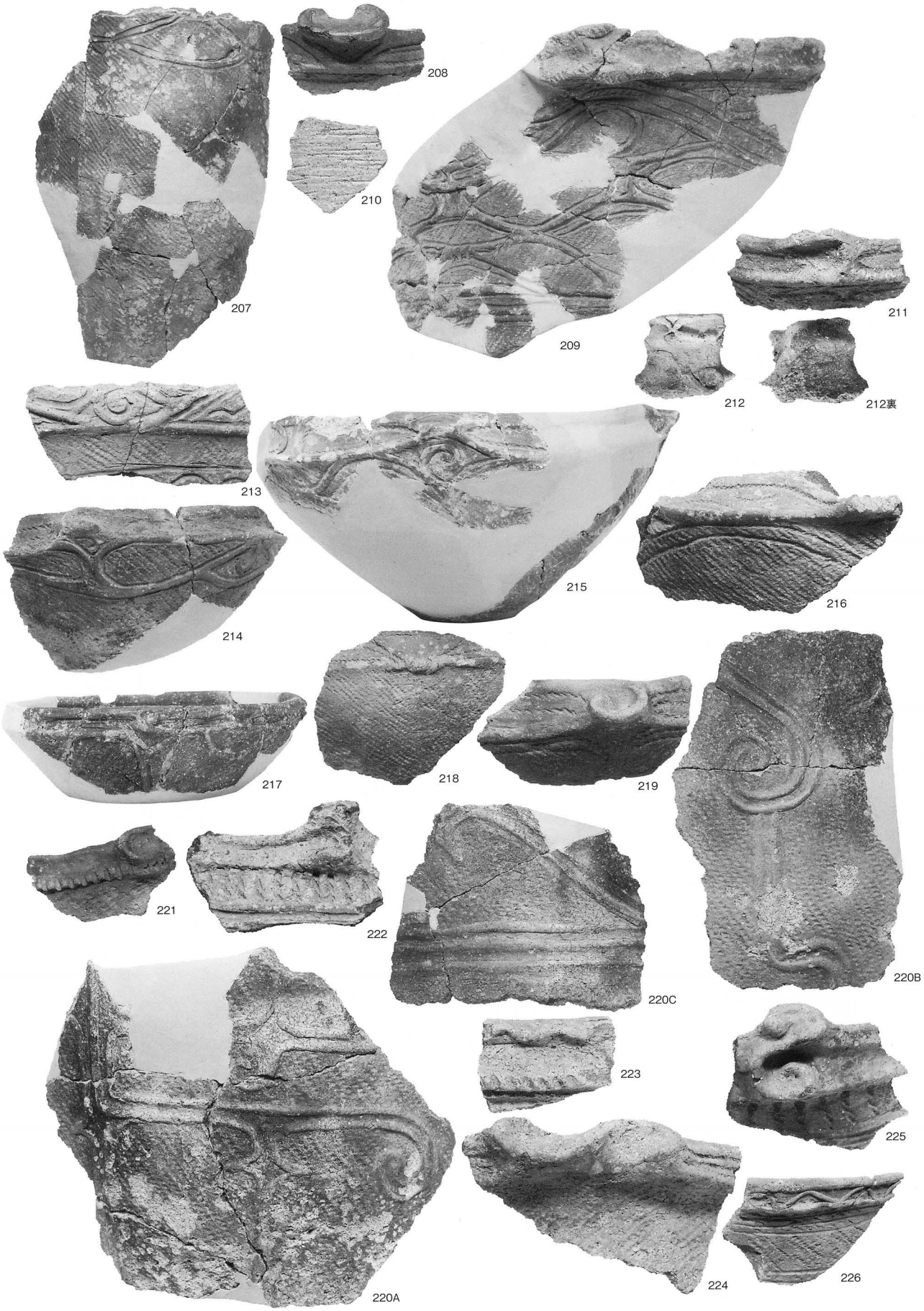
写真図版17　出土遺物（6）



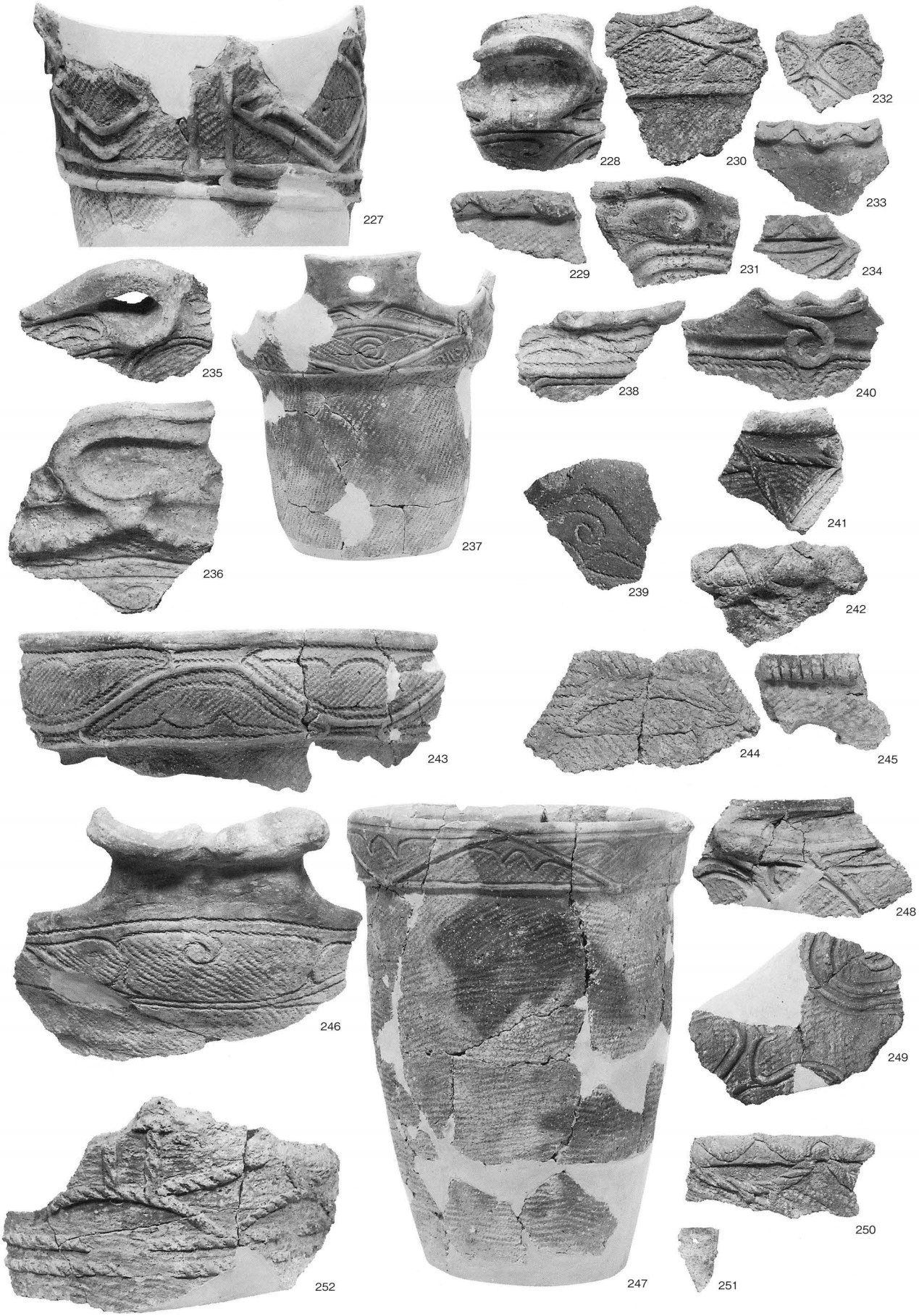
写真図版18　出土遺物（7）



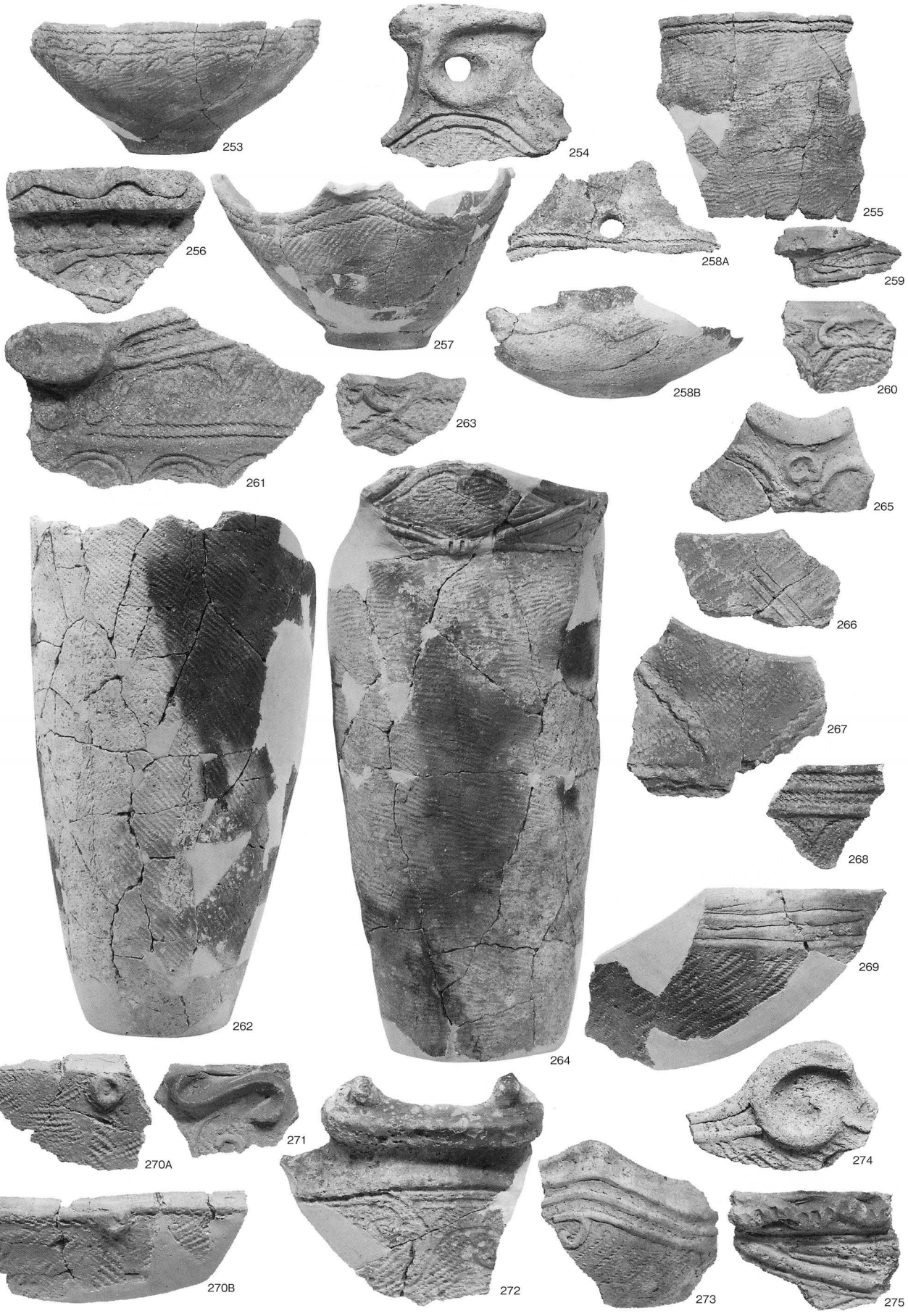
写真図版19　出土遺物（8）



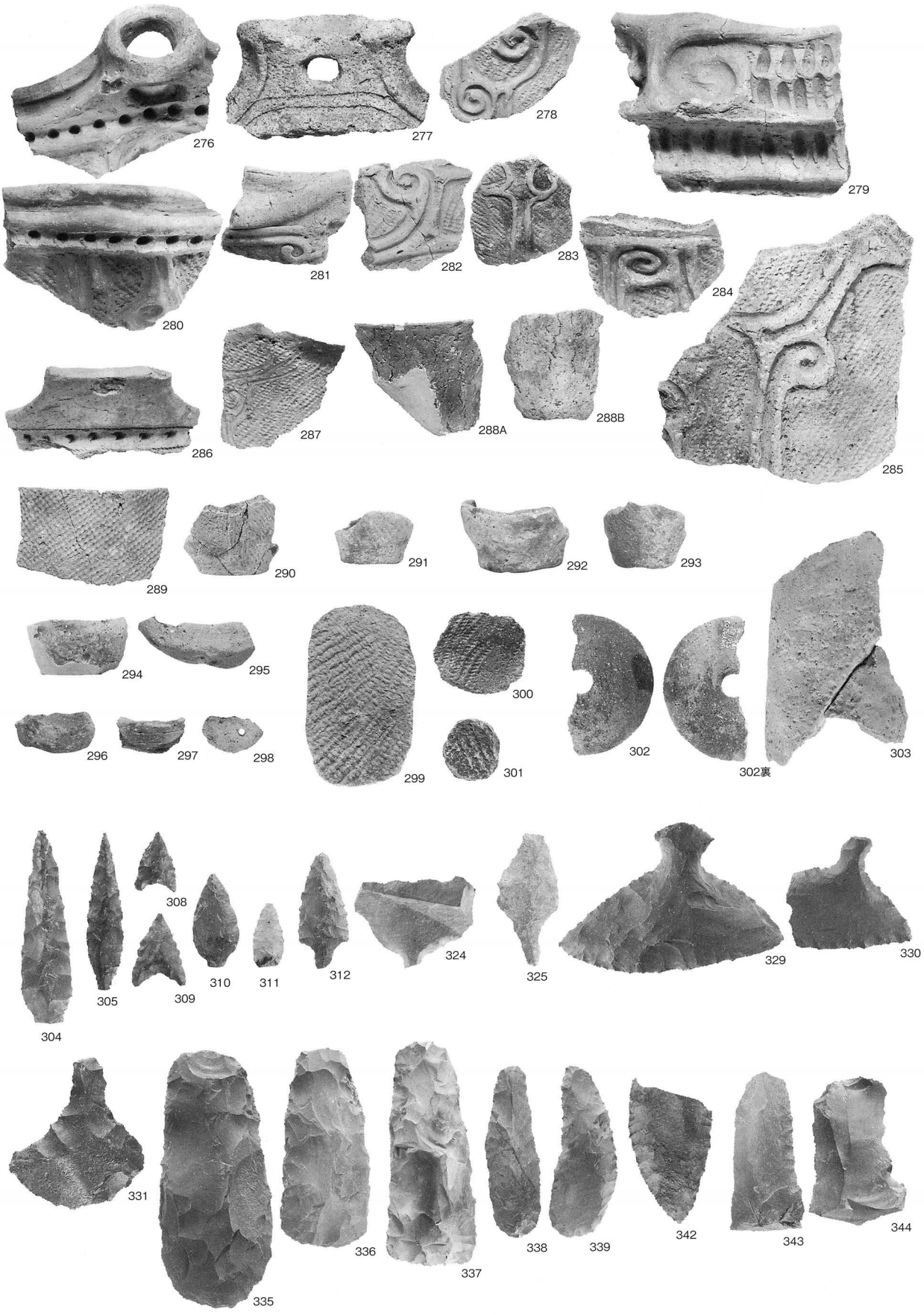
写真図版20　出土遺物（9）



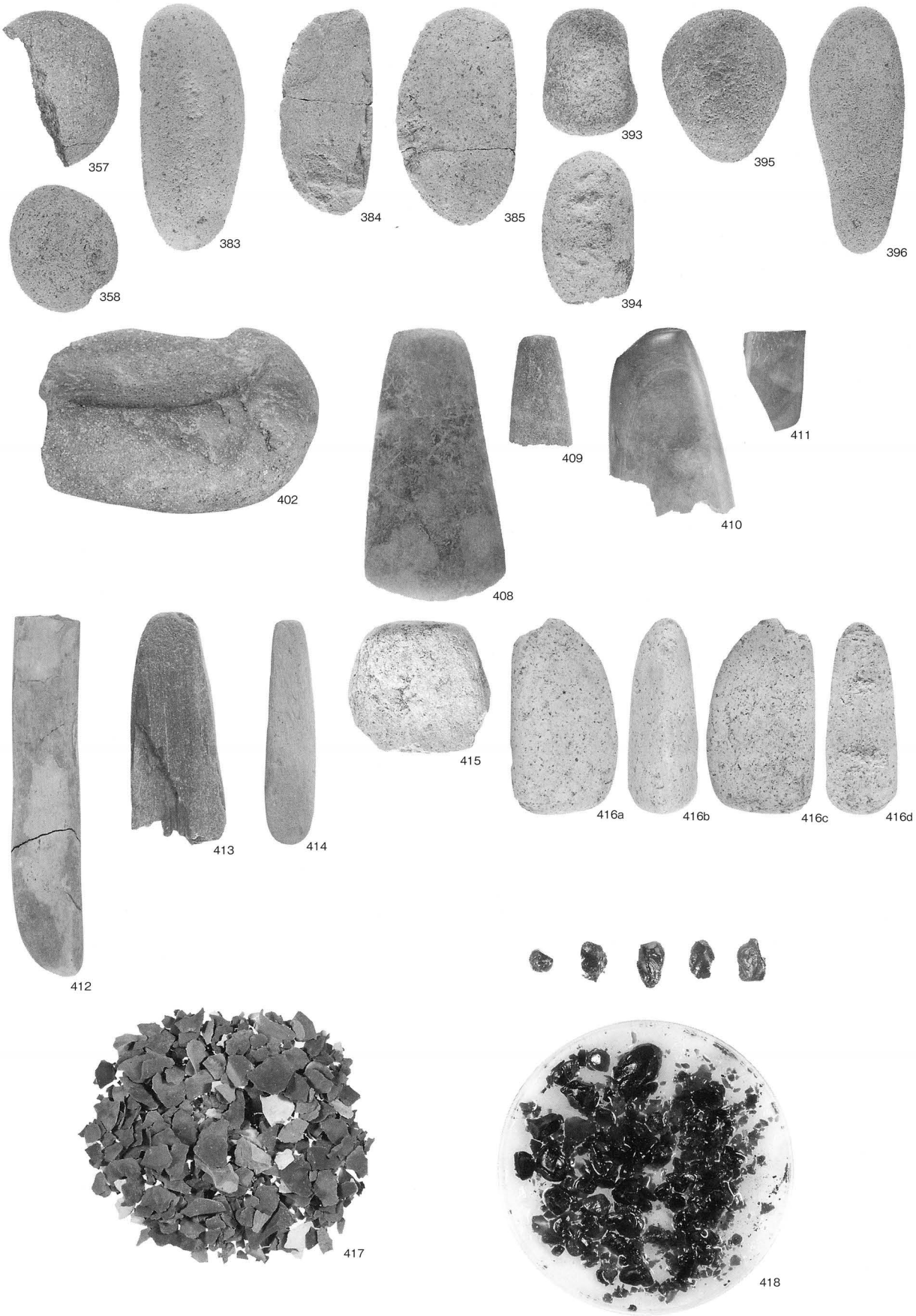
写真図版21　出土遺物（10）



写真図版22　出土遺物（11）



写真図版23　出土遺物（12）



写真図版24　出土遺物（13）

報告書抄録

ふりがな	まつやしきいせきだいにじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	松屋敷遺跡第２次発掘調査報告書
副書名	県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第545集
編著者名	村上拓・横山寛剛
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185　　TEL（019）638－9001
発行年月日	2008年12月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
松屋敷遺跡 （まつやしきいせき）	岩手県盛岡市上田字松屋敷11－25ほか （いわてけんもりおかしうえだあざまつやしき）	032018	KE86－2378	39度45分27秒	141度9分33秒	2007.09.03～2007.12.05	780㎡	県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松屋敷遺跡 （第２次）	集落跡	縄文時代	竪穴住居(中期)３棟 土坑(中期)　１基 焼土(中期)　１基 陥し穴状遺構 ２基 捨て場	縄文土器・石器・土製品	

要約	尾根頂部に相当する調査区中央で、縄文時代中期（大木８a式期主体）の竪穴住居跡３棟が重複して検出された。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっており、このうち南東側斜面には捨て場が形成されていた。出土遺物の大半は縄文時代中期に属するが、ごくわずかに数片の早期土器（貝殻文）破片を含む。また、住居跡埋土や捨て場からは多数の琥珀細片が出土した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第545集

松屋敷遺跡第２次発掘調査報告書

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成20年12月22日

発　行　平成20年12月26日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話（019）638－9001

発　行　岩手県教育委員会事務局教育企画室
〒028－8570　岩手県盛岡市内丸10番１号
電話（019）651－3111
(財)岩手県文化振興事業団
〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電話（019）638－9001

印　刷　有限会社　内　海　印　刷
盛岡営業所　〒020－0853　岩手県盛岡市清水町８－８－108
電話（019）622－0288
本　　社　〒026－0041　岩手県釜石市上中島町４－２－４
電話（0193）23－5511

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2008